

94-14

纂編雄熊岡高 士博學法
書叢究研學政農學濟經

冊 一 第

農學士 枋内禮次著

舊加賀藩田地割制度

東北帝國大學
農科大學内

カ
メ
ラ
會

贈
有島先生

纂編雄熊岡高士博學法
書叢究研學政農學濟經

冊一第

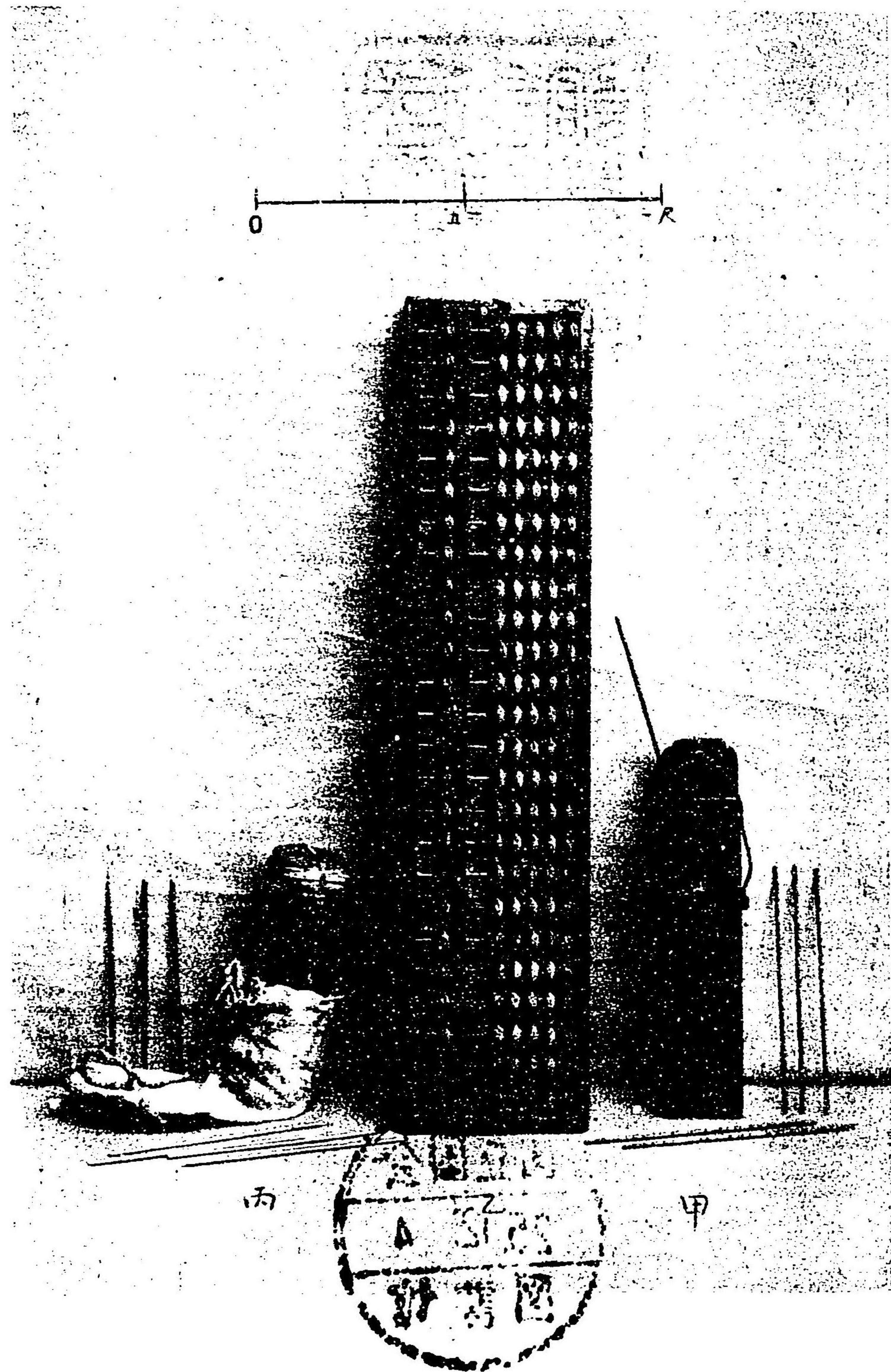
農學士 枋内禮次著

舊加賀藩田地割制度

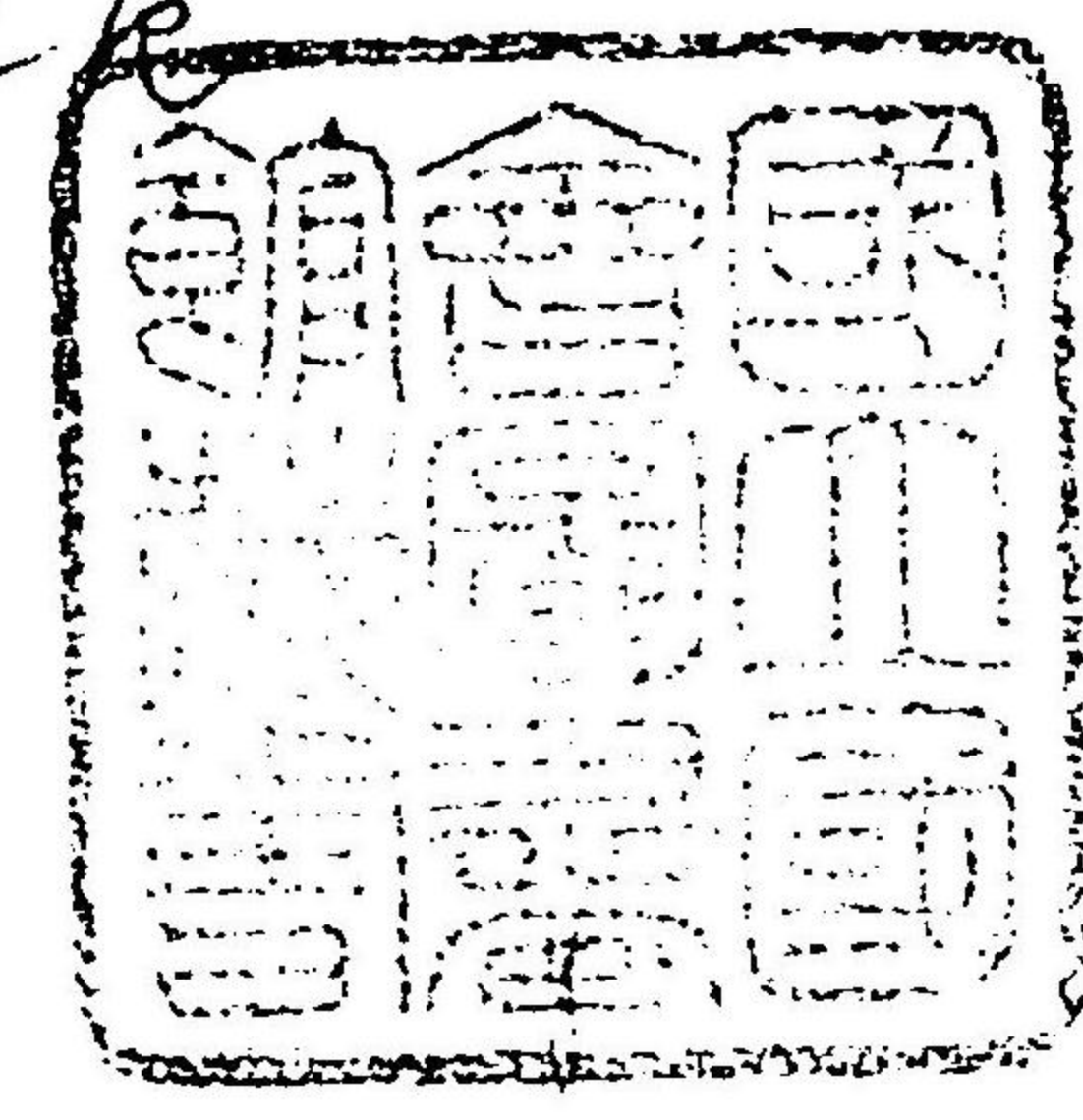
東北帝國大學
農科大學内

カメラ會

著者



611.22
Tob 432



218989

圖解

越中國射水郡西條組北島村現今西條村大字北島村

甲 園箱 檜製 長七寸七分巾壹寸九分五厘
園金 鐵製 長六寸一分徑一分 十四本

乙 村算盤 木製 長二尺五分五厘巾四寸七分五厘

桁數 二十五桁

同國同郡同組長慶寺村現今同村大字長慶寺村

丙 園箱 竹製 麻布袋ニテ包ム直徑壹寸七分
園金 真鍮製 長四寸五分徑五厘 二十六本

發刊ノ辭

近時我國ニ於ケル經濟學ノ研究ハ著シキ發展ヲナシ既ニ一般的研究ニ至リテハ見ルニ足ルベキモノ少シトセズ然レトモ不幸ニシテ未ダ特種的研究ノ時代ニ進マザルナリ是レ斯學ニ志スモノ、常ニ遺憾トスル所ナリ抑經濟學ノ進步ハ演習的研究ニ待ツ所大ナリ本大學ノ前身タル札幌農學校ニ於テ明治二十七年佐藤昌介及新渡戸稻造ノ兩博士ニ依リ始メテ農政學及農業經濟學ニ關スル演習ノ開設セラレシモ其ノ原因蓋シ茲ニ在リ是レ恐クハ我國ニ於ケル經濟學演習ノ嚆矢ナラン余ハ茲ニ本研究叢書ヲ發刊シ主トシテ本大學ニ於ケル經濟學殊ニ農政學ニ關スル演習的研究ノ結果ヲ公ニセントス若シ幾分ナリ

トモ我が學界ニ貢獻スルヲ得ンカ實ニ望外ノ幸ナリ

明治四十四年四月

編纂者識

序

本書ハ東北帝國大學農科大學教授高岡博士ノ指導ノ下ニ明治四十二年夏越中國諸郡及東京ニ於テ調査セシ材料ヲ基礎トシ翌四十三年四月ニ至ル研究ノ結果ニシテ曩ニ卒業論文トシテ同大學ニ提出セシモノナリ

本論ノ如キハ其名狹クシテ其實極メテ廣ク連關スル所隨テ多シ然レドモ此等ニ亘テ一々論究ヲ試ムルハ余ノ本志ニ非ルガ故ニ余ハ研究ノ範圍ヲ專ラ農政學ニ限ラシコトヲ力メタリ而カモ一方ニハ余ノ特ニ法制學及史學ニ關スル智識ニ乏シキアリ他方ニハ又參考書並ニ材料ノ蒐集ニ多大ノ困難ヲ感ゼルモノアリテ爲ニ十分ニ研究ノ歩ヲ進メ難カリシ憾アリ隨テ本論ノ缺陷ヤ尠ナカラザルベキヲ懼ル

余ハ第一章ニ於テ本邦ニ於ケル耕地共有制ニ關スル既ニ諸家ノ手ニ成リシ調査ヲ列舉シ以テ是レガ比較研究ニ備ヘ更ニ進ミテ主題ニ入ルニ先チ特ニ第二章トシテ加賀前田藩ノ農政一般ヲ述ベタリ此章ハ本論全局ノ組立ヲ亂スガ如キ觀

アルモ斯ル順次ヲ以テ論述スルニ非ズンバ第三章以下ヲ論ズルニ當リ之ガ理解ヲ困難ナラシムル恐アルヲ思ヘバナリ 徳川時代ニ於ケル諸藩農政ノ研究ハ夫レ自身多大ノ興味ト價值トヲ齎スト雖余ガ茲ニ加賀藩農政ヲ論ズルニ當リ期スル所ハ僅ニ本論ノ豫備的研究タラシメント欲スルノミ第四章ニ論ゼル本制度ノ起源ト持續トハ第六章農政學ノ見地ヨリセル本制度ノ研究ト相連關スルモノニシテ余ガ最モ苦心セシ所ナリ 第五章本制度ノ梗概ヲ論ズルニ當リテハ加賀藩封内廣クシテ多クノ異例アルヲ思ハシムルガ故ニ余ハ其一般ヲ述ベテ敢テ偏セザランコトヲ力メタリト雖尙遺漏ノ甚ダ多カラシク懼ル

余ハ本論ノ起草ニ際シ有益ナル材料ト調査ノ便宜トヲ與ヘラレタル諸氏懇篤ナル指導ヲ垂レラレタル佐藤高岡兩博士並ニ價值アル材料ヲ割愛セラレタル學友丹羽七郎氏ニ對シ茲ニ深厚ナル謝意ヲ表ス

明治四十四年二月

枋内禮次識

參考書目錄

- | | |
|---------|------------|
| 藤田幽谷著 | 勸農或問 |
| 萩生徂徠著 | 政談 |
| 新井白石著 | 藩翰譜 |
| 横山由清著 | 田制篇 |
| 小宮山空進原輯 | 増補田園類說 |
| 小宮山昌秀著 | 農政坐右 |
| 万尾時春著 | 勸農固本錄 |
| 土屋又三郎著 | 耕稼春秋 |
| 大石久敬著 | 地方凡例錄 |
| 大月忠興補訂 | 地方落穂集 |
| 加藤高文著 | 地方大概集 |
| 横井時冬著 | 大日本不動産法沿革史 |

同 日本商業史
 野中準編 大日本租稅志
 農商務省編 大日本農史
 同 大日本農政類編
 同 農事調查表
 有賀長雄著 增訂日本古代法釋義
 穗積陳重著 五人組制度
 高岡熊雄譯 農政學
 福田徳三著 日本經濟史論
 同 經濟學研究
 星野恒著 史學叢說
 有島武郎著 鎌倉幕府ノ農政(稿本)
 大久保敬著 水戸烈公ノ農政(稿本)
 河田嗣郎著 家族制度ノ發達

加賀藩史編輯所編松雲公
 篠島久太郎著 越中史略
 石崎謙遺稿 加賀藩租稅志
 同 舊記假纂
 同 加賀藩民事志
 武部敏行撰 改作始末聞書
 同 改作始末聞書追加
 石黒氏藏 家事由緒等公用雜記
 同 田地割制度
 折橋氏藏 郡事摘要
 稿本 改作方御條目
 同 廳事通載
 同 司農典
 同 十村舊記留

同	十村物語
同	御那方舊記
同	御那方舊例
同	御國御改作起本
同	改作方格帳
同	加能越改作方舊例
同	租稅零解
同	異本三守御譜
同	系譜備考

Ashley, Surveys Historic and Economic.

Baden—Powell B. H., The Landsystem of British India.

—— Village Communities in India.

de Coulanges F., Origin of Property in Land.

—— Ancient City.

Engels, F., Ursprung der Familie, des Privateigentums.

Von der Goltz, Geschichte der deutschen Landwirtschaft.

Gomme, The Village Community.

Hanssen, G., Agrarhistorische Abhandlungen.

Kropotkin, P., Mutual Aid.

Lafargue, P., Evolution of Property.

Lamprecht, K., Das deutsche Wirtschaftsleben im Mittelalter.

de Laveleye, E.,——Bücher, Das Ureigentum.

Maine, H. S., Village Communities in the East & West.

Meitzen, A., Siedlung und Agrarwesen der Westgermanen und Ostgermanen etc.

Morgan, L. H., Ancient Society.

Ota—Nitobe, Ueber den japanischen Grundbesitz, dessen Verteilung und landwirtschaftliche

Verwertung.

Roscher, System der Volkswirtschaft.

Seeborn, English Village Community.
Wallace, M., Russia.
Conrad, Handwörterbuch der Staatswissenschaften.

舊加賀藩田地割制度目次

第一章	日本ニ於ケル耕地共有制度	一
第一節	日本古代ノ耕地共有制度	一
第二節	日本ニ於ケル狹義ノ耕地共有制度 (地割制度)	六
一	西南地方ノ耕地共有制度	
二	東北ニ於ケル耕地共有制度	
第二章	加賀藩ノ農政	一〇
第一節	本藩農政一般	一〇
第二節	改作法施行以前ノ農政	二三
第三節	改作法	二六
一	其由來	
二	組織及機關	

第四節	施行セラレタル改作法	五七
一	土地ニ對スル政策—農民ノ權利	
二	租稅ニ對スル政策—農民ノ義務	
第三章	加賀藩ニ於ケル田地割制度ノ名稱	九六
第四章	田地割制度ノ起滅持續及廢滅	九八
第一節	起源	九八
一	發生ノ年代	
二	發生ノ由來	
第二節	持續ト廢滅	一〇六
第三節	本制度ノ起源ニ關スル批判	一二一
第五章	本制度ノ梗概	一二四
第一節	割替期	一二九

第二節	分割ノ標準	一三七
第三節	役割	一四四
第四節	割替ノ順序	一四八
一	出願	
二	定書作製	
三	竿初メ	
四	測量及分割	
五	分配	
六	報告書作製	
第六章	農政學上ヨリ見タル本制度	一八五

附 錄

一	享和元年九月越中國射水郡西條組長慶寺村御田地割定書	
---	---------------------------	--

二 明治四年九月同定書
三 天保十年二月同御田地割仕田畑等惣步數合盛上
申帳

四

舊加賀藩田地割制度



農學士 枋内禮次 著

第一章 日本ニ於ケル耕地共有制度

第一節 日本古代ノ耕地共有制度

本邦上古ノ歴史ハ茫漠トシテ詳カナラズ殊ニ有史以前ノ事實ニ至テハ僅ニ神話傳説ニ據ルノ外ナクシテ多クハ荒唐無稽信憑スルニ足ラズ大和民族ノ大移動ヲ以テ始マル正史ト雖元明天皇和銅五年始メテ文字ヲ以テ編マレタルノミ爾後ノ記録史料見ル可キモノアリト雖又史家ノ疑ヲ容ル、餘地鮮シトセズ況ンヤ神武天皇東征以後漢文字輸入ニ至ル期間ノ變遷ヲ加ノ古來歴史ノ記載スル所專ラ政事及軍事ニ限ラル之レ蓋シ經濟史農史ノ研究ニ任ズルモノ先ヅ史料ノ採集ト其眞否ノ判断ニ大ナル困難ヲ感スル所以ナリ

日本ニ於ケル耕地共有制度 日本古代ノ耕地共有制度

本邦上古ノ土地制度ニ關シ信憑ス可キ充分ノ材料ナシ況ンヤ耕作制度ニ關スルモノニ於テヲ僅ニ他ノ事實ニ徴シテ立言スルノミ 本邦土地制度ニ關スル新紀元ヲ大化二年トス蓋シ大化改新ハ本邦諸般ノ法制文物ニ大變動ヲ與ヘ上古ヲ中古ニ導クノ關門ナリ本邦土地制度ノ如キ亦其班ニ入ル

法學博士福田德三氏ハ其著日本經濟史論ニ於テ大化以前本邦土地耕作ハ耕地共有ノ制ニヨリトナセリ 曰ク大和民族ハ既ニ神代ニ於テ漁獵ヨリ農業ヘノ推移ヲ始メタリトテ

天皇の大氏以外の小氏は凡て殆んど漁獵と農業のみを營めり今之に關する史的證左を缺くと雖凡ての水田及陸田は氏人によりて共同に耕され其收穫物か各氏人の間に分配せられたるものと推斷して誤なかるべし次の時代に至り大化改新により成文律となりたる耕地共有の制度は單に支那の制度を模倣したるのみにあらずして支那の制を採用し既存の制度を參酌して定めたるものと見ることを當を得たるものゝ如し

ト氏ハ日本歴史家ノ研究未タ此ノ點ニ充分ナラサルガ故ニ一家ノ想像ニヨレルトナスノミ 果シテ然リトセバ之レ廣義ノ耕地共有制度ニシテ當時人口少ナク個人性ノ發達著シカラス土地ニ對スル確乎タル權利ノ要求ナク又農業技術ノ幼稚ナル移動農業ノ行ハレタル或ハ又家族共產制ノ跡アル時代ニ於テ而カモ氏ノ如キ血族的關係カ特種ノ意義ヲ有セシ時代ニ於テハ該制度ノ存在ヲ想像スル難キニアラス然レモ余ハ未ダ之レヲ斷言スルノ研究ニ接セサルモノナリ 頃者河田嗣郎氏日本ノ氏族組織ヲ論シテ本邦上世ノ氏族組織ハ所謂宇遲ナルモノニシテ古代ノ社會組織ノ命脈ヲナシ單ニ一個ノ血統組織タルニ止マラス兼ネテ又一個ノ共同經濟體ヲ爲セリ後ニ至リ整然タル行政組織ヲ形成スルヤ經濟上ノ共同團體タルノ職分ヲ失ヒ而カモ大化革新ニ及ンテ地方郡縣ノ制トナルヤ又行政組織ノ實ヲ失ヒ單ニ血族的組織タルニ止マルニ至レリトナセリ然レトモ氏ハ多クヲ其共同經濟組織ニ就キテ曰ハス特ニ土地ニ對スル權利ノ消長ニ言及スルモノナシ 余ハ本邦古代ノ土地制度ニ關シテ學者ノ研究ヲ期待スルモノニシテ爰ニ論述スルノ材料ニ乏シキヲ憾ミトス

大化革新ハ上古ヲ中古ニ導クノ關門ナリ本邦土地制度ハ爰ニ一新紀元ヲ劃ス

土地ノ最高所有權ヲ天皇ニ置キ其使用收益ノ權ヲ戶ニ與ヘ其收益ヨリ租ヲ徵シ所謂班田收授ノ法ハ大化改新ニ始マル之レ蓋シ夏周ノ制ヲ模倣セルモノナルモ之レニ關シ多少ノ疑アリ本邦土地制度ノ一新紀元ナリキ余ハ班田制ノ内容ヲ論セントスルモノニアラス然レトモ動モスレハ班田制ヲ以テ耕地共有制ノ一トナスガ如キ誤レル論者アルコトヲ注意セサルベカラズ班田制ハ耕地共有ノ制度ニアラサルナリ 福田氏カ大化改新ニヨリ成文律トナリタル耕地共有ノ制度ハ云々(前掲文中)ト耕地共有ナル文字ヲ用キタルハ誤ナリ蓋シ班田制ニ於ケル大化二年以來慣例トシテ存シ大寶令ニヨリテ成文トナリタル所謂六年一回ノ班年ニハ凡テノ人ニ新タニ班授セラルルニ非スシテ新タニ收授ス可キ變動ヲ生セルモノニノミ對シ行フニアリ即チ一度班授セラレタル口分田ハ其人ノ死ニ至ル迄佃食ヲ許サル、モノニシテ所謂狹義ノ耕地共有制ノ定期割替トハ類似スルガ如クニシテ全ク其趣ヲ異ニセルモノナリ 又班田法ニテハ一地域ニ對シ其地域内ノ農民ヲ一團トシテ取扱フモノニアラス即チ何等共同の關係農民間ニ存セサルモノナリ之等ハシーボームガ英國ノ村落共有制(Village Community)ヲ羅馬制度ノ影

響ヲ受ケタル莊園制度ニ起源ストナセル所說ニ相通スルガ如クニシテ事實ハ全ク異ナル組織ナルコトヲ示ス即チ大化改新後ニ於ケル班田制ハマイツェンノ所謂廣義ニモ狹義ニモ耕地共有制度ニアラサルナリ 以上大化以前以後ニ關スルモノヲ要スルニ大化以前ニ於テハ廣義ノ耕地共有制存セシカ如キモ未ダ史料ノ據ル可キモノナク大化以後所謂班田ノ制ニ至リテハ耕地共有制トハ全ク交渉ナキモノナリ 然ルニ今日ニ至リ歐米ニ於ケル最近ノ科學的研究ガ本邦學界ニ入ルニ及ビ極メテ近キ過去ニ於テ耕地共有ノ制度ガ本邦ニモ存セシコト知ラル、ニ至リ其調査研究二三ニシテ止マラス而カモ本邦ノ歴史ハ二千五百餘年ヲ閱シ文物制度又備ハリ農業技術ノ進步社會組織ノ變遷等ハ假令遠キ過去ニ於テ廣義ノ耕地共有制存セシトスルモ最早既ニ之レヲ許容セズ近キ過去ニ於テ存セシハ狹義ノ耕地共有制ナリシコト蓋シ數ノ常ナルノミ余ハ更ニ進ンテ次節ニ本邦ニ於ケル狹義ノ該制度ノ研究ノ一般ヲ述ベシ

第二節 日本ニ於ケル狹義ノ耕地共有制度

(地割制度)

極メテ近キ過去ニ於テ本邦ニ定期割替ニヨル所謂狹義ノ耕地共有制度即地割制度存シキ之レヲ地理的ニ區分スル時ハ

- 一 西南地方
- 二 東北地方

ノ二者トナル西南地方トハ琉球及薩摩地方ヲ云ヒ東北地方トハ關東(潮來地方)及北陸ノ諸地方ヲ指ス

今此等地方ニ於ケル耕地共有制度ノ梗概ヲ叙セン

- 一 西南地方ノ耕地共有制度

琉球地方ノ地割制度

琉球地方ニ於テハ定期割替ニヨル耕地共有制存シ明治三十二年三月法律第五十九號沖繩縣土地整理法ノ公布セラレシ當時ニ及ヘリ 俵孫一氏ノ所謂

「村内各人ノ資力ト勞力トヲ考查シ能ク土地ノ耕作ニ堪ヘ負擔ヲ皆濟シ得ルノ割合ヲ立テ耕地ヲ分配ス其分配ヲ稱シテ地割ト云フ而シテ資力ト勞力トハ歲月ヲ經ルト共ニ村内各家ノ狀況ヲ異ニシ公平ヲ欠クヲ以テ或ル年限ヲ過ル時ハ其現時ノ狀況ニヨリ更ニ分配ノ割合ヲ變更シテ耕作セシム之レヲ稱シテ地割替ト云フ」

之レナリ地割替又代易法ト呼ブモノアリ之レ琉球地方ニ於ケル原語ニアラズシテ制度ノ性質ヨリ名ケタルモノ、如シ土人ハ之レヲ地割ト呼ブ

此地割制度ニ關シテハ上記法律ノ公布ノ前後ニ於テ研究多ク就中學術的研究ヲ試ミタルハ文學博士内田銀藏氏ニシテ氏ハ該法律制定ノ當時ニ當リシガ故ニ學術的研究ノ外ニ特ニ實際問題トシテ該制存廢ノ可否ヲモ併セ論スルニ至リシナリ又俵孫一氏ハ詳細ナル調査ノ下ニ有益ナル材料ヲ公ニセリ

余ハ該制度ノ内容ノ詳細ヲ爰ニ述ベントスルモノニアラズ蓋シ兩氏ノ所說ハ舉ケテ國家學會雜誌明治三十一年度分ニ詳ナレバナリ唯内田氏ノ言ヲ借リテ次ノ四點ヲ掲ケテ概念ヲ與ヘンノミ曰ク

要するに百姓地の制は

(い)土地を團體の共同所持とし

(ろ)定期割換を行ひて團體員に班給し

(は)土地の永賣を禁し

(に)租税は團體の共同負擔とす

耕地共有制ニ關シテ最も重要ニシテ且趣味アルハ則チ其起源ニ關スル研究ナリ聊カ數言ヲ爰ニ費サントス 福田徳三氏ハ大化改新ニヨル班田收授ノ制ハ周唐ノ法ヲ模倣セルモノナルモ之レ上古ノ(廣義ノ)耕地共有制ト結合シテナリタルモノトナシ文化進マサリシ沖繩ノ地割制ハ上古ニ於ケル耕地共有制度ノ遺制ニアラズヤトナセリ 内田氏ハ本制ノ起源ニ關シ最も力ヲ致シシモ據ル可キノ徵證資料未ダアラサルガ故ニ斷言ノ限リニアラストナシ慶長十四年島津氏琉球ヲ征服シ翌十五年竿入奉行十四人其他ノ役員百六十八人ヲ遣シ本島ヲ始メ離島先島ニ至ルマデ悉ク檢地ヲ行ヒタル際編製セル二百七十三冊ノ檢地帳ニ見ルニ村ヲ上中下々ノ四級ニ分チ其反別草高ヲ始メ種々ノ事項ヲ詳細ニ記入シ且一筆

毎ニ使用者名ヲ掲ケタルモ別ニ百姓地(割替ヲ行フ共有地)又ハ仕明地私有地等ノ區別ナキヨリ考フル時ハ當時ノ耕地ハ凡テ後世ノ百姓地ニ當リ後世ノ仕明地ハ後新開セラレテ私有トナリシモノナル可ク當時一筆毎ニ使用者名ヲ掲ケタル事實ハ之レ未タ地割制ノ實施ナカリシヲ證スルモノ、如キモ而カモ未ダ遽ニ斷言ス可キニアラスト述べ尙此起源ニ關シテ充分ノ調査ヲ要ストナセリ 俵孫一氏ノ公ニセル所ニヨルニ氏ハ極メテ詳細ナル調査ヲ試ミ其起源ニ關シテハ慶長ノ檢地帳ニ耕地反別ノ下村民各自ノ氏名ヲ記載シアルガ故ニ當時ハ未ダ此制ナク享保十九年制定ノ農務帳天保三年御物奉行ヨリ田地奉行へ達シタル文書ニヨル時ハ其以前ニ此制度ノ存セシコトヲ知ルベシトナセリ

薩摩ニ於ケル耕地共有制度

薩摩ニ於ケル耕地共有制度ハ未ダ世ニ知ラレズ學友丹羽七郎氏去ル明治四十二年同地方ニ至リ其一般ヲ調査セラル公表スルニ先チ余ノ爲メニ割愛シテ之レヲ示サル邊僻ノ地此等ノ好材料ヲ求メ難シ余ハ同氏ニ深厚ナル謝意ヲ表シテ左ニ之ヲ掲ケントス

薩摩ニ於テ耕地共有制ノ行ハレタル範圍ヲ明ニセズ余が見タルハ半島ノ南端揖宿郡地方ナリ

此地方ノ行政組織ヲ見ルニ中央政府ノ地方局タル郡奉行所ノ下ニアリテ郡ノ下ニ郷其下ニ村其下ニ門アリ郡ハ行政上ノ區域ヲ爲サズ

郷ニハ必ズ郷士アリ以上直領地ノ制度私領地即島津氏臣下ノ領地ニアリテハ多少異ナル郷士ハ一村ヲ爲ス之レヲ都城ト稱シ郷士ヲ都城ノ士其住スル所

ヲ麓ト云フ或漢學若ハ府元ノ字當ルト云フ郷ノ役人ニハ郷士ヲ任スル郷士年寄アリ或ハ單ニ年寄トモ云ヒ古文書ニヨレハカッ腰トモ云ヒタリ其數郷ニヨリテ

一定セサレトモ山川揖宿兩村ニテハ四名アリテ合議體ノ機關ナリ其下ニ與頭アリテ之ヲ助ク其下ニ横目地頭横目又小觸等アリ

村ヲ治ムルモノハ庄屋ナリ庄屋ハ郷士ナルコトアリ農民ナルコトアリ上ノ命スル所ナリ其下ニ名主アリ總代ノ如ク下百姓ヲ代表シ選出サル、モノナリ

村ノ下ニ門アリ門ヲ治ムルヲ名頭又ハ乙名ト云フ其下ニ百姓アリ之レヲ名子ト云フ一村ノ名子名頭土地ヲ共有ニス百姓高之ナリ(或ハ單ニ土地使用權ヲ共

有ニスト云フ可キカ)

郷ハ一定ノ地域ヲ限ル村モ亦然リ門ノ耕ス土地ハ村中ニ散在ス百姓ノ外士族モ耕地共有ヲ爲ス

百姓ガ耕作ヲ爲シ得ルハ彼等ガ賦役ヲ爲スガ爲ナリ賦役ノ負擔者ヲ要夫又ハ現夫トモ云フ要夫ハ百姓ノ十五歳乃至六十歳ノ男子ナリ十五歳乃至六十歳ヲ要夫年限ト云フ十五歳ヲ起要夫六十歳ヲ要夫拂ト云フ

次ニ耕地分配ノ狀況ヲ見ルニ耕地ハ要夫ノ間ニ分配シ耕作スルナリ此要夫ガ耕ス所ノ百姓高ハ村ニヨリテ定マル即村高定マル村ノ下ノ門ハ其數村ニヨリテ一定ス

一村内ノ門ハ平等ニ門高又ハ作職高ト云フヲ有ス例ヘバ山川郷大山村ノ門ハ凡三十八石ツ、ヲ有シタルナリ而シテ一村内ニアリテハ各門ノ耕地配當ノ單位(獨語ノフーフエ Hite) 數同一ナリ即山川郷福本村ニテハ每門二十二分アリ大山村(山川郷ノ中)ニハ每門九人分アリタルガ如シ
斯クノ如ク要夫ノ數ト耕地配當ノ單位數トハ常ニ必ズシモ同一ナルヲ得サ

ル譯ナリ然ルニ此地方ノ状態ハ人少クシテ土地多カリシヲ以テ或門ニテ要夫ノ數耕地配當ノ單位數ヲ超ユルコトアレハ他ノ要夫ノ數少ナキ門ノ土地ヲ耕シタルナリ即一村ノ名頭ハ割換期ノ正月ニ集リテ協議シ此要夫ト耕地配當單位數トノ差ヲ正シタル上土地ノ殘レル門アレバ其ハ他ノ門ガ引受ケ名子ノ要夫ニ分配耕作セシメタリ

以上ハ高ナル抽象的權利ノ分配ノ狀況ナルガ土地ノ分配如何ト云フニ先ツ村ノ土地ヲ經濟的狀態ニ應シ門ニ平等ニ分チ更ニ之レヲ門内ニ分チタリ高取次又ハ高割ト云フ

地割換期ハ八年五年三年等アリ此地割換ヲ高取次ト云フ高取次ニハ村全體ノ共有地ヲ名頭ガ集リテ門ニ分配シ門ノ土地ヲ名子ガ更ニ分配スルモノナリ共ニ圖ヲ用フ

上納米ハ高一石ニ就テ四斗一升乃至五斗位ナリ上納米ハ一ハ村藏入米ニシテ他ハ門附ノ士族ニ入ル

藩制ノ録ノニ二種アリ一ハ村藏米ヨリ扶持ヲ給スルモノニテ切米ト云フ他

ハ百姓高ノ中ヨリ給地サレタルモノニテ之レヲ門附ト云フ

村ハ上納ニ對シテ共同責任共同擔保ナリ然レトモ怠納者アレバ先ツ親類其負擔ヲ救フ親類能ハサレバ五人組之レヲ負フ五人組能ハサレバ門門能ハサレバ村其責ニ任ジタルモノナリ

一方ニ共同擔保アレバ他方ニ怠納者ノ制裁ナキヲ得ス即門村等ノ厄介ニナリタルモノハ代償トシテ下人ニ身ヲ賣ルノ習慣アリタルナリ下人ハ多クハ郷士ニ其身ヲ賣ルナリ下人ト雖當時ノ法制上ニハ更ニ賣買セラル、コトアラサリシナリ

以上ハ平民ノ共有地ナルガ士族高モ亦共有地ナリ

士族ノ共有地ハ麓ノ村ノ外其郷中ノ各村ニ分散シアリ此ノ他村ニアルモノヲ内面高(浮面カ)ト云フ此共有地ヲ分配スルニハ百姓ト異ナリ各家ニ一定ノ高アリ楫宿郷ニテハ更ニ郷士ヲ組ニ分チ一組凡十五名トセリ又數家集マリテ一組トナルモノモアリタルナリ即土地ヲ先ツ組ニ分チ更ニ組内ニテ之ヲ分配セルナリ

郷士ハ此共有地ヲ自ラ耕スコト少ク多クハ下人ヲ用キ且郷中ノ要夫ヨリ四月代トシテ勞働者ヲ得タルモノナリ

以上ノ共有地ノ外ニ私有地アリ

一 仕明持止(仕明抱地トモ云フ)

士族ガ開墾シテ私有シタルモノ

二 抱地

軍功等ニヨリテ給サレ私有スルモノ

三 永作

名頭庄屋等カ門高、村高ノ中ヨリトリテ割更ヲ爲サ、ルモノ

庄屋名頭株ト共ニ賣買セラレタリ

而シテ百姓地ハ賣買シ得サリシコト勿論ニシテ(宅地ハ賣買セラレタリ)百姓ニハ自由移動ノ權全然ナキナリ

藩ハ百姓高中ヨリ土地ヲ收用スルコトアリタレトモ極メテ稀ナリ

又百姓ヲ一村ヨリ他へ移シ又ハ他ヨリ入レタルコト稀ニアリ

又耕作スベキ土地ヲ得ルハ要夫ガ有スル權利ノ如ク考ヘラル、モ事實ハ然ラズシテ百姓ハ土地ヲ得ルコトヲ嫌忌セリ之レ上納米ノ苦痛アリシヲ以テナリ 即土地ヲ得ルハ一ノ義務ノ如キノ感ヲ有シタリ

次ニ此地割制度ハ何時頃ヨリ起リシカ其起源明ナラズ今日ノ村門高ヲ定メタルハ享保年代ノ大檢地ナリ之大御司配換ト稱ス此時ニ門高ヲ定メタルナリ之レヲ門割ト云フ享保以前ニハ如何ナリシヤハ不明ナリ

二 東北ニ於ケル耕地共有制度

東北ニ於テ耕地共有制ノ存在セシ地トシテ吾人ニ知ラル、モノヲ舉レバ潮來及北陸ノ地方トス潮來地方ニ於ケルモノニ關シテハ内田銀藏氏ノ調査アリト云フモ同氏ノ調査研究未ダ公表セラレザルヲ以テ其詳細ヲ知ル能ハズ依テ余ハ茲ニ北陸地方割地制度ニ關スル過去ノ研究一般ヲ述ベントス蓋シ余ガ調査研究ト最モ密接ナル關係ヲ有シ且比較研究ニ資スル處多キモノト信ズレバナリ

北陸地方割地制度ニ關シテハ地方凡例錄ノ著者既ニ筆ヲ染メタリ又地方大概集ニ載スル所全然彼ト同一文章ナリ之レ地方凡例錄ヨリ轉載セルモノナル可シ

地方凡例録ニ曰ク

一 割地之事

是は水腐地新田場等にあることにて田方に字なく壹の割貳の割三の割など、段々村々の廣狹に應し何拾割にも番附にて分け置假令は壹の割は五反歩貳の割は壹町歩と檢地を受くる時は割地にいたし繩を受くることなり此割方は上中下水腐のなき場所と年々水腐する場所と割合せ百姓の持高に應じ年季を立て地所を割替るなり假令は五個年の内何右工門は水損なく宜しき場所を多く持たせ何兵衛は水損下田の處を多く與へて其年季内を持たせ置又切替には善惡を入違ひに持替させて總百姓に甲乙なきやうに割合事なり依而銘々の持高は極りはありといへども此場所は此者の地所と定まりたる義なし水腐場は右の通りに割替に致さずしては田所に至りて甲乙出来水腐地許り持たる百姓は潰れに及ふに付村中一統に相立べき爲めに割地に致すことなり……下越後邊は多分割地なり右體の場所にては田畑に字ありて割地にてなき村を名田

の村と唱ふ又關東も水場には割地の村ある也

之レ越後ノ割地制ハ一村ヲ村民ノ共有トシ上中下の水腐のなき場所と年々水腐する場所トヲ適當ニ分配スルコトニヨリテ税租負擔ニ對シ損失ノ均分ヲ得シメンガ爲メノ制度ナリトナスナリ 唯余ガ同書ニツキ疑ヲ挾ムハ假令は五ヶ年の内何右衛門は水損なく宜しき場所を多く持たせ何兵衛は水損下田の處を多く與へて其年季内を持たせ置又切替には善惡を入違ひに持替させて總百姓に甲乙なきやうに割合事なりトイフ記載ナリ之レ損益ノ均分ヲ保タシムル爲メニ二年季ヲ要セシヲ意味スルナリサレド後ニ述ブル中田薫氏及余ノ研究ニヨレバカ、ル割替法ノ存在ヲ見ズ損益ノ均分ハ常ニ行ハレ年季二周シテ初メテ平均ヲ得ルガ如キコトアラサルヲ知ラシム蓋シ同書ノ著者誤リ傳ヘタルモノカ

北陸地方ノ割地制ト云フモ法學博士中田薫氏ハ越前越中越後ノ三國ヲ指セルノミ其調査ハ越後ノ古志三島西蒲原ノ三郡ニ限ラル

越後ニ於ケル割地制ニ就テ法學博士新渡戸稻造氏ハ其著「日本土地所有論」(獨文)ニ於テ該制ヲ以テラベレノ土地財産制發達ノ學說ニ應フルモノトナセリ後氏

ハ其説ノ誤レルヲ知り福田徳三氏ガ其著「日本ニ於ケル社會的及經濟的發達」(獨文)ヲ出スニ當リ其誤レルヲ同書ニ公ニスルヲ贊同セラレシト云フ然レトモ福田氏ガ該書ニ於テ言ヘリシ所ハ僅カニ氏ノ想像ニ過キサリシモノニシテ獨逸ノトリ「ア」地方ノ耕地共有制度ニ最モ似タル新來住民ノ新田共同耕作ニ起因スルモノナラントセルナリ而シテ後中田薫氏ハ之レヲ調査研究シ福田氏ノ所説ト同一ノ結論ニ來レリ

中田氏ノ越後ニ於ケル該制度ノ研究ハ詳細ニ亘レリ氏ハ專ラ古志三島西蒲原ノ三郡(就中舊長岡藩領)ニ於ケルモノヲ説ケルナリ

其起源ノ年代ニ關シテハ據ルベキノ徵證充分ナラズ慶安度ノ檢地以後ニ始マレリトノ説アルモ信シ難ク慶長前後ニ起レリトナス一般ノ傳説アリト述ヘタリ其起源ニツキテハ太古村有共產制ノ遺物或ハ班田ノ遺制ナリトスルカ如キ論ハ全然排斥ストナシ地方凡例録ノ著者ノ所謂水腐地ニ於ケル損失ノ均分ナル消極的思想ニ基クモノアランモ原則トシテハ共同開墾地ニ於ケル利益ノ均分ナル積極的思想ニ基キテ發生セルモノトナシ若シ他ノ原因ニヨリ發生スルコトアリト

モソハ根原的ノモノニアラズ傳來的即チ此共同開墾ニ起因セル割地制ノ模倣ニ出テタルモノトナセリ此結論ノ根據トシテハ次ノ四ヶ條ヲ擧ケタリ

- (一) 割地制ノ行ハレタル地方ハ新開地ナリ
- (二) 割地制ノ行ハレタル地方ハ移住者ノ共同開墾地ナリ
- (三) 共同開墾地ニハ必ス割地ヲ行ヒタル實例アリ
- (四) 私有地ヲ割地ニ變スルコト難シ

氏ハ本邦ノ凡テノ割地制ノ起源ヲ爰ニ求メタルモノニアラズ越後ノ該制ニツキ之レヲ以テ頗ル根據アリ且事實ニ近キモノナルコトヲ信ズトナセルナリ

以上述ブル所ハ本邦ノ耕地共有制研究ノ一般ナリ論シテ爰ニ至ル所以ハ余ガ試ミントスル本論ノ豫備的研究タラシメントスルノミ而シテ今叙説ヲ進メテ本論ニ入ルニ先チ暫ク岐路ニ亘リテ舊加賀藩ニ於ケル農政ノ梗概ヲ述ベサル可カラス蓋シ舊加賀藩ノ田地割制度ノ完全ナル智識ハ加賀藩ノ農政ヲ知ルコトナクシテ得ル能ハサレバナリ

第二章 加賀藩ノ農政

第一節 本藩農政一般

加賀藩ハ前田氏ノ采邑ナリ慶長五年九月關ヶ原ノ役後徳川氏天下ヲ收メ日本
 三千万石ヲ領スルニ及ヒ前田氏ハ外様大名トシテ加賀能登越中三ヶ國ヲ采邑ト
 シテ封セラレ加フルニ近江國高島郡弘川村今津及海津ノ内中村町ノ三小邑ヲ以
 テセラレ封土百萬石ト稱ス

封建制度漸ク確立シ天下太平ヲ裝フモノアリシト雖前田氏ハ徳川氏ノ最モ畏
 懼セシ藩地ニシテ英君亦少ナシトセズ就中

微妙公

(三代)

諱利常初諱利光高德公初代慶長三年退老ノ第四子慶長十年六月襲
 封寛永十六年六月退老萬治元年十月薨年六十六

松雲公

(五代)

諱綱紀初諱綱利陽廣公四代ノ長子正保二年六月襲封享保八年五月
 退老九年五月薨年八十二

ノ二公ヲ以テ出色トナス武ヲ練リ文ヲ興シ士ヲ戒メ民ヲ勞ヒ其治績少シトセズ

明治二年六月還封スルニ至ル迄本藩ノ農政ハ多ク此二公ニヨリテ其基礎確立
 セルモノニシテ爾余ノ諸公ハ纔ニ其遺制ヲ守レルニ過キズ蓋シ天正慶長ノ間高
 徳(初代)瑞龍(二代)二公深ク意ヲ爰ニ用キシト雖時猶戰國ニ係リ且ツ爲政歲月ノ淺
 キヲ以テ其功績看ル可キモノ少ナク微妙公ノ時ニ至リ天下漸ク治リ専ラ力ヲ之
 ニ竭シ一良法ヲ創始ス之レヲ名ケテ改作法ト云フ尋テ松雲公遺ヲ拾ヒ漏ヲ補ヒ
 以テ其法ヲ大成セリ蓋シ微妙公ハ寛永十六年退老セシト雖其施政ノ任ニアリシ
 ハ萬治元年十月其死ニ及ヒ松雲公ハ正保二年襲封セリト雖庶政ヲ總攬セシハ其
 祖父微妙公ノ死ニ初マル即政事ノ實權ハ四代陽廣公―松雲公ノ父―ヲ除外シテ
 祖ヨリ孫ニ及ヒタルナリ護國公(六代)以後諸公舊制ヲ守リ精勵治ヲ圖レリ然レド
 モ歲月ノ久シキ法制漸ク紊レ弊害交モ至ル享和年中之レヲ修正セント欲セシモ
 其法頗ル密ニシテ却テ其功ヲ奏セズ文政四年ニ至リ悉ク里正ヲ罷メ奉行ヲシテ
 直チニ百姓ヲ主宰セシメ以テ宿弊ヲ釐革ス既ニシテ弊復タ生ヌ天保十年良里正
 ヲ擧ケ復舊ノ政ヲ布カレ以テ維新ノ廢藩ニ至ル之レヲ加賀藩農政史ノ大綱トナ
 ス

思フニ舊幕時代ニ於テハ何レノ藩ニ在テモ諸般ノ法政或ハ密ニ或ハ粗ニ見ルベキモノ少ナシトセサルモ而カモ一貫セル組織制度ノ存スルナク政途ヲ二三ニス本藩ニ於テモ濟民農政ノ事或ハ算用場奉行ニ出テ或ハ改作奉行ニ出ツ然リト雖農政ニ關スル治法ハ大概後者ニ出デ且ツ此改作法タル本藩ノ特質ニシテ他藩ニ其比ヲ見ズ今研究ノ順序トシテ先ツ改作法施行以前ノ藩政ノ農民ニカ、ルモノヲ述ベ次テ改作法ヲ説カン

第二節 改作法施行以前ノ農政

改作法ハ慶安四年(一六五一年)初メテ試ミラレタルモノニシテ其以前ニ於ケル本藩ノ農政ヲ尋ヌルニ左ノ如シ

天正九年織田信長高德公(初代)ヲ能登國ニ封シ十一年豊臣秀吉加賀國石川河北二郡ヲ賜フニ及ヒ封内ノ田畠ヲ丈量シ三百歩ヲ以テ一反トナス十三年世子瑞龍公越中國利波射水婦負ノ三郡ヲ受封セリ尋テ高德公同國新川郡ヲ代官セラレ漸次檢地ヲ命セラル然レトモ越中素ヨリ佐々成政ノ舊封ニシテ其田三百六十歩ヲ

以テ一反トナスノ舊ニ依ラル蓋シ所謂文祿ノ檢地越中ニ及バサリシナリ 文祿四年近江國高島郡今津弘川二村ヲ賜ハリ慶長五年加賀國江沼能美二郡ノ増封アリ其田皆三百歩ヲ以テ一反トナセルヲ以テ是レヲ檢地スル皆其舊ニ仍レリ(註一)

(註一) 加越能三州ノ外ナル近江國高島郡今津弘川ノ二邑ハ元初代高德公利家ノ室芳春院ノ領地ニテ元和四年其死スルニ及ヒ之レヲ返還シ同五年再ビ領地トナリ中村町ハ寛文八年能美郡尾添荒谷ノ二邑カ幕府ノ領地トナレルニ際シ交換セル地ナリ

斯クノ如ク封内ノ田制ヲ定メ天正十一年始メテ田畠ノ檢地ヲ行ヒ元和六年之レヲ完成ス總檢地之レナリ斯ノ如クシテ封内各村ノ斗代(石盛)計量セラル即チ能美江沼二郡ハ田一反三百歩ニ一石七斗十七ノ盛石川河北二郡能登四郡ハ一反三百歩ニ一石五斗十五ノ盛越中四郡ハ一反三百六十歩ニ一石五斗ナリ

而シテ一村ノ内田ニ肥瘠アリ從テ免相稅率自ラ高低ヲナス依テ正租ノ平均ヲ得シメタリ然レトモ每歲ノ豐歉ヲ檢シテ免ヲ定メ租米ヲ徵スルノ煩アリ且給人(采邑)ヲ給セラレタル諸士或ハ私ニ免ヲ増減スルモノアリ爲メニ正租一定セズ依テ寛永十年(一六三三年)微妙公改作法ヲ施行セントスルニ先チ各給人ヲシテ既ニ

徵租スル免相ヲ錄上セシメタリ蓋シ一村ノ免相ヲ定メ正租ノ平均ヲ得シメタルハ之レ實ニ田地割制發生ノ起源ニシテ改作法ノ完成ト相俟テ其發達ヲ見シ處後段詳論セント欲スル所ナリ

正租ハ初メ俵高ヲ以テ率ト爲シ後草高(收穫ヨリ計出セル課税標準ヲ石ヲ以テ示セルモノ)ヲ以テシ皆之レニ免相ヲ乘シテ計量ス寛永十八年ニ至リ正租步入法ヲ定ム步入トハ租米分納ノ事ナリ承應三年更定ス寛永十四年從來百姓ノ未納租米ヲ點查シ寛永十一年前ニ係ル者ハ悉ク之レヲ捨テ十二年十三年ニ係ルモノハ息ヲ附セズ本年以後ハ之レニ息一年一割ヲ附シ敷貸米ト名ク又正租代納ヲ許ス

正租ニ口米夫銀ヲ加徵セリ口米トハ他日減米アラシコトヲ慮リ豫メ俵口ニ加ヘシムルノ謂ナリ夫銀トハ初メ夫錢ト云フ高德公就封ノ初ハ印書ヲ郷莊ニ下シテ丁夫ヲ召シテ役使セラル之レヲ村役平夫ト云フ諸給人モ亦皆之レニ倣ヘリ次テ慶長十四年瑞龍公新ニ越中關野ニ城キ(後高岡ト稱ス)多ク郡夫(平夫ヲ郡ヨリ出ス之レヲ郡夫ト云フ)ヲ役使ス百姓其農時ヲ妨クルヲ以テ銀ヲ以テ丁夫ニ代ヘン

事ヲ請フ乃チ之レヲ許セリ翌年ヨリ封内悉ク夫錢ヲ貢セリ之レ夫銀ノ初ナリ然レトモ城中詰夫ノ如キハ猶未ダ廢セラレズ從テ百姓遠境ヨリ平夫ニ出テ多ク日ヲ費シ農時ヲ妨クルヲ歎訴スルニ及ビ元和三年之レヲ廢シ正租百石ニ銀百四十匁ヲ課セリ春秋二期ニ分納セシム春秋夫銀之レナリ

尙爰ニ鍬役米ノ事アリ之レ十村(官名後出)ノ俸ニ當ルモノニシテ後段ニ於テ述ベン又以上ノ外雜税即チ定小物成散小物成アリ直接農民ニ關スルコト少キヲ以テ省ク

以上説ク所重ニ農民ノ課税ニ關ス蓋シ制度未ダ備ハラズ治具張ラサル時代ニ於テハ封主ガ農民ニ對スルハ唯徵税ノ事アルノミ未ダ積極的ノ勸業政策ナシ後改作法施行セラル、ニ至リ農政ノ見ルベキモノアリ改作法施行以前ニ於テ強テ積極的政策トシテ數フベクンバ新開田獎勵ノ一事ヲ舉ケンカ高德公主トシテ荒地ノ新開ヲ獎勵シ天正十二年六月鹿島郡府中組ノ百姓ニ令シテ曰ク荒蕪ノ地悉ク開墾スベシ少許ノ地モ委棄スルアラバ其村總百姓ヨリ納租セシメント十五年又羽喰郡押水組九十九村ニ令シテ曰ク新開田一段ノ租米ヲ定メテ一俵ト爲ス

ト之レ正租ノ三分ノ一ニ當ル爾後荒蕪地新開ノ獎勵續出セリ

第三節 改作法

一 其由來

慶安ヨリ明曆ニ至ルノ間微妙公封内ノ民政百事ヲ更定シ租稅徵收ノ法ヲ釐革ス農政見ル可キモノアリ之ヲ改作法ト云フ

前節ニ於テ述ベタルガ如ク改作法施行以前ニ於テハ法定マラズ勸業殖産ノ法備ハラズ諸士ハ武威ヲ以テ其采邑ノ民ニ臨ミ其代官下代モ亦其主ノ威ヲ假リテ民ヲ恐嚇シ苛斂甚シキモノアリ從テ民ノ病弊日ニ加ハリ逋負年ニ増シ餘力以テ河堤ヲ修ムル能ハズ歲々水害變地多ク檢稻減免ヲ乞フニ至レリ當時年ノ豊凶ニ依リ免ヲ定メ租ヲ算スルノ法ナルガ故ニ若シ凶歲アレハ諸士モ亦困厄甚シ故ニ公深ク之レヲ憂ヘ諸士ヲシテ困厄ヲ免レ下民ヲシテ安堵ノ域ニ臻ラシメント欲シ細心工夫ヲ費ス事數十年遂ニ改作法ヲ立ツ公ノ世ニアルヤ試ニ改作法ヲ白山麓三十一ヶ村ニ行ヒ尋テ之ヲ封内ニ及ボシ綱領已ニ舉ルト雖節目未ダ全ク備

ハラス薨後萬治寛文ノ際公ノ遺意ヲ奉シ檢地例ヲ更定シ收納作食ノ法ヲ揭示シ元祿享保ノ間田畠賣買ノ禁ヲ解キ草高二關スル凡百ノ制度ヲ立テ後ノ横階ト成レル者多シ要スルニ松雲公ノ晩年ニ至リ改作法ノ完備スルモノト謂フベシ 今其起源沿革ヲ左ニ錄セン

寛永三年後水尾天皇二條城ニ行幸ス徳川秀忠及其子家光京ニ入ル微妙公亦赴キ本國寺ニ館ス住持某公ノ無聊ヲ慰セン爲メ僧日翁ヲ薦ム尋テ日翁駕ニ扈シテ金澤ニ至ル秩三百石ヲ賜ハル一日兵ヲ公ノ前ニ談シテ曰ク國政軍法共ニ周ノ井田ニ原ケリト詳ニ其委折ヲ述フ是ニ於テ公始メテ租法ヲ釐革セント欲スルノ意アリト云フ公封内從來ノ田制租法ヲ知ラント欲ス之ヲ諸士ニ問フ之ヲ詳ニ知ルモノナシ日翁曰ク之ヲ百姓ニ問ハハ必其要領ヲ得ント乃チ十村數人ヲ小松城ニ召シ之ヲ質ス

蓋シ當時ニアリテハ先ニ述ブルカ如ク諸給人ノ百姓ニ對スル免相一ナラス藩主ヨリ賜ル采邑ニ下代ヲ遣リ誅求之レ事トシ甲村ノ免相乙村ニ超ユルモノアリ一村ノ内又免相相同シカラス是レニ寛ニシテ彼レニ酷ナルモノアリ例ハ越中

國礪波郡小谷組三清村ニ見ルモ高免ハ五ツ貳厘(草高ノ五〇・二%ヲ意味ス)下免ハ三ツ八步壹厘(三八・一%)ナリシト云フ加之既定ノ免相ノ外濫リニ増免スルヲ禁セラレシト雖往々禁ヲ破ルモノアリ且又徵稅ノ法年ノ豊凶ヲ檢シ歲々正租ノ増減アリテ一定セル年額アルナク煩累甚シク或ハ凶歲甚シキモノアルモ減免ノ事ナク寛永十七八年ノ凶作ノ如キ未進米(未納租米)多額ニ登レリ斯クノ如クニシテ一方農民ノ困厄甚シキモノアリ從テ他方ニ於テハ徵稅ノ煩累ニ加フルニ納米ハ豊凶ニヨリテ一定セサルカ故ニ諸給人ノ不便モ亦少ナカラス兩者相卒キテ困弊ノ内ニ陷レリ

依テ民政ニ志深キ微妙公意ヲ爰ニ用ヒ改作法ヲ案出シ先ツ慶安四年(一六五一年)松崎三郎左衛門等ヲ白山麓ノ尾添中宮等三十一ヶ村ニ遣シ試ニ檢地ヲ爲サシメ民ノ藩及給人ニ對スル逋負即チ米銀若干ヲ蠲キ且ツ借銀典物ヲ檢察セシメ其債主ヲ城ニ召シ證文ヲ奉行ノ前ニ作り債ヲ捐テシメ又奉行ヲシテ夏冬ノ衣ヲ貧民ニ授ケ爾後些少ノ物件ト雖之レヲ他ニ借ルヲ禁シ不逞ノ徒ヲ逐フ之レヲ追出百姓ト云フ之レニ代フルニ租稅全納ヲ誓フ者ヲ以テシ作食米ヲ貸與シ奉行ヲ置

キ倉庫ヲ造ル失費許多ナリ因テ藩庫ノ銀九十貫目ヲ出シ之レヲ償フ之レニ於テ三十一村ノ民其ノ處ヲ得タリ

尋テ前田直玄等ニ命シ改作法ヲ施行セシム改作法ノ主旨ニ就キテ故石崎謙氏ノ誌ス處ニヨルニ曰ク年ノ豊歉ヲ檢シ免ヲ定メ正租ヲ増減スルノ繁ヲ省キ田ノ肥磽ヲ審檢シテ村免ヲ定メ毎年貢租ノ額ヲ一定シ萬世變ラザルノ簡ニ就クニ在リ

改作法ノ起源主旨斯クノ如シトセハ犀利ナル讀者ハ余ガ論セントスル本藩ノ田地割制度ノ起源ト改作法ト相交渉スル奈邊ニアルカヲ洞察スルニ難カラサル可シ乞フ詳論ヲ後段ニ譲リ先ヅ改作法施行ノ狀ヲ述ベシ

改作法施行ノ歲月ニ關シテ余ノ得タル材料ニヨレハ區々一定セス其施行セラレタル地方ニ於テモ亦疑アリ然レトモ大ナル誤謬ナシト信スル所ヲ示セハ次ノ如シ蓋シ慶安四年(一六五一年)先ツ其業ヲ始メ明曆二年(一六五六年)略畢リタルモノナリ而シテ萬治寛文ノ改作法ハ第二期第三期ニ屬スト見ル可ク斯クノ如クニシテ此業全藩ニ及ベリ

改作法仰付ラレシ年月

- 一 慶安四年(一六五一年)ヨリ明暦元年(一六五五年)迄
- 加州河北郡石川郡
- 越中礪波郡射水郡
- 一 同年正月ヨリ明暦三年(一六五七年)マデ
- 越中新川郡
- 一 承應元年(一六五二年)ヨリ明暦二年マデ
- 能州鳳至郡珠洲郡
- 一 承應元年十月ヨリ明暦二年十月マデ
- 加州能美郡
- 一 承應二年二月ヨリ明暦元年マデ
- 能州羽喰郡鹿島郡
- 一万治三年(一六六〇年)
- 越中新川郡百八村富山侯舊領
- 同 六村大聖寺侯舊領
- 一 寛文十一年(一六七一年)
- 能州鹿島郡五十九村長連頼舊領

二 組織及機關

嚮ニ述ベタル主旨ト經過トニ伴ヒテ成立セル改作法ヲ永遠ニ持續セントハ當局者ノ専心考慮ヲ費シタル所ナル可シ乃チ後世易ラサルノ制ヲ確立セサル可カラス然リト雖事創始ニ係リ制度未ダ完カラス年ヲ追ヒ月ヲ重ヌルニ從テ漸ク機關備リ稍見ル可キモノアリシハ蓋シ數ノ免カレ難キ所ナリトス 本藩ノ農政機關ヲ説クニ先チ本藩ノ行政區域ヲ述ベサル可カラス 本藩ノ封邑コレヲ大分シテ州トナシ州ヲ分チテ郡トナシ郡ヲ分チテ組トシ組ヲ分チテ村トナス 元ヨリ三百年ノ長日月其間組村ノ如キ下級ノ行政單位ニシテ分合アリシ事ハ想像スルニ難カラス今安政五年現在ノモノヲ示セハ左ノ如シ

加州	能美郡	七組
	石川郡	八組
	河北郡	六組
能州	羽喰郡鹿島郡	十一組
	加賀藩ノ農政 改作法	

鳳至郡珠洲郡

十二組

越中

礪波郡

十六組

射水郡

十組

新川郡

上九組 下七組

此外近江國ニ二三ノ小邑アリシコト前節ニ述ベタルカ如シ

郡ハ大ナル行政單位ニシテ後世一郡一改作奉行アリ各郡ニ相談所一ヶ所ヲ設ケ所屬スル郡内ノ事務ヲ處理シ毎月期日ヲ定メ御扶持人十村等集合シ郡中ノ事ヲ議シ或ハ藩政ヲ下民ニ傳へ或ハ下情ヲ上藩府ニ申告ス元ヨリ改作奉行ノ直轄ニ屬スト雖御算用場ヨリ役人出張シテ合議詮索セル事アリシト云フ

村ハ最小單位ニシテ肝煎之レカ長タリ一ツノ納稅單位ヲ形成ス多數ノ村集合シテ組ヲナシ郡ト村トノ中間ノ單位タリ更ニ五ヶ村ヲ以テ一組トシ之レヲ五ヶ村組ト稱シ合議ノ機關トナス郡ト村トノ中間ナル組ハ行政上ノ區分ヲナスト雖五ヶ村組ハ然ラス單ニ合議ノ機關タルノミ

此等ハ本論文ニ關スル事重大ナルヲ以テ節ヲ逐ウテ叙シ本節ニ於テハ更ニ進ンデ農政施行ノ機關就中郡方役人ヲ叙說セン 蓋シ余ガ本節ニ於テ多クノ紙數ヲ割キタル所以ノモノハ管ニ加賀藩農政ノ詳細ナル智識ヲ得ンカ爲メニアラスシテ實ニ余ガ論セントスル田地割制度ニ關連スル郡方役人ニ就テ觀念ヲ得ンカ爲メノミ安ソ他意アランヤ

一 改作奉行

明曆二年改作法略畢リ當初ノ目的完成スルニ及ヒ此主意ニ基ケル農政濟民ノ事務ハ改作奉行ナル新官名ヲ帶フル藩吏ノ手中ニ歸セリ初メ改作法施行ノ當時ハ微妙公郡奉行ニ命シテ之ヲ掌ラシム後松雲公ノ時改作方獨立シテ改作奉行トナリ寛文元年五月改作奉行山本清三郎等四人命セラレテ收納免相ノ事務ヲ算用場奉行ト合議處理スルニ及ヒ郡奉行ハ收納免相ノ事ニ關セス改作奉行專ラ之レヲ掌リキ蓋シ其以前ニ於テハ郡中收納免相ノ事ハ算用場奉行及郡奉行ノ合議裁斷セル所ナリキ 此年更ニ一人ヲ加へ同五年二人ヲ加へ總員七人トナル 元祿以後ハ員ヲ定メテ十人トナス 後安永五年改作奉行郡奉行合シテ兼帶トナリ翌

六年分離ス文政四年六月二十八日ヨリ再ヒ兼帶トナリ役名ヲ御郡奉行改作方トナス天保四年三月十六日改メテ役名舊ノ如シト雖分擔專務トナシ御郡奉行專務改作奉行專務トナス天保十年正月十八日改革アリ改作奉行郡奉行全ク分離シテ改作法施行ノ當時ニ復ス天保ノ復元之ナリ以テ明治維新ニ至ル

改作奉行ハ中央官府ニ於テ重要ナル地位ヲ有シ農ハ國本也トノ思想強大ナル封建時代ニ於テハ濟民農政ニ參與スルノ故ニ特ニ重要ナル地位ヲ占メタルモノノ如シ改作奉行ノ職責ニ關シテハ今日ニ於テ見ルガ如キ規定細則アルナク享保六歲改秘書加能越改作方舊例ニ載スル所ニ依レハ左ノ如シ以テ一斑ヲ窺フベシ

一 改作奉行役職之

毎年耕作仕時ハ御郡方へ相役申致手分致村廻諸事手つかへ無之様に百姓え申付損亡地并新開き見圖リ免之所々えは御扶持人十村召連罷出見立を以て免相圖申渡候春秋之外にも耕作仕付修理等無心元在々えは相役人代々罷出吟味可仕事朔日十一日二十一日改作日ニ定御算用場へ出座御郡方之議も相勤ル大阪御米拂御用代ニ罷登相勤ル江戸御上下之刻越中之内御旅屋拵掃除並越後姫川上川越人足召連代リニ罷越ス御鷹理之刻被仰出次第勢子人足召連罷出并濁廻御供舟之儀十村へ申付ル且又往還道損シ申刻御郡奉行申談年寄中え申斷修理申付ル外御隱密御用相勤ル御出藩奉行并諸方ヨリ上ル金銀請取奉行手前御算用并金銀御改之刻罷

出ル御勝手方惣圖リ之議相勤ル

二 郡方役人

改作奉行ハ中央官府ニ直屬シ諸郡ノ事務ヲ掌ル事上述ノ如シ各郡ニ於テハ多クノ郡方役人アリテ直接農民ニ當ル其官制改作法施行ノ初期ニ於テハ雜然タルモノナリシモ松雲公之レヲ完成スルニ及ヒ秩序井然タリ

今寛政九年十一月改作所ヨリ仰渡レシ郡方役人ノ順列ヲ示セハ左ノ如シ

無組御扶持人

同 列

組持御扶持人

無組御扶持人並

組持御扶持人列

同 並

平十村

同 列

加賀藩ノ農政 改作法

同 並

本章第一節ニ述ヘタルカ如ク松雲公ノ後法制或ハ緩寛シ或ハ厯雜シ天保十年
改革アルニ及ヒ郡方役人順列モ亦新タニ制定セラレ前掲寛政九年ノモノニ比シ
其數ヲ増セリ即チ左ノ如シ

無組御扶持人

同 並

同 列

御扶持人十村

同 並

同 列

平十村

同 並

同 列

諸郡御用頭取

新田才許

同 並

同 列

山廻

同 列

蔭聞役

諸郡打銀主村

定小物成取立人

散役才許

用水才許

測量方御用

御仕立村勢子役

尿物方主付

桑楮植付勢子役

加賀藩ノ農政 改作法

變地勢子役

封切相見人

村肝煎

江肝煎

組合頭

繩張人

分地人

竿取人

番代

以上掲クル所何等ノ變更ヲ見スシテ明治廢藩ニ至ル 今是等ヲ説明スレハ左

ノ如シ

一御扶持人

改作奉行ニ直屬シ後ニ述フル處ノ十村ヲ通シテ農民ニ係ルモノヲ御扶持人ト

ナス 無組御扶持人組持御扶持ノ二種アリ共ニ藩主ヨリ米祿ヲ食ムト雖士分ナ

ラス組持御扶持人トハ後ニ述フル十村ニシテ食祿スルヲ云フ故ニ又御扶持人十
村ト云フ無組御扶持人トハ其名稱ノ示スガ如ク無組即チ十村ナラサル純然タル
御扶持人ノ義ナリ故ニ官位ヨリスレハ無組御扶持人ヲ以テ組持御扶持人ノ上位
ニアルモノトス

無組御扶持人ハ寛文元年ニ始マル石崎氏舊記假纂ニ曰ク

無組御扶持人 寛文元年山本清三郎等ニ改作奉行ヲ仰付ラレ存寄ヲ申上ヘシトノ仰出サレ

アリ清三郎ヨリ一郡一人ツ、縮トナルモノヲ諸事目アガシニ仰付ラル、ヤウ申上ケレハ越

中島尻村刑部田中村覺兵衛ヲ總十村ノ縮トシテ組持十村ヲ指除ケ無組御扶持人ト名目ヲ改

メ他郡ノ御用ヲモ勤メシメラレタリ此二人ハ利常親御代ヨリ御扶持下シ置カレシ者ナリ(河

合録)

組持御扶持人(御扶持人十村)ノ起元ヲ尋ヌルニ承應二年ヨリ万治元年ノ間熊木村太郎右衛門

等五人ニ微妙公ヨリ扶持ヲ賜ハリタルヲ以テ始メトス此時御扶持人十村ト名ケラル

爰ニ無組御扶持人並、同列、組持御扶持人並、同列ナルアリ此等ハ御扶持人ノ死去
又ハ不在等ニ際シテ一時名代タルモノカ又ハ見習中ノモノヲ云フナリ

文政四年七月改革アリ之ヲ改作法御仕法ト云フ農民ハ改作奉行直轄トナリ其
中間ニアリシ御扶持人ハ爾後惣年寄ト改稱セラレ苗字ヲ許サル後天保十年復元

加賀藩ノ農政 改作法

セルコト上述ノ如シ 又御扶持人ヲ一ニ廻口ト稱ス之レ十村ヲ組主附ト稱スルニ對セシモノナリ

御扶持人ハ其下ニ屬スル十村ト協力シテ農民ノ指導開發ニ從事ス可キ責任ヲ有シ職責完カラサル時ハ其持高ノ二分一乃至三分一ヲ沒收ス可シトノ法令ヲ出セシ事一再ナラズ十村ニ於ケルガ如ク一向坊主町人トノ縁組ハ絶對ニ制限サレ其親族ノ者ト雖許サレサリキ 御扶持人ハ斯クノ如キ責任ヲ有スルモノナルモ士分ナラサルカ故ニ其忠誠ナルヲ保證センカ爲メニハ誓詞ナルモノヲ行ハサル可カラス 誓詞トハ天地神冥ニ其忠誠ヲ誓フ儀式ニシテ當時士分ニアラズシテ役人タルモノノ必ズ爲セシ所ナリ

二平十村同列同並附十村頭

平十村トハ上述ノ十村ニシテ藩主ヨリ食祿スル所謂御扶持人十村組持御扶持人ニ對シ食祿セサル十村ノ謂ニシテ平トハ純然タル民吏ナルヲ意味セシナリ一般ニハ單ニ十村ト呼ブ平十村列ハ平十村ニ平十村並ハ平十村列ニ準スヘキモノニシテ時ニ代テ事務ヲ掌握セシム

初メ天正中ヨリ慶長七八年ノ比戰國ノ世封内騷擾ヲ極メシ時代ニ於テハ其所長百姓ヨリ一般農民ヘ諸事申渡シ未タ十村ノ名目ナク肝煎頭組頭ト唱ヘタリ慶長九年能州奥郡ヘ本保與次右衛門ヲ遣ハサレ從來其所ノ大百姓等御用ヲ勤メタルモノヲ始メテ十村ト名ケラレ農民ノ支配ヲ命セラル

蓋シ十村トハ一人ニテ大凡十ヶ村ノ事務ヲ掌リタルヲ以テ斯ク名ケタルナリ後十村ノ内病死或ハ罪アリテ停職セラル、モノアル時ハ併合行ハレ十村一人ニテ數十村ヲ支配スルモノアルニ至レリ越十村之レナリ寛永十三年三月ヨリ小組大組ノ稱アリ前者ハ十ヶ村程支配シ後者ハ數十ヶ村ニ及ブモノナリ

又十村頭ナルアリ明暦元年微妙公小松ニ於テ中村久悦ニ命シ三ヶ國十村頭ニ任ストノ記録ヨリ察スルニ本藩ニ於テ封内ノ總十村ノ上ニ士分ヲ以テ十村頭ヲ置キタルモノナル可シ

明暦二年正月十三日十村ハ帶刀仰付ケラレタリ然レトモ起居ニ便ナラズトナシ十村ヨリ帶刀勝手ニ仰付ラレ度トノ希望ヲ陳シ許可セラル

元祿六年七月ニ至リ封内ノ十村ニ誓詞ナルモノヲ命ス之レ蓋シ上述ノ御扶持人ニ於ケルカ如ク士分ナラサルヲ以テ忠誠ヲ盡ス可キヲ誓ハシメラレタルナリ

今享保二年ニ行ハレタル十村誓詞ヲ示セハ左ノ如シ

十村誓詞

敬白天間靈社上巻起證文前書之事

- 一 奉對 御公儀毛頭御後間儀仕間敷御爲大事ニ奉存候諸事精を出裁許仕百姓手前費成儀無之成立候儀常々心懸可申御事
- 一 每歲開作仕立村々百姓人々手前承届夫々致勤辨其年々無油斷裁許可仕御事
- 一 附應其所候かせき等隨分情に入候様可申付候
- 一 至夏中田畑草修理念入可申付候或は手廻り懸敷或はやしない行届不申立毛いたし不出來に相見へ申所有之時分は其所に付居候而水も廻やしない其外爲致手入作劣無之様可仕候事
- 一 至秋稻刈付前より村々作物取散儀に不罷成様に縮之義油斷仕間しく候惣而百姓人々所持之田畑隨分能作立常に妻子共致養生候様可仕御事
- 一 不作之刻見立乞候在々且又檢地斷候村々之儀誠精吟味仕其郡中に而輕重段々引くらへ又は其村々體相考至極之所を以御斷可申上御事
- 一 見立有之刻立毛之體見圖引免入札仕候時分十村御扶持人仲間等之ためを考或は内證に而數合引免圖多仕覺悟聊仕間敷候勿論親子兄弟自分持高有之在所に而も私懸之心得不仕有様に入札可仕御事
- 一 立毛等懸之員數見分仕野に而覺帳に記置申儀且又旅宿之罷歸算用仕立引免圖入札調申刻

共ニ樂之心得申談儀は勿論入札之表一切見合申間敷御事

- 一 檢地有之刻島折等仕儀有見立仕同意に相心得可申御事
- 一 見立檢地付百姓何さか方便かましき儀仕體心付候者聊見隠不申早速其段御奉行入之内證可申斷御事
- 一 被仰渡之儀物毎油斷不仕不依何事御尋被成義有様申上十村仲間は不及申上小百姓中迄も惣而申合公儀を按中儀御座候は、即時に有體に可申上御事
- 一 百姓中御斷申上候義送吟味依情蟲負なく少茂爲申上間敷御事
- 一 附り御用之儀手代まかせに仕間敷候
- 一 諸事御用之儀かきない申覺悟仕間敷御事
- 一 但おこりたる儀其外手廻さして貸借聊仕間敷候勿論糶米之外何によらず打物仕取間敷候
- 一 人々組下井廻口百姓共之内合力貸物は各別之儀に御座候勿論少茂利足取申間敷候介抱之ため貸申物之儀に御座候得共取立之刻も無理成取立仕間敷御事
- 一 村々草高小物成人馬等惣而員數都合御隱密がましき儀雖爲親子兄弟沙汰仕間敷御事
- 一 百姓中何によらず禮物者ニ而も自分に取申儀は不及申上妻子に至迄請申間敷御事
- 一 村廻井御用に付所々被罷越刻才許之下方人馬等出させ百姓費申儀仕間敷候但御定之駄賃を出履申儀は各別に條總而未々に不依何馳走々間敷義聊請申間敷御事
- 一 此連拜之内百姓に對利錢手廻其外懸敷事御座候は、見聞次第即刻有様に可申上御事

加賀藩ノ農政 改作法

一右百姓迄之儀に而は無御座組下に罷在獵師頭振等に至迄同前之御事
右之條々於相背は忝茂左に申降神罰冥罰可罷象者也
享保三年

四四

御改作御奉行所

十村連名

後文政四年七月改作方改正アリ平十村ヲ年寄並ト改稱シ苗字ヲ名乗ル事ヲ許
サル同十年更ニ何村誰ト稱フ可シト命セラル後天保十年ノ復元ノ事既述ノ如シ
十村ハ又組主附組才許ト稱セラル之レ御扶持人ヲ廻口ト稱スルニ對スルモノナ
リ

十村ノ收入ハ専ラ歛役米ナル名稱ノ下ニ徵收セラレタリ之レ元和三年始メテ
制定セラレ百姓及頭振説明後出兩者ヲ合シテ農民ト稱ス可シ年十五歳ヨリ六十
歳ニ至ルマデノ男子一人ニ付キ米二升ヲ徵セル之レナリ若シ居住ヲ有スルモ男
子在ラサル時ハ一戸二升ヲ出サシメタリ而シテ村肝煎掛作百姓不具者病身者道
心座頭舞々藤内穢多ハ之レヲ免セリ尙ホ十村ノ收入トシテ代官口米ナルアリ始
メ租米ヲ查收スルニハ侍代官ト稱シ士分ヲ以テ之レニ當ラシメシモ後十村ヲ以

テ之ニ充ツ承應三年八月十村石川郡御供田村勘四郎河北郡大熊村兵右衛門ヲ以
テ侍代官ニ代ラシメ租米ヲ查收セシム之レ十村代官ノ始メニシテ查收スル所ノ
租米一石ニツキ二升ツ、ヲ代官口米トシテ十村之ヲ得タリ

要之十村ハ其地位御扶持人ニ次クト雖其職責ニ至リテハ大差アルナク下情ヲ
上ニ傳へ上令ヲ下ニ達シ農民指導ノ責任アリシ事嚮ニ掲ケタル十村誓詞ニ見ル
モ明ナリ一向坊主町人トノ結婚ハ其親族ノモノタリトモ禁止セラレ職責ヲ盡
サ、ルニ於テハ持高ノ二分一乃至三分一沒收セラル、カ如キ御扶持人ト同一ノ
制裁ヲ受ケタリキ

以上述フル所ノ

無組御扶持人

同並

同列

御扶持人十村

同並

同列

平十村

同並

同列

ノ九等ハ改作奉行ヨリ薦任セシモノナリ
三諸郡御用頭取

加賀藩ノ農政 改作法

四五

農民ニハ直接關係ナク無組御扶持人ノ内ヨリ兼任スルナリ

四新田才許

同並

同列

山廻

同列

此五役ヲ分役又ハ押立トモ稱ス前者ハ改作所ヨリ後者ハ御郡奉行ヨリ任命セラル共ニ改作奉行又御郡奉行ニ直屬シ前者ハ元祿三年始メテ黒崎村安兵衛ニ命セラレタル時ニ始マル蓋シ才許ノ才ハ裁ヲ約セルナリ後者ハ寛文三年十月創始セラル蓋シ第二節ニ於テ説タルカ如ク本藩ハ高德公以來新田開發ニ意ヲ用キ新墾ヲ獎勵スルト同時ニ隱田ノ有無ヲ調査セシメタリ新田才許ハ專ラ此事ニ當レリ次ニ掲クル新田才許誓詞ノ示ス所其職責ヲ示シテ余リアラン 山廻ハ山林ノ監視ニ從事シ代々食祿ヲ受クルモノ選任セラル、時ハ御扶持人山廻ト呼バル蓋シ本藩ニ於テハ松、栗、杉、槐、檜、桐、梅ヲ七木ト唱ヘ地方ニヨリテ多少ノ差異アリ樹林ノ保護ニ力メタリキ

新田才許誓詞

敬白天間靈社上巻起證文前書之事

- 一私共舊新田しらべ方之儀一々御書立を以被仰渡候趣并御内々を以被仰渡候御別紙兩通之趣奉得其意候御用方大事に相勤可申候御事
- 一川崩山崩土地之善惡により定免類之新開年上免年季引免等之儀は新田肝要之趣に候得者當に其場所共見留置私共存寄其組之寸村え相談じ品により御改作所へ申上夫々譯相立免相土地相離に高下無御座候趣相心得可申候御事
- 一御郡之内ニ面勢作方不精に仕候村々或は一村之内ニ面も不精に仕者見聞仕候者其段組付寸村并廻口御扶持人え申談候が品により御注進可申上御事
- 一見立檢地年季引免御貸米等御改作方御大切之儀ニ御座候得者御扶持人并寸村等詮儀之趣入念見聞仕候儀御座候は、可申上御事
- 一御扶持人并寸村等心立善惡之儀は諸百姓御縮方御改作御法第一之趣に御座候得は心附候品々且又常々其役人之勤方奉合存寄之品義茂御座候は、可申上候尤何事により私之意地を以依空最買不仕親子兄弟知者たりとも萬事有體に可申上御事
- 一附り御改作方々相懸候儀は勿論其外萬御爲に可罷成體之品々心付候義は可申上候且又人々存寄之趣は品により同役之者不及相談夫々可申上御事
- 一右之條々於相背忝茂左ニ申降神罰冥罰各可罷象所如件

享保十三年十一月四日

連名

御改作御奉行所

加賀藩ノ農政 改作法

五 蔭開役

之レ新田才許ノ兼役ニシテ(一本ニ山廻ノ兼役トモナス)御扶持人十村ノ外肝煎等職責ニ忠實ナルヲ否ヤヲ監視シ奉行ニ『内證申聞』カシムルナリ元祿六年ニ始マ

ル
新田才許等蔭開役誓詞

敬白天罰靈社上卷起證文前書之事

- 一 私共儀蔭開役被仰付奉畏候隨分精を出相勤可申候依之同郡並他郡共御扶持人並十村且又山廻等此外十村等之忤手代諸百姓ニ至迄奉對御公儀御後闇義茂見聞仕候者親子兄弟知音たりさも不隱置御注進可申上取沙汰ニ而承申趣は其段先申上追々虛實を承合可申上候御事
- 一 見立並御貸米御檢地且又年季引免此外不依何事奉願候義ニ付依情最負仕者御座候は、早速御注進可申上御貸米被仰付候砌は猶更念を入末々配當之様子承合折曲之體御座候は、可申上御事
- 一 御扶持人より諸百姓に至迄御改作之御法相背申者御座候は、可申上候御事
- 一 御扶持人より組合頭ニ至迄末々をむさほり過役等を取立且又非義を申懸小百姓等を爲及難達申者御座候は、委曲承合其様子具に可申上候御事
- 一 川除沙除並道橋御普請且又用水普請惣而入札等此外諸事御公儀御費次ニ御郡之終義も不

願無益之儀を相圖り申仕形御座候は、其段御注進可申上候御事
 附り只今迄有來候義ニ而も御費迄ニ而無益之儀等奉存候様心付申義御座候は、委細承合其様子具に可申上候最私之意地を今般之御用に指加中間敷御事
 右之條々於相背忝茂左ニ申降神罰冥罰可罷象者也
 享保十三年九月八日

連名

御改作御奉行所

六 諸郡打銀主付

定小物成取立人
散役才許

此三役ハ御扶持人ノ兼役ニシテ農民ニ關スル事少ナシ其名ノ示スカ如ク米租以外ノ收税等ノ事務ニ關スルモノナリ

七 用水才許
測量方御用
御仕立付勢子役

加賀藩ノ農政 改作法

尿物方主附

桑楮植付勢子役

變地勢子役

封切相見人

是等ハ皆重要ナラス

八村肝煎

又單ニ肝煎ト呼フ一村ノ内名望アルモノヲ選ビ高持者タルト否トヲ問ハズ村民一同ノ連署ヲ以テ願出ヅルヲ例トス時ニ他村ノモノ撰出セラル、事アリト云フ

肝煎ノ起源ニ關シテ石崎氏遺稿舊記假纂ニ曰ク慶長十六年四月五日利光卿後利常ト改ム（妙公ナリ）ノ判物ニ加州能州總肝煎中トアリ同年十月二十六日前田如好（稱修理）ノ判書ニ能州在ニ所々肝煎總百姓中トアリ是レ舊記中ニ肝煎ノ名目ノ見ユル始ナリ其後正保二年能州河西半郡十村組割書ノ下ニ酒井村肝煎等數十人ノ名ヲ載セタリト

肝煎ハ他藩ニ謂フ所ノ庄屋又ハ名主ニシテ專ラ納税ノ事ニカ、リ上申下達ノ職責ヲ盡シ一村ヲ代表スルモノトス一村肝煎一人ヲ原則トスレトモ三千石以上

ニ及フカ如キ大村ニアリテハ一村二人肝煎ノ制ヲ生セリ

肝煎ノ收入ニ付キ石崎氏遺稿加賀藩租稅志ニ曰ク延寶三年七月是ヨリ先村肝煎ノ俸一定セス或ハ田畑ヲ以テシ或ハ銀ヲ以テスル者アリ本年ニ至テ均シク米ヲ以テ之レニ給ス其全額ヲ二分シ其一ヲ村高ニ其一ヲ戶數ニ賦課セシム明年正月二十日村高ノ多寡ニ依リ肝煎給米ノ差等ヲ立ツ右給米ノ賦課前年ノ如シ他村ヨリ掛作ノ百姓本村家無キ者及扶持人十村神社山廻鳥見鹽相人ハ其戶ノ賦課ヲ免ス八月更ニ肝煎ノ給米差等ヲ定ム左表ノ如シ

村高	給米
五十石以下	一石五斗 山村ハ五斗増
百石以下	二石 同右
二百石以下	二石五斗 同右
三百石以下	三石五斗
五百石以下	四石五斗
八百石以下	五石五斗

加賀藩ノ農政 改作法

千石以下 六石

千五百石以下 七石

二千石以下 七石五斗

二千石以上 八石

其賦課頭振ハ一戸二升ヲ出サシメ其餘ヲ三分シ其二ヲ村高ニ其一ヲ百姓戸數ニ課ス若大村ニテ肝煎二人ヲ置ク者ハ其給米ヲ二分シ各自ニ之ヲ給ス宿方(驛ヲ云フ)ハ連擔外ノ頭振ハ一戸二升ヲ出サシメ其餘ヲ二分シ一ヲ百姓頭振ヲ問ハズ連擔毎戸前面ノ間數ニ一ヲ草高ニ課ス浦方(瀬海幅濶ノ地)草高寡ク若クハ無高村ハ棍役五枚ヲ一戸ニ充テ又現戸數ヲ通算シ十戸ヲ以テ高百石ト看做シ賦課スル也下

九江肝煎

用水ノ肝煎ニシテ大用水ニハ二人アリ流末マテノ水量ヲ計ルヲ掌ルト重要ノ職ニアラズ

十組合頭

一村ノ内三人又ハ五人アリ肝煎ノ下ニ隸屬シ其事務ヲ助ケ或ハ代理ヲナス二十歳以上ノ男子ナル時ハ其持高者ナルト否トヲ問ハズ十村之レヲ命ズ肝煎ニアリテハ時トシテ他村ノ者之レニ當ル事アルモ組合頭ニハ此事ナシ肝煎ノ事務ヲ助クルト雖自ラ其性ヲ異ニシ却テ官ニ利ニシテ民ニ不利ナル行爲ニ出ツル事アリ蓋シ十村之レニ命シテ農民並ニ肝煎ノ監視ノ任ニ當ラシムルヲ以テナリ特ニ收入トシテ見ル可キモノナク年纔ニ銀五分ヲ御算用場ニ受クルノミ

組合頭ノ起源ニ關シ石崎氏舊記假纂ニ曰ク組合頭元祿十六年山本又大夫(改作奉行等ヨリ於改作方大楯格相定置候品々ノ内一御在國之年ノ御領國中村々組合頭共へ鳥目三拾正充被下候云々之レヲ以テ文書ニ現ハレタル最舊ノモノトナスト)

上述ノ村肝煎ト併セテ村役人ト呼ハル

十一、繩張人

檢地ノ時丈量算勘ヲ掌ルモノナリ檢地ハ藩府ノ事業ニシテ田地割ハ農民ノ事業ナル事後ニ論述スル所ナリ故ニ檢地ヲ掌ル繩張人ニ關シテハ今多ク説カス但繩張人ハ田地割ノ測量者タル資格ヲ有シ分地人トシテ之レニ從事スル事アリ十二、分地人

之レ田地割ノ技術者ニシテ一ニ算者ト謂フ後ニ述フルカ如ク田地割ハ特別ノ材能技術ヲ要スルモノナルガ故ニ其資格ヲ得ンニハ御算用場奉行ノ試問ニ合格スルヲ要シ且ツ士分ナラサルカ故ニ忠誠信實ナル可キヲ表示スル誓詞ヲ要スル事御扶持人十村以下郡方役人ノ如シト雖分地人ニアリテハ單ニ口頭ヲ以テ誓ヒ且ツ阿彌陀如來ノ尊像ヲ畫セル軸物ノ裏ニ各自小指ノ爪際ヲ針ニテ突キ血判スルノミニテ特ニ誓詞ノ文言ナシト云フ蓋シ田地割ニ際シテハ不正手段ハ一方ニ於テ藩府ニ對スル脱稅トシテ他方ニ於テハ農民間ノ不公平トシテ行ハレ易キカ故ニ藩政ノ分地人ニ對スル制限法令少ナカラズ殊ニ天保九年ノ御仕方ニ於テ然リ天保九年封内ニ申渡セル田地割定書申渡ニ曰ク

「地割算者之義是迄村同士或は近村之表人を相履地割等いたし候向も有餘是等の義は不埒之至に付以來繩張誓詞人相履右定書之通地元不履無之様總念ニ割替可申事云々」

又天保十四年九月改作奉行ヨリ諸郡御扶持人平十村新田才許へ申渡セル書ニ曰ク

天保八年以來諸郡村々田地割之義に付夫々申渡候之趣有之追々取懸り候向有之候得共中には算者ニ村方申合色々取組懸作人等甚迷惑之筋不少跡就中不致誓詞算者を相履田地割いた

し候向等有之旨粗相聞村方及算者共甚不埒之至り沙汰之限りに候依而是迄田地割いたし候村々之内今度嚴重可送穿懸答に候得共才許々々於手前も證儀方不行足向も有之跡に付先引掲送證議候義は相見合置候條是迄誓詞不申付算者を相履候向且不埒之田地割いたし候村々早速其許中におゐて相調理田地爲相改委曲可申聞候勿論此後之所締密に可爲相心得候且是以後田地割取懸り候算者名書取立可指出候猶更前段之趣算者共等嚴重申渡請書取立可指出候以上 卯九月

改作奉行

諸郡

御扶持人

平十村

新田才許中

然レトモ元田地割ノ計算測量法ハ不正形ノ田畑ヲ一定數ニ等分スルモノナルカ故ニ之ヲ嚴重ニ云フ時ハ殆ンド不可能ノ事ニ屬シ又直接徵稅ノ増減ト關セス一ニ村民間ノ不平等ヲ避クルニアリテ村民ノ「納得」ヲ以テ最上ノ權威トナスカ故ニ計算法ハ必スシモ嚴重ナルヲ要セス從テ奉行所ノ試問ノ如キモ極メテ簡單ナリシト云フ

十三、竿取人

加賀藩ノ農政 改作法

田地割又ハ内檢地ノ時竿ヲ把リ間數ヲ呼フ檢地繩張人田地割分地人ノ補助者ナリ特ニ役人トシテ舉クルヲ須キス
十四番代

各郡一人ツ、御扶持人等ヨリ之レヲ置キ日々改作所へ詰サセ御用ノ取次ヲナサシムルモノナリ

以上ハ郡方役人ノ大要ナリ就中本論ニ重要ナルモノヲ摘出セハ左ノ如シ

改作奉行 時ニ御郡奉行ト分合ス士分ナリ

御扶持人 又惣年寄廻口ト云フ有祿ニシテ士分ナラズ以下ノ諸役皆士分

ナラズ

十村 又年寄並組主附組才許ト呼ハル無祿ナリ

新田才許

山廻

蔭聞役

村肝煎 又單ニ肝煎ト云フ一村ノ長ナリ

組合頭 肝煎ヲ助ク併セテ村役人ト云フ
分地人 田地割ノ技術者也又算者ト云フ
竿取人 分地人ノ補助者ナリ

第四節 施行セラレタル改作法

余ハ既ニ本藩改作法施行以前ノ農政ノ梗概ト改作法ノ由來並ニ其施行機關ノ稍詳細ナル記載ヲ了レリ更ニ進ンテ施行セラレタル改作法ト題シテ本藩ノ農政史ヲ述ヘサルヘカラス而カモ余ノ目的トスル所ハ本藩ノ農政其レ自身ニアラスシテ其田地割制度ニ存スルカ故ニ本節ニ於テ述フル所ハ後章ニ本藩農政ト田地割制度トノ關係ヲ明ニスルノ階梯タラシメントスルノミ即チ本節ハ本論ノ豫備的研究ナリ

徳川幕府時代ニ於ケル各藩ノ農政ニ關シ未タ見ルヘキ研究多カラス之レヲ比較對照シテ研究スルノ必要甚ダ大ナリト雖亦能ハサル所ナリ當時ニ於ケル本藩ノ農政元ヨリ四五ニシテ止ラスト雖之レヲ本論ノ豫備的研究トナスニハ次ノ二

加賀藩ノ農政 施行セラレタル改作法

點ニツキ論スルヲ可トセンカ

- 一 土地ニ對スル政策——農民ノ權利
- 二 租税ニ對スル政策——農民ノ義務
- 一 土地ニ對スル政策——農民ノ權利

余ハ本節ニ於テ當時ノ農民ノ土地ニ對スル權利ノ性質ニ付キ理論的論評ヲ試
ミントスルモノニアラス唯期スル所ハ本藩土地政策ノ記述ニアリ若シ夫レ本藩
ノ土地政策カ幾何ノ影響ヲ農民ニ與ヘ又田地割制度ニ及ボシタリヤトノ問題ニ
至テハ更ニ後段章ヲ改メテ論セントス

天正文祿ノ大檢地ハ豊臣秀吉ノ薨スルニ及ンデ止ミ後本藩ニ於テハ天正十一
年更ニ檢地ヲ始メ元和六年之レヲ完成セリ之レヲ總檢地ト云フ後改作法施行ニ
際シテハ元ヨリ檢地ノ事行ハレタリシモ後ニ詳述スルカ如ク本藩ハ税源ノ表示
ニ地積ヲ考慮ニ容ル、事無ク專ラ生産額ニヨリシヲ以テ檢地ハ他藩ニ於ケルガ
如ク重要ナラス僅ニ新田又ハ河岸崩潰山崩レ若クハ隱田ノ疑ヒアル場合ニ行ハ
レタルモノ、如シ之レヲ石崎氏遺稿加賀藩租税志ニ徵スルニ万治二年六月檢地

法八條ヲ算用場ニ下ス寛文十二年九月十日算用場ヨリ檢地例十一條ヲ檢地奉行
ニ下ス同日副令十條ヲ下スノ二項アルノミ而シテ當時各藩ガ最モ處理ニ苦ミ諸
藩檢地ヲ決行セントシテ屢々失敗ニ了リ水戸烈公ノ英斷ヨリ大檢地ヲ敢行セシ
ト雖尙其結果見ルヘキモノ少ナカリシヲ思ハ、本藩カ總檢地ヲ行フノ必要ヲ見
サリシ特種ノ制度ニヨリシ事頗ル注目ニ値スト云フヘシ之レ田地割制度ノ依テ
存セシ所以ニシテ後段詳論セント欲スル所ナリ

耕地ノ擴張ハ財力發展ノ一要法ナリ故ニ初代高德公以來新田開墾獎勵セラレ
明曆二年微妙公モ亦新開田及新村ヲ獎勵シ寛文三年四月十村ニ命シテ新開田五
年ノ後ハ年々其肥磽ヲ檢シ免相ヲ定メシメタリ之レ從來新開田五年ニ至リ本村
ノ免ヲ以テ正税全額ヲ納ムルノ法ナルヲ以テ百姓新墾スヘキ地アルモ之レヲ廢
棄スルモノ多カリシヲ以テナリ

次ニ本藩農民ノ土地ニ對スル權利ヲ述ヘンニ徳川幕府時代ノ農民ハ完全ナル
土地所有ノ權ナク僅カニ使用收益ノ權ヲ有セシノミトノ斷案ハ本藩ニ於テ一層
適切ニ證スルヲ得ヘシ蓋シ原則トシテ本藩ハ田地割制度ヲ施行スレバナリ即チ

農民ハ土地所有ノ事ナク高持者即チ土地使用收益ニ關スル權利ヲ有セシノミ改作法ノ完備ト田地割制度ノ勵行トハ原則トシテ土地所有ヲ許サス農民ヲシテ高持者タラシメシノミ蓋シ封建時代ニ於テハ采邑ハ單ニ土地ニ對スル權利ノ附與ニ止マラスシテ之レニ固着セル農民ノ所有ヲ意味シ土地ト人民トヲ保護スル責任ノ報酬トシテ受クルハ則チ貢納ナリ而カモ貢納ハ封主唯一ノ財源ナルカ故此財源ノ基礎タル土地ト農民トニ對スル政策即チ農政ハ專ラ收納ノ事ニ限ラレタルハ數ノ免カレ難キ所ナリ即チ本藩モ亦農政方針ノ確立施行ノ基礎トシテ最初ニ採ラサル可カラサリシハ租庸計出ノ臺帳作製ニアリ村御印御成替之ニシテ之レ一面ニ於テハ租稅ニ關スル規定ナリト雖他面ニ於テハ實ニ租稅負擔者タル農民ノ土地ニ對スル權利ノ承認表示ヲ意味セシナリ

明曆二年改作法稍ヤ成ルヤ封内各村ニ村御印ヲ下ス即チ天正以後封内各村ニ下シタル檢地狀俵高步數ナル事本章第二節ニ述ブルガ如シヲ收メ更ニ手上免租稅ノ増率ヲ通算セシ村高草高定約口米及定小物成敷貸米此等ノ説明後出ヲ錄セシ印書ヲ下セルナリ後寛文十年又更メ下セリト云フ今村御印ノ書式ヲ例示スレ

ハ左ノ如シ

越中利波郡塔野島村物成之事

- 一 一ヶ村草高之内三石明曆二年百姓方より上にて付て無檢地極
- 一 四百壹石

免五ツ三步内壹ツ貳步四厘明曆三年より上る

右免付之通可納所夫銀口米如定可出也

同村小物成之事

- 一 九十三匁 山役
- 一 壹匁 獵役
- 一 貳匁 鮎川役

右小物成之分は十村見圖リ之上にて指引於有之者其通可出也

明曆二年八月朔日

塔野島村百姓中

村高草高ニ關スル歴史的研究ハ後段之レカ租稅制度ト相待チテ如何ニ農民ニ影響シ本藩ニ於テ如何ナル政策ニ出デ田地割制度カ如何ナル潤色ヲ施シタルカヲ論スル條ニ遺シ唯本藩ニ於テハ原則トシテ田地割制度ノ存在アリ農民カ土地ニ對スル權利ハ其地理的、幾何學的、面積ニアルニアラスシテ經濟的生產力ニ

存セシトノ事實ヲ説カシ

村御印ニ表示セル所ノ草高ハ則チ一村ヲ單位トシテ全村ニ屬スル總地積ト生産力トヲ計量シテ其所得額ヲ通算セルモノナリ而シテ農民ハ此所得ニ對スル權利ヲ保有セシモノニテ村高ノ幾部分ヲ分チ有セシナリ總石數ノ内幾何石幾何斗ヲ所有セシナリ即チ農民ハ若干町若干反ノ使用收益ノ權ヲ有ストノ觀念ニ出テス自然的地積ノ増減地味ノ瘠肥等アルカ故ニ全村ノ總收益ノ若干分ノ若干ニ相當スル收益ヲ收得スル權利ヲ有セシト云フノミ

爰ニ於テカ各農民ノ權利ヲ明ニスル爲メニ一村内各農民所有高ノ臺帳ヲ要ス之レ所謂品々帳ノアル所以ナリ河合錄追加ニヨレバ寛文十一年始メテ各村ノ高免及百姓各自ノ所有高ヲ錄セシ簿冊ヲ製セシム之レヲ品々帳トイフ品々帳トハ村々高免品々帳ノ畧稱ニシテ後十村帳ト更メ文政五年二月組高帳ト改稱シ天保中復品々帳ト改稱セリト云フ品々帳ハ農民ノ土地財産權ノ登記ナルカ故ニ藩政意ヲ爰ニ用キ形式ニ於テ最モ完備セル天保度ノ書式ヲ示セハ次ノ如シ

天保 年

(帳面上書)天保八年高方御仕法渡百姓人別持高書上帳

何 村

何村誰

居村持高

何村ニテ懸作高

同斷

何村居村紐高帳入新開高

御圖免新開高

當時持高

何村誰

- 一何拾石
- 一何拾石
- 一何石
- 一何石
- 一何拾石
- 一何百石

一、、、、、
 一、、、、、
 一、、、、、
 一、、、、、
 一、、、、、
 一、、、、、

右私共在所百姓中持高相調理書上申候以上

天保 年

何村肝煎

誰

組合頭

殿

加賀藩ノ農政

施行セラレタル改作法

同 誰

余ガ越中國射水郡西條村大字長慶寺(當時西條組長慶寺村)ニ於テ得タル材料中

天保十年改

惣御高根帳

亥四月

西條組長慶寺村

ナルモノアリ之レ品々帳ノ一層完備セルモノニシテ高持者個々ノ外ニ一村ヲ總括セル記載ヲ有ス今其内容ヲ示セバ左ノ如シ

外

- 二百五十石 寛文元年川崩御檢地引高
- 七石六斗八合 元祿元年守山町川堀引高
- 百九十六石 同九年川崩御檢地引高
- 百九十八石貳斗八升八合 享保十六年川崩御檢地引高
- 草高 一六百三拾五石六斗一升二合 百姓數五拾八人

一三拾石

明曆二年手上高

一三百七拾石

明曆三年新開畑直シ高

一六石四斗九升二合

万治二年新開高

一壹石九斗九升六合

享保十五年手上高

メ千四拾四石壹斗

定免四ツ壹歩内九歩六厘明曆二年手上免

内百四拾二石四斗九升八合

御縮リ高

二拾七石九斗八升

高岡金屋町釜屋彌右衛門本横田村ヨリ懸作彌右衛門

六石二斗五升

高岡利屋町正安寺事倉垣組道村ヨリ掛作庄八

百貳拾九石七斗壹升

肝煎三郎兵衛

内九石二斗八升

天保九年切高

殘而百二拾石四斗三升

外ニ三石八斗八升三合

居村領享保八年畑直高河野開組高帳入

二拾一石六斗一升七合

居村領享保八年新開高河野開御圍リ免

二石二斗三升五合

居村領享保五年畑直新開高御圍リ免

三拾六石六斗

長江新村ニ而掛作持高

六石九斗五升

同村領天和二年新開高組高帳入

内壹石五斗

天保十二年切高

加賀藩ノ農政 施行セラレタル改作法

同村領享和五年新開高御園リ免

三斗八升
ノ百九十二石九升五合

組合頭磯右衛門

三拾九石五斗五升

居村領享保五年畑直シ新開高御園リ免

外ニ八斗三升七合

後畧

右ニ掲ケタル品々帳ヲ田園類説其他ニ載スル所ノ當時一般ニ行ハレタル所謂

名寄帳ト比較スルトキハ本藩農民ガ幾何的面積ナル觀念ヲ土地使用ノ上ニ有セ

サリシヲ證スルニ足ル可シ

名寄帳

字何	何右衛門
一上田何反何畝歩	
字何	
一中田、、、、、	同 人
字何	
一下田、、、、、	同 人
字何	
一上畑、、、、、	同 人

字何	同 人
一中畑、、、、、	
字何	
一下畑、、、、、	同 人
字何	
一下々畑、、、、、	同 人
小以	

何町何反何畝歩

分米何拾何石何斗

(名寄帳ハ蓋シ檢地帳水帳ナキカ或ハ之レアルモ便宜ノ爲メ作製スル所ニシテ皆坪數ヲ以テ示ス)

本藩ニ於テハ持高ノ質入及書入ハ嚴禁セル所ナリシモ其賣買ハ允許セラレタリ切高之レナリ切高ノ制ガ地割制ト相伴ウテ農民ニ影響セル狀ハ後段ニ讓リ爰ニ切高制ノ梗概ヲ述ベンニ元和以前ニ於テハ田島賣買ノ禁ナク權利ノ移轉自由ナリシモ元和元年十二月横山長知等公命ヲ奉シテ法令七條ヲ揭示シ其第三ニ自今以後公家ノ領ト給人ノ采地トヲ問ハズ嚴ニ其田畠ヲ賣買スルヲ禁ストナセリ後徳川幕府土地永代賣買ヲ禁スルノ令ヲ出セリ寛永二十年三月十一日ノ府令之

加賀藩ノ農政 施行セラレタル改作法

レナリ然ルニ元祿ノ初メ切高許可ノ令ヲ出シ同六年十一月朔切高後返還ヲ認フル取返高願者ニ對シテハ全然權利ヲ認メサルノ令ヲ出スニ至レリ然レトモ土地賣買ノ制ハ農政上重要ノ問題ナルコト封建時代ニ於テ特ニ甚クシキモノアルガ故ニ本藩モ亦多クノ干涉ヲ試ミ寛政十二年高方仕法書ヲ出ス事前後二回條文二十一ヶ條ニ渡リ専ラ之レニ關スル規定ヲ載セタリ之レ元祿以後數回ニ渡リテ公布セラレタルモノヲ一括セルモノナリ長文ニ失スルヲ以テ爰ニ之レヲ省キ天保八年更ニ公布セルモノヲ示スニ左ノ如シ蓋シ内容ハ殆ド同一ナリトス

- 一 禮米代銀(原則トシテハ土地賣買禁制ナルヲ以テ賣者ノ所得ヲ斯ク名ク)之義五ヶ村役人(前出五ヶ村組ノ村役人)立會取極可申切人取人申談不正之直段相立申問敷候事
- 一 成限小高持ニ爲致取高可申候小取高持之者取高望候而も長百姓是非可致取高等申出小高持共ニ爲取不申候も有之條にも相聞沙汰之限に候
- 一 取高いたし候は、翌春早速地分致し可申候小高にて地分難致分は其村格之通可相心得候延々にいたし置申分出來於有之ハ高取揚可申候
- 一 組主附手前え切高願に罷出候節代人或は子供拵指出置跡にて及申分候族も有之條沙汰の限りに候是等は村役人等困之致方に候條已來急度改可申候
- 一 五ヶ村役人名前加候迄にて判形等居村役人に打任切高願之節も不相出向も有之條に相聞

得候向後急度罷出可申候

一 別紙案文之法に致相違候分は下切高之取扱に可申付候事(下切高トハ公ナラサル切高ニシテ無効ナリトノ意ナリ)

天保八年十二月二十六日

改作方御郡奉行

以テ用意ノ周到ナルヲ察知ス可シ別紙案文トハ左ニ示スモノニシテ之レ持高賣買監督上必要ナルノミナラズ又田地割施行ノ重要原簿ナル前掲品々帳作製ノ基本ナリ而シテ左記案文ノ煩累ナルヲ見バ如何ニ持高賣買ニ周到ナル監督ヲ加ヘタルカヲ窺知スルヲ得ン

切高連判長證文之事

持高何石何斗之内

一 何石何斗主付印

代銀何百何十目

内

何石何斗主付印

何斗 同

何斗 同

何村何右衛門印

切高

但壹石ニ付禮米代銀何百何十匁宛

居村何右衛門取添印

居村何右衛門弟入百姓某取高印

何村方掛作何右衛門取添印

加賀藩ノ農政 施行セラレタル改作法

何斗 同
何斗 同

何村方初掛作何右衛門取添印
何村何右衛門弟入百姓何右衛門取添印

持高、、、、、

何村方掛作何右衛門印
切高

代銀、、、、、

内

、、、、、、
、、、、、、
、、、、、、

、、、、、、
、、、、、、
、、、、、、

右何村誰等何人當年御收納明米有之切高不仕而は外手段無之ニ付五ヶ村役人中立會重々詮
義有之成限切高敷相減禮米代之儀も切人取人立會五ヶ村役人中詮義之上取極右之通切高奉
行願上候所實正に御座候然る上は此末如何體之品御座候とも此御高に付少しも申分無御座
候
一切高仕候人々殘り持高以來開作丈夫ニ仕請納所無滞相勤可申候
一取高仕候人々着以後開作丈夫ニ仕請納所無滞御皆濟仕跡々御賃米返上等想而右御高當
之品急度相勤可申候

右之通取極候義相違無御座候依而御高切人取人連判長證文如件

年號月日

高切人何村何右衛門
受人一門何村何右衛門

、、、、、、
高取人何村何右衛門
、、、、、、

組主附 何誰殿
廻り口 何誰殿

右何村何誰等何人切高相願申ニ付私共立會詮義仕切高敷成限相減且又成限居村之者ニ爲致
取高居村望人無無據分迄掛作取高申談禮米代之儀モ重々詮義仕前段連判長證文上候通相違
無御座候取高人之儀寺社町人並二名百姓等紛敷者無御座候間御聞届可被下候尤右人々以來
開作丈夫ニ仕候様私共勢子可仕候右連判證文之内万一間違之品御座候ハ、私共幾重其越度
可御仰付候依而與審仕上申候以上

居村何村肝煎

組合頭

、、、、、、
、、、、、、

相續ニ關スル法令其後ヲ一ニセスト雖終始一貫セル主義ハ衆子相續若クハ讓與ニ制限ヲ施シテ新百姓ノ發生ヲ欲セザリシト斯クノ如キ分高ニ對シテハ合法ノ届出ヲ要シ私ニ之ヲ行フ事ヲ禁セントノ二點ニアリ

封建時代ニ於テハ長子相續ハ必然的現象ナルヲ以テ本藩亦此制アリシハ蓋シ當然ノ事ノミ寛文四年二月若シ新百姓ヲ立テント欲スル者ハ之レヲ改作奉行ニ具狀シ其命ヲ受クヘシト令シ延寶六年六月衆子相續ヲ欲スルモノハ生前豫メ遺言シテ之レヲ品々帳ニ記入スヘキヲ命シタルカ如キ之レナリ斯クノ如ク讓與及遺言ノ自由ヲ許容セシト雖又絶對ニ長子相續ヲ規定シタルコトアリ元祿六年十一月ノ令之レナリ然リト雖社會的及經濟的趨勢ハ法令ノ如何トモスベキニアラス後代ニ至リ長子相續ヲ原則トスルモ猶衆子相續ヲ許容セラル、ニ至レリ即寛政十二年所定ノ高方仕法書中左ノ條文アリ

一百姓二三男へ高分之義一圓不相成格ニ候得共五拾石方以上持高之百姓致分高残り高五拾石方内ニ不相成分ハ承届可申旨元祿中申渡置候通ニ候更ニ後代ニ至リテハ分割ノ自由ヲ加ヘタルモノ、如ク天保九年分高ニ關スル

書式ヲ規定シ切高ニ於ケルカ如ク用意周到ナルモノアリ然レトモ元ヨリ分高ハ頻繁ニ行ハレタルモノニアラサルコト封建時代ノ社會的及經濟的状態ノ然ラシメシ所ナリ 天保九年規定ノ分高ノ手續左ノ如シ

分高證文之事

- 一何拾石 何村何右衛門持高
- 内何十石 同人(弟トカニ男トカ)何右衛門え分高
- 何十石 残り高
- 外何十石 掛作持高

右私(弟トカニ男トカ)何右衛門儀致別家候ニ付持高之内右之通分高奉願候尤モ跡々御貸米返上等右分高ニ當リ分何右衛門より爲相勤可申候則一門納得之上重々相談仕御斷申上候間少シ茂相違無御座候万一以來此高ニ付何角申上候儀御座候ハ、如何様共越度可被仰付候爲其一門并請人連列仕書上申候以上 何ノ何年十二月

何村何右衛門印

(一門并受人)何村何兵衛印

組主附 誰殿

加賀藩ノ農政 施行セラレタル改作法

廻り口 誰殿
右何右衛門持高之内同人弟トカニ男トカ何右衛門之分高之儀私共立會詮議仕候所相違無御座候ニ付奥書仕御達申上候以上

何村肝煎

何右衛門

組合頭

五ヶ村肝煎

更ニ相續者若クハ被讓與者ヨリ御請ナルモノヲ呈出シ責任ヲ負フ可キ事ヲ約

御請

一何拾石 何村何右工門持高之内分出シ高

右私親より何右衛門持高之内私に分高仕奉存候然上は開作丈夫ニ仕諸御納所無滞御皆濟仕跡々御貸米返上等高當り急度相勤可申候爲其御請上申候以上

何ノ何年十二月

何村何右衛門印

組主附誰殿

廻り口誰殿

右私共在所何右衛門分出シ高主附入何右衛門御請上申通開作丈夫ニ仕候様勢を入可申候爲其奥書仕上申候以上

何村肝煎 何右衛門

組合頭

要之本藩農民ノ土地ニ對スル權利ハ其使用收益ニアリテ村御印ニ表示スル所ノ村高(自然的狀態ノ變遷ヨリ時々増減アリシハ勿論ナリ)之レニ該當シ各農民ハ其若干部分ヲ有セシナリ而シテ其質入書入ハ禁止セラレシ所ナリシモ賣買讓與相續ニ關シテハ比較的自由ヲ享有セシナリ而シテ賣買讓與相續ニヨル權利ノ移轉ハ毎歲村役人ヨリ改作奉行ニ届出ヅル品々帳之ニシテ各農民ノ土地財産權ノ登記ニ該當ス
而シテ爰ニ最モ注意ヲ要ス可キハ原則トシテハ田地割制度施行セラレ土地ノ使用收益ニ關スル權モ敢テ一定ノ土地ニ固定スルコトナキ事實ナリ之レ後章ニ於テ議論セント欲スル所ナリ

加賀藩ノ農政 施行セラレタル改作法

更ニ一言セサルベカラサルアリ其ハ土地ニ對スル權利—持高—ノ有無ニヨリテ農民ニ劇然タル階級ノ存セシ事之レナリ幕府ニ所謂百姓及水呑本藩ニ所謂百姓及頭振ノ別アル之レナリ農村ヲ組織スル住民ノ重ナルモノハ則チ此二者ニシテ百姓トハ高持者頭振ハ無高者ニシテ全然小作ニヨリテ生活スル者ナリ此外穢多藤内非人ト稱スルアリ最モ下級ニ屬シ皆高持者タルコトヲ禁セラル町人モ亦高持者タルコトヲ禁セラレ私ニ所有スルモノ(相對御地之レナリ)ノ沒收セラレタルコト屢々アリ御締リ高之レナリ神社ニ對シテハ初メ自由ヲ與ヘタルモ漸次取高ヲ禁止スルノ方針ニ出デタリ斯クノ如ク高持者ハ所謂百姓ニシテ彼等ハ次ニ述フル地租ノ負擔者ナリ而シテ之レ實ニ田地割制度ニ對スル唯一ノ權利者ナリ

二 租税ニ對スル政策—農民ノ義務

本章第二節ニ述ベタルガ如ク改作法施行以前ニアリテハ財政學ニ所謂課税標準ト税率トノ統一ナク上下擧テ困厄セシニ改作法實施セラレ明曆二年小松城ニ於テ各村ニ對シ村御印ヲ下スニ至リテ税制漸ク見ル可キモノアリ之レ一面ニ於テハ一ヶ村ヲ單位トシテ農民ノ土地財產權ヲ表示セル土地政策ノ基礎ヲナシ他

面ヨリ見ル時ハ農民ノ休戚ニ關シ且本藩存立ノ基礎タル税制問題ノ確定ナリ即チ天正以後封内各村ニ下シタル檢地狀ヲ收メ更ニ手上免ヲ通算セシ村高定約口米及定小物成敷貸米ヲ録セシ印書ヲ下セルナリ後寛文十年又之ヲ更メ下セリ石崎氏加賀藩租税志ニ曰ク蓋シ村免ヲ定ムルハ草高ヲ基ト爲シ新開ノ田畠アレハ則チ其高ヲ増サシム手上高之レナリ高アリテ田畠足ラサル者ハ其高ヲ減セシム之レヲ引高ト云フ稻ノ良否田ノ上下ヲ檢シ上田多キ村ハ其免ヲ増サシム之レヲ手上免ト曰フ海濱漁ヲ業トシ或ハ市場埠頭幅湊ノ地ハ民ノ所業自ラ多シ斯ノ如キ村ハ其免ヲ増ス之レヲ稼免ト曰ヒ以テ貢租ノ平均ヲ得シメタリト以テ這個ノ消息ヲ窺知ス可シ

村御印ノ様式ハ既ニ示セルヲ以テ更ニ進ンテ其内容ヲ述ベン

斯クノ如ク農民保護セラレ土地使用ノ權ヲ有セシヲ以テ之ニ對シ彼等ハ納税課役ノ義務ヲ負ヘリ本藩農民ノ納ムル所又他藩ノ如シ分チテ

物成附口米

夫銀

小物成

浮役

ノ四トナス

物成トハ即チ地租ニシテ土地ノ永續的用益ヨリ生スル收益ニ課スル所ノ租税ニシテ草高ヲ課税物件トシ高持者ノ收得ス可キ土地ノ收益ヲ税源トナシ高持者ヲ納税義務者トナス前掲越中國利波郡塔野島村村御印ニ一、四百一石免五ツ三歩トアルハ即チ

$$401 \times 53\% = 212.53$$

二百十二石五斗三合ヲ以テ物成即チ地租ノ年額トナスノ意ナリ之レニ口米ト稱スル附加税ヲ課ス其起源カ後日減米ニ對スル補充ニアルコトハ第二節ニ述ヘタルガ如キモ後萬治二年ニ至リ藏返米ト稱ヘ一部ヲ代官徵稅事務者一部ヲ給人物成ヲ受クル士ニ分チ與ヘタリ

小物成トハ物成以外ノ毎歲定納ノ租税ヲ云フ税源ノ發生消滅不定ナルモノニ課スル浮役ト區別セラル増補田園類説ニ

本途物成の外定納に成ものを小物成と唱定納に成かたき物を浮役と申候營業作場ノ取箇に類したる物にて今年は收納すれ共來年は不定成物ゆへ浮役と申よし承及候

トアル之レナリ前掲村御印ニ示ス

同村小物成之事

一九十三匁 山役

一匁 匁 獵役

一匁 匁 鮎川役

トアルハ即チ之レナリ物成ハ米納ナリシニ反シ小物成ハ金納ナリキ浮役ハ税源不定ナルガ故ニ村御印ニ記載スル事ナク當時一般ニ知行渡込高に浮役高結と申す事は無之ト増補田園類説其他ニアルカ如キハ蓋シ當然ノ事ナルベシ

夫銀ハ即チ課役ニシテ正租百石ニ對シ銀百四十匁ヲ課シ農民ノ勞力負擔ニ代ヘシコト既述ノ如シ

以上物成、小物成、浮役、口米、及夫銀ノ内口米及夫銀ハ物成ニ附加シ浮役ハ定納ナ

ラス小物成ハ特別ノ税源ニ對スル雜税ニシテ物成獨リ重要ノ地歩ヲ占ム故ニ余ハ更ニ進シテ之レニ就キ詳述セントス

物成ハ即チ地租ニシテ其負擔者ハ高持者タル農民ナリ權利ハ義務ヲ生ス土地
使用收益ノ權利ハ地租ノ物成納付ノ義務ヲ生ス土地使用收益ノ權利ヲ享有スル
モノハ即チ前段ニ曰フ高持者(百姓)ニシテ物成ノ負擔者即チ之レナリ口米及夫銀
ハ物成ニ附課セル所ニシテ高持者ハ原則トシテ農民ニ限レルカ故ニ本藩ノ財政
ノ基礎ハ高持者タル百姓ノ負擔ニアリ

改作法施行以前ヨリ行ハレタル歛役米ノ徵收ハ之レ所謂地方税ノ戸別割トモ稱
ス可ク高持者タルト無高者タルトヲ論セズ負擔ヲナシ而カモ地方行政ノ費用ニ
當テシノミ小物成浮役ニ至リテハ特種ノ職業ニ課セシ所得税營業税ノ類ノミ財
政ノ基礎ヲナスモノハ物成ニアリ百姓負擔ノ租米ニアリ封建制度ニ通有ナル勞
力供給ノ代償タル夫銀スラ物成ニ附課セラレタリ故ニ高持者タル百姓ハ有力ナ
ル負擔者ニシテ從テ又多大ノ權利ヲ保有シタリキ蓋シ當時高持者タル百姓ガ無
高者タル頭振以下ニ對シ特殊ノ尊敬ヲ買ヒタル所以爰ニ存ス

爰ニ最モ注意ヲ要スルハ納税義務者タル百姓ハ連帶責任ヲ有セシ事之レナリ
蓋シ改作法施行以前ニアリテハ納税單位ハ家族ニシテ其責任ヲ一家族以外ニ及
ボス事ナカリキ次ニ示ス法令ハ好個ノ例證ナリ(石崎氏遺稿加賀藩租税志ニ據ル)

元和十年二月令曰

代官給人百姓ノ未進米ヲ償ハシムル爲メ之レヲ召シ役使スルニ方リ其給
米他ノ奴僕ノ例ニヨル可シ期一年ヲ過クベカラス且未進米ノ息ト稱シ數
年之レヲ留役スヘカラス若シ未進多キ者ハ郡奉行ニ謀リ年數ヲ定ムヘシ
其寡キモノハ歲抄ニ至リ役使ノ日ヲ算シ米ヲ補給スヘシ

寛永八年令(郡奉行ニ)

給人百姓ノ租米未進アルカ爲メ其子弟ヲ召シ役使スル者百姓死スレバ子
弟ヲ村ニ還シ其家ヲ絶サラシムヘシ然レトモ田島ヲ受ケテ耕耘スル者ア
ラバ之レヲ給人ニ殘シ子弟ヲ還サハルモ可也

以テ納税義務カ一家族ニ限ラレタルヲ知ルベシ

然ルニ改作法施行セラル、ヤ其面目ヲ一變シ納税ノ義務ハ連帶的トナレリ石

崎氏前掲書ニ曰ク

逃亡百姓ノ未進處分

寛文四年十二月朔算用場ノ令ニ曰ク逃亡セシ百姓ノ租税及定作食米ノ未進ハ其全額ヲ十分シ給人ト全村ノ百姓トハ各三分十村ト組合村トハ各二分ヲ償フヘシト

十二年十一月十二日令曰

證人貧弱ニシテ償フ能ハサル者ハ嚮ニ十村貧百姓ヲ以テ證人ト爲スノ闕失アルカ故ニ十村代リテ之レヲ償ヒ全村戸數尠クシテ出ス能ハサル者ハ組合村代リテ之レヲ償フヘシ若シ逋負過分ニシテ遂ニ逃亡セシ百姓ノ増作食米未進ハ其組合ノ十村及巡視ノ扶持人ノ闕失ナルヲ以テ十村扶持人代リテ之レヲ償フヘシ

納税義務者ヲ家族(戸)ニ限ラスシテ連帶的トナセルコト以テ窺知シ得ベシ蓋シ本藩ニ於テハ原則トシテ納税單位ヲ一村ニ置キシコト納税證書タル皆濟狀ノ示ス所ナリ

皆濟狀ノ一例

納承應三年分年貢米之事

草高百五十一石二斗七升六合 免三ツ四步五厘

合五十六石三斗六升五合四勺 定納口米共組

外御定夫銀在

去年より改作ニ付八升口米

右皆濟之所如件

承應三年十一月十日

淺井源右衛門印判

利波郡金屋本郷村

太郎右衛門

仁兵衛

一村ヲ納税單位トシテ右ニ示スカ如キ形式ニ出ルハ各藩ニ行ハレタル所ナルモ特ニ本藩ガ一村ヲ打ツテ一團トナシ徵税ニ關シテハ戸々ノ責任ヲ問ハス專ラ之レヲ村内自治ノ方法ニトリ一村ヲ以テ一單位トナセルコト左記元祿十六年六

加賀藩ノ農政

施行セラレタル改作法

月ノ定書ノ内容ヲ吟味スル事ニヨリテ窺知スルヲ得ン之レ蓋シ手上高者アル時
税源増加ノ表示ヲ全村高ノ内ニ加ヘ手上高者ハ品々帳ニ於テ權利ヲ承認セラル
ルニ止ルヲ示セルナリ

手上高仕度旨百姓書付を以願候得ハ其品承届申付候但一ヶ村之内ニ而
人に限申付候ニ而ハ無御座候假令は其村之内ニ而も百姓働次第年々畦
畔を直し餘慶有之百姓一兩人手上仕候而茂其村中之手上に仕此方證
文茂村中之宛所ニ仕申付候人ニ限申付候而ハ何角出入等も仕候ニ付右
之通申付來候但下ニ而ハ致手上候者之高に仕候事云々

之レ嚮ニ述ヘタルガ如ク土地ニ對スル權利ハ一村ヲ單位トシテ表示シ農民ノ
享有スル部分ハ地理的ニ固定スル土地ニアラザルカ如ク納税ノ義務ハ又一村ヲ
單位トシテ表示シ權利ヲ享有スル農民ハ原則トシテ一團トシテ責任ヲ負ヘルナ
リ

本藩物成ノ課税物件ハ草高ナリ之レヲ表示スルニ石ヲ用キル之レ農民ノ土地
ニ對スル權利ノ表示ニシテ既ニ其一般ヲ述ベタリ更ニ進テ之レヲ租税制度ノ方

面ヨリ觀察セン

財政學ニ所謂課税物件トハ税源ヲ測定スル衡器タリト雖往々ニシテ二者同一ナ
ル事アリ本藩物成ノ如キハ實ニ此適例ニシテ草高ハ課税物件ナルト同時ニ税源
ヲ表示スルモノナリ而シテ更ニ本藩ノ特色トス可キハ本藩草高ハ直チニ課税標
準ヲ示スモノナルコト之レナリ之レヲ本邦税制ノ發達史ト徳川時代ノ税法トニ
比ス蓋シ興味ノ深キモノアリ

本邦租法ノ變遷ヲ述ブルハ本論ノ所期ニアラス而カモ歸趣ノ一般ヲ明ニスル
ハ又研究ノ順序ナリ

之レヲ詳ニスルノ材料ニ乏シキ本邦上古ノ租税制度ハ暫ク擱キ大化以前ノ税
制其起源モ亦明ナラス中課税物件税源ノ査定表示ニ關スルモノヲ見ルニ田地高
麗尺方六尺ヲ以テ一步トナシ獲稻ニ把春稻一升ト定ム後白雉年間改正アリ(本不
動産法沿革史ニヨレハ白雉年間ノ改正ハ)後再ビ古制ニ復シ文武大寶ノ田令ニ於
テハ大化ト同様ニシテ租ハ田ノ面積ニ應シテ課シ獲稻ヲ定メ獲稻若干ニツキ租
稻若干トナスナリ爾後慶雲三年九月和銅六年二月延曆十四年同十九年ノ間租法

ノ變遷アリシト雖之レヲ要スルニ鎌倉開府以前ニ於テハ(之レヲ唐制ニ模倣シテ)課税標準ノ表示ハ田積ヲ以テシ之レニ平均ノ租額ヲ定メ税源トシテノ獲米ノ記載ハ事實ニ於テ無意味ノモノナリキ延喜ニ至リテハ田ヲ上中下々ノ四等ニ分チ獲稻ノ算定ハ田ノ品位ニヨリシト雖租額ハ各等皆同一量ナルノ奇觀ヲ呈セリ鎌倉時代ハ日本農制ニ對シ特殊ノ紀元ヲ劃スルモノニシテ租法ノ整然タルモノアリ田ヲ上中下ノ三等ニ分チ獲穀獲米租米ヲ品等ニ從テ定メ之レニ面積ヲ乘シテ租額計出セリ而シテ爰ニ貫高ノ稱ヲ生ズ蓋シ當時ハ封建制度發生ノ初期ニシテ兵農漸ク分レ農民ハ地租以外所謂兵糧米ノ負擔ヲ増加シ知行高ノ表示ハ面積ニ比例シテ課セラレタル兵糧米ノ數量ヲ以テセリ之レ貫高ナリ

貫高ニ關スル論議極メテ多キモ今田制篇ノ著者ガ鎌倉幕府以來所領ノ田數ヲ計フルニ町段ヲ以テセズ貫高ヲ以テ稱セリコノ頃ノ田地ノ收納ハ米納チ以テセス假令ナリ以テコレヲ收ムルナリト言ヒタルニ從フ

貫高ヲ以テ課税物件若クハ課税標準ノ表示ニアラズシテ直チニ納税額ヲ云フモノトスルモ實際ニ於テハ課税標準カ土地面積(ト品位ト)ニアリタルコト「幾町幾

反ノ分錢幾十幾貫文ト定メトアルニヨリテモ知ラルベシ

若シ夫レ貫高ヲ以テ錢納ノ額ニアラズシテ所謂六貫一匹千坪一貫ノ制ニヨリ地積ヲ意味スト云フニ至リテハ課税標準ノ表示カ全然面積ニヨリタルヲ證スルモノナリ 足利時代ニ至リテハ朱明永樂ノ銅錢輸入セラレ爰ニ於テカ永高ノ稱起レリ之レ土地ノ等級ニ從テ一定面積ニ對スル租額ヲ永樂錢ヲ以テ表示セルモノニシテ明ラサマニ課税物件ト税源ノ表示ナカリシモ實際ニ於テハ貫高ト選ブ所アラサリシナリ 然ルニ豊臣氏ニ及ヒテハ大檢地ヲ行ヒ舊制ノ紊亂ヲ一掃セシトシ田畠ヲ三等ニ分チ品位ト面積トニ應シテ各獲穀租米ヲ計出セリ天正ノ石直シ之レニシテ爾來石ヲ以テ高ヲ表ハシ徳川時代租法ノ基本ヲナス

徳川氏天下ヲ統一スルヤ封建ノ制漸ク完備シ幕府ハ其直轄地以外ハ二百七十有餘ノ大小諸侯ヲシテ各獨立シテ其領内ヲ管轄セシメタルヲ以テ租税制度ノ如キモ素ヨリ全國劃一ナラサリシモ各藩ハ概ネ幕府ノ制度ニ模倣セリ徳川氏直轄地ニ於ケル地租ノ査定ハ原則トシテ檢地法ニヨリ田積ヲ丈量シ之レヲ上中下ノ三等トナシ(貞享三年上々下々ノ二等ヲ加へ五等トス)各等級毎ニ一定面積ニ對シ

刈粃ヨリ石盛ヲ計量シ之レニ税率ヲ乘シテ租米ヲ定ムルニアリキ即チ所謂村高ヲ以テ課稅物件ヲ表示セリ之レ亦稅源ヲ意味スルカ如キ觀アルモ實際的課稅物件ノ表示カ面積ニアルコト先ニ述ヘタル名寄帳ニ田畑一人限ノ持反別ヲ連記シ之レニ品等ヲ附シタルニヨリテモ知ルコトヲ得ベク課稅標準ニ至リテハ全ク面積ト品位トニヨレリト云フ可シ

之レヲ要スルニ本邦稅法ハ鎌倉幕府以前ニ於テハ單ニ面積ヲ以テ課稅標準ノ表示ヲナシ鎌倉幕府以後徳川時代ニ於テハ田畠ノ品位ヲ考量ニ加ヘ課稅物件並ニ課稅標準ノ表示ヲ面積ト品位トニ求メ村高ハ單ニ稅源ヲ意味ストナスヲ可トスルノ觀アリシ也而カモ實際ニ於テ村高ガ無意味ナリシ事即稅源ノ査定表示ハ年ニ從テ變動アリシコト後段述ベントスル處也

本藩ニ至リテハ乃然ラズ課稅物件ハ併セテ稅源ヲ表示シ同時ニ課稅標準ヲ意味セシナリ一村ヲ單位トセル生産力ヲ石ヲ以テ示シ所謂村高草高トシテ記サレ地理的幾何學的計量ハ何等考量ノ内ニ入ラサリシナリ先ニ示セル塔野島村々御印ニアル草高四百一石免五ツ三步トアル四百壹石トハ塔野島村一ヶ村ノ生産

力ヲ所謂根取ノ計算法ニヨリテ石ヲ以テ表示セルモノナルガ之レ同村高持者タル百姓ノ土地使用權ヲ數量ヲ以テ現シタルモノニシテ應テ之レ課稅物件ヲ意味シ併セテ稅源ニ該當ス而シテ課稅ニ際シテ當時一般ニ面積ト品位トニ依リシニ反シ本藩ハ單ニ草高ニ對スル歩合ニヨリシヲ以テ同時ニ草高四百一石ハ本村ノ課稅標準ナリシナリ然リト雖元ヨリ一村ノ生産力ヲ計量スルハ先ツ其面積ヲ測定シ其品等ヲ檢シ獲米ヲ定ムルニヨリテ得ルト雖一單一村ノ草高定マルニ於テハ最早面積ナル觀念ヲ消失シ從テ一村ノ内上田幾何町下田幾何反アルヤヲ表示スルヲ要セザリシナリ即チ嚮ニ記載セル品々帳ノ内容カ全ク田畠ノ面積ナル觀念ヲ帶ビザルヲ以テモ窺フ事ヲ得ベシ

若シ夫レ更ニ進ンテ本藩カ特種ノ平均免及定免制度ヲ採用セルヲ思ハバ上述ノ特質ヲ更ニ一層明ニスルコトヲ得ベシ
改作法施行以前ニ於テハ管ニ年ノ豊凶ニヨリ租米ニ變動アリシノミナラス其査定紊亂ヲ極メ且税率ニ至リテモ統一ヲ缺キ同一村内ニ於テスラ相隣シテ税率ヲ同ウセザリシ事アリ改作法施行セラレ村御印ヲ下スニ及ンデ税率ノ確定ヲ見

タリ平均免及定免制度之レナリ

徳川幕府時代ニ於テハ税制ニ定免及檢見ノ二大別アリ三代將軍家光ノ時ニ至リ一般檢見取ト爲シ定免取ヲ廢セリ後檢見取ノミニヨルノ弊ニ堪ヘス幾ナラズシテ再ビ兩法併ヒ行ハル然リト雖本藩ニ行ハレタル定免ト當時他藩ニ行ハレタル定免トハ自ラ相異ルモノアリ蓋シ一般ニ謂フ所ノ定免トハ地方落穂集ニ定免ト云ハ享保年中より初リ、尤も五年三年の年限を限り、然れ共田畑甲乙有テ決シ難キ場合は定免を受ズ、年季明又は年季切替の度々吟味の上増減ある事ナリ定免にて難義の時は類テ檢見取に成、

又地方凡例録に

年季(定免)は先づ試みに三箇年季程に極る方然るべけれども體によりては五箇年にも定むべし最初より長年季には極ずして切替の節五箇年にも七箇年にも致すべし村方よりは長年季を願ふとも七箇年より長くは致すべからず云々

トアルカ如ク(一)季ヲ限リ(二)場合ニヨリテハ檢見取ニ變スルヲ得(三)季毎ニ檢見スル制ヲ言フナリ 故ニ村高トシテ記載スル所ハ檢見取ニ於テハ勿論定免取ニ於テモ直チニ課税標準ヲ表示スルモノニアラスシテ租税ノ算定ハ結局田畠各等級ニ於ケル面積ニヨリテ各歳若シクハ短期間行ハザルベカラズ之レ一般ニ名寄帳ニ於テ田畠ノ等級ト坪數トヲ記載セル所以ナリ

本藩ニ於テハ則チ然ラズ改作法施行以來定免ヲ以テ年季明ノ事ナク又檢見取ノ制ナシ 唯旱水風害甚シキ際ハ所謂見立願(又見立乞)ヲナシテ減免ヲ乞ヒ或ハ地味ノ上進ニ從テ増税(手上免)シ或ハ又新開地ニ於テ收益不定ナル場合ニ(圖リ免)ト稱ヘ檢見取ニ類スルモノアリシカ如キ例外ヲ有セシノミ 此等ハ蓋シ改作法ノ目的カ年ノ豐歉ヲ檢シ免ヲ定メ正租ヲ増減スルノ繁ヲ省キ田ノ肥磽ヲ審檢シテ村免ヲ定メ毎年貢租ノ額ヲ一定シ萬世變ラサルノ簡ニ就クニアリトナセル之レナリ夫レ改作法ノ主旨定免制ニアルコト然リ又自ラ平均免制度無カラサル可カラズ

一村内相隣シテ免相ヲ異ニセルハ徳川時代ニ屢々見ル所ニシテ改作法施行以

前ノ本藩モ亦然リ。農政完備セリト稱セララル、水戸烈公ノ大改革ニ於テモ一村
内免租地ニヨリテ一定セス田畑ハ上、下、中、下、下々ノ五等ニ區分セラレ各等ノ稅
率ハ一村三段若クハ四段ニ及ヒ一村内免租ノ等級十五乃至二十級ニ及ヘリト云
フ本藩ニ於テハ則チ然ラス改作法カ收稅上ノ簡ニ就キ弊ヲ除カントノ主旨ノ下
ニ定免制ト相伴ヒテ平均免制度ヲ採用セルハ蓋シ自然ノ勢ナリ

要之當時一般ニ徵稅法カ所謂定免取若クハ檢見取ニヨルモノナルカ故ニ村高
トハ稅源ニモ課稅物件ニモ課稅標準ニモアラスシテ此等ノ表示ハ結局別ニ土地
ノ品位ト坪數トニヨラサル可カラサリシモ本藩ニ於ケル村高ハ之ト同時ニ課稅
物件稅源及課稅標準ニシテ徵稅上土地ノ品位ト坪數トヲ一々考慮ニ入ル、ヲ要
セザル特種ナル定免及平均免制度ヲ伴ヒタルナリ

若シ夫レ此等特有ノ制度ガ田地割制度ト相待テ如何ニ農民ニ影響スル所アリ
シヤハ先ツ田地割制度ノ本體ヲ明ニシテ然ル後叙說セントスル所ナリ

本藩農政ノ梗概上述ノ如シ然カモ本章ノ目的ハ本藩農政史ノ詳細ヲ盡サンカ
爲メニアラス余ノ希望スル所ハ之レニヨリテ本藩農民ノ權利ノアル所及義務ノ

存スル所ヲ明ニシ以テ本論ノ研究ニ入ル階梯タラシメントスルノミ

第三章 加賀藩ニ於ケル田地割制度ノ名稱

舊加賀藩領内ニ寛永十九年(一六四二年)ヨリ明治地租改正ニ至ル二百三十餘年間一村ノ土地ヲ該村草高ノ所有者ノ共同使用トシ若干年數毎ニ特定ノ標準ト方法トニヨリ所有者ニ分配シ其使用收益ヲナサシメタル特種ノ土地制度行ハレタリ一般農民名ケテ「地割」ト謂フ土地ハ藩主ノ所有ナリトノ觀念ノ下ニ農民ハ尊ヒテ御ノ字ヲ冠シ農民ヨリ藩府ニ或ハ下官ヨリ上官ニ斷リ達スルニハ御田地割ト呼ビ上ヨリ下ニ申付仰渡サル、ニハ單ニ田地割ト言フヲ例トス 又單ニ田割ト呼フ天保九年戊戌六月改作奉行安田新兵衛外一名ヨリ諸郡惣年寄年寄並新田才許山廻中ヘノ廻文ニ見ユ 又碁盤割ノ稱アリ天保十年七月規定ノ田地割願書猶豫願等ノ書式ニ見エタリ之レ御番割ヲ誤リタルモノナリトナスモノアリ暫ク疑ヲ存ス 土屋又三郎著耕稼春秋ニ曰ク

加越能三州ハ御改作の割村々惣百姓田地割ありて其以後無斷田地割致さぬ御格也然れども故有て御檢地入又は入百姓に有所は何時によらす斷の

上地割する格也然は一ヶ村の田地割を碁盤割と云

ト蓋シ田地割ハ第一回封内一般ニ行ハレタル總稱ニシテ碁盤割ハ一村邑ニ就テ曰フナリトナスナリ然レトモ余ハ特ニ斯ク區別スルノ必要ヲ認メス實際ニ於テハ田地割碁盤割ト呼フモ内容ニ何等ノ差異ヲ見サレバナリ

第四章 田地割制度ノ起源持續及廢滅

第一節 起源

本制度ノ起源ニ關シ信憑ス可キ資料トシテ余カ蒐集シ得タルモノ改作始末聞書(一名農政記聞)及同追加ノ二書アルノミ之レヲ古老ニ尋ネシモ元ヨリ僅ニ參考ニ資スルノミ以テ據ル可キノ微證タラス 若シ夫レ本藩農政史ノ一般ヲ究メハ本制度ノ起源ヲモ自カラ之ヲ想像シ得ン詢ニ余カ未ダ上記ノ二書ヲ發見セザリシ際ハ僅ニ想像ノ翼ヲ擴ケテ自ラ慰メントセルノミ而シテ又自ラ信スル所アリシト雖其發生ノ年月ニ至リテハ改作法施行ノ年月ト相近キモノアルヲ想像シ得タルニ止ル蓋シ本論ヲ讀ミテ第二章本藩ノ農政ヲ論スルノ條就中改作法ノ由來ト農民ノ權利義務トヲ述べタル節ニ至ラハ思ヒ半ニ過クルモノアラン實ニ余ハ一方上記二書ニ發生ノ年代ト原因ノ直接ノ證左ヲ求メ他方改作法ノ内容ヨリ歸納演繹スルニヨリテ本節ヲ草セントスルモノナリ 改作始末聞書及同追加ハ武部敏行氏ノ撰フ所微妙公御夜話拾纂名記可觀小説等ヨリ抄録セルモノニテ正確

ニシテ信憑スルニ足ルト云フ

一發生ノ年代

本制度發生ノ年代ニ關シ改作始末聞書ニ曰ク

一田地割と申事は寛永之頃までは無御座由にて百姓毎々田坪大低極り居體に相見候御給人衆御人々御收納免違に相成居候に付百姓におゐても地頭に寄損徳有之事に御座候寛永十八年是迄之御給人衆多分上り知に相成其平均免にて新御知行出に相渡候處百姓田坪極り居候分にては以來御收納仕方相混有之付寛永十九年初而田地割と申事被仰付新知渡り之分は不及申百姓之内新御給人先御給人兩様有之先御給人高免違之分は村中より餘内可申田地割之義は一繩の御平均に候間先御給人當御給人押込割符可仕旨伊藤内膳様被仰渡候其以來正保中迄も掛り一統田地割仕候由に御座候

又御改作始末聞書追加ニ曰ク

御改作之時被仰出には見へ不申候へ共寛永十八年御給人衆御知行上り知

多き事有之御取免を平均方被仰付候其節田地一繩之内に付先給人々新給人分平均方可仕旨被仰付候而御田地割始り申候

右二書ノ中前者ニヨレハ本制度ハ寛永十九年(一六四二年)ニ創始セラレタルヲ示シ後者ハ之レヲ裏書スルモノナリ若シ或ハ之レヲ危ムモノアラハ次ニ述フル本制度發生ノ由來ヲ詳ニスルニヨリテ自ラ釋然タルモノアラン 而シテ本制度ハ寛永十九年ニ創始セラレシト雖直チニ本藩全體ニ施行セラレタルモノナラス當時ハ一少部分ニ實施セラレ逐次全藩ニ及ビ正保ニ至リ一般ニ實施セラレタルコト上ニ引用セルカ如シ之等ノ經過ト歸趣トハ節ヲ重ネテ述ヘントスル所ナリニ發生ノ由來

本制度ノ起源ト持續トニ關シテハ先ツ本藩ノ農政就中改作法ノ由來ト農民ノ權利義務トヲ詳ニセサル可カラス之レ余カ比較的詳細ナル研究ヲ前章ニ試ミタル所以ナリ就中改作法施行ノ由來ト其爰ニ及ヒタル施行以前ノ農政農民狀態ニ關スル記述ハ本制度ノ起源ヲ明ニスルノ要項ナリ

余ハ再ヒ此等ノ記述ヲ敢テスルモノニアラス次ノ數項ヲ掲ケテ研究ニ便セン

トス

一 改作法施行以前ニハ

い正租ハ年ノ豊凶ニヨリテ定メタルコト 爲メニ毎歲其査定ニ煩ニシテ收者納者ノ間ニ不正行ハレ農民モ藩士モ困厄甚シカリシコト

ろ免相(税率)ハ村ニヨリテ甚シク差異アリシノミナラス一村内ニアリテモ同一ナラス相隣シテ輕重アリシコト爲メニ農民ノ困憊不平甚シカリシコト

は免相ハ表面上一定セルモ之レニ封セラレタル給人擅ニ自ラ増減シテ爲ニ農民ノ困難甚シカリシコト

二 此等ノ弊ニ堪ヘス之レヲ改革セントシテ

い、微妙公寛永十年(一六三三年)各地ノ免相ヲ錄上セシメタルコト

ろ、慶安四年(一六五一年)改作法ヲ始メ明暦二年(一六五六年)粗終リタルコト

は、爾後専ラ改作奉行ヲシテ此主意ニ基キ農政ニ當ラシメ明治廢藩ニ至リ

シコト

三改作法ノ主旨ハ元ヨリ勸業濟民ニアリシト雖專ラ租税ニ關セシコト即チ
 い、一村ヲ以テ徵稅上ノ單位トシ全村農民ノ權利義務ノ表示即チ課稅標準
 ノ表示ヲ幾何學的面積即チ坪數ニヨラヌシテ石數ナル土地ノ生産力ヲ
 以テセシコト

ろ、各農民ハ其若干部分ヲ所有セシコト即チ高持者タリシノミナルコト
 は、一村平均免トセルコト
 に、一村定免トセルコト

改作法ハ田地割制度ノ素因ノ一ナリ然レトモ余ハ其説明ニ先チテ依テ爰ニ至
 リシ誘因ヲ述ヘサル可カラス

田地割制度發生ノ誘因ヲ寛永十八年ノ上リ知トナス先ニ發生ノ年代ヲ述フル
 ニ當リ改作始末聞書及同追加ヨリ引用セルモノ、外前者ニ見エタル次ノ一節ハ
 又參考ノ資タリ曰ク

又寛永十八年ニ同十三年より十七年迄御給人衆區々之御取免書上に相成
 候是は同十六年微妙院様御隠居御願被遊同年富山様大聖寺様に御分國被

極候ニ付御隠居御領貳拾二萬石富山様御領拾七萬石御切分被仰付候由ニ
 而同十八年御給人衆御知行上り知多く又新御知行出も多く有之此上り知
 に相成候分免相五ヶ年平均方被仰付候而其平均免ニ而新御知行出に相成候
 三清村(越中國綱波)にても惣高之内御給人衆五人ニ而四百四十五石余上り
 知に相成候其平均免四ツ八歩八厘余ニ付其高新御給人衆五人之御知行出
 に相成候ニ付皆四ツ八歩九厘ニ御座候此外之高六百拾四石余は此時上り
 知に不相成分ニ付是迄之御免相也此分平均候へは四ツ五歩五厘免と相成候
 以上ニ徵スルニ寛永十八年分國ノ爲メ所謂上リ知ヲ多ク生シ又新御知行出ヲ
 見ルニ至リ一村ノ内石高(課稅標準)及免相(稅率)ノ變動ヲ生シ且從來ハ一村内ニテ
 モ免相一ナラス從テ農民ハ其耕作スル場合ニヨリテ負擔利害ノ關係ヲ異ニシキ
 然ルニ爰ニ課稅標準ト稅率ノ變動ヲ伴フ租額ノ増加ヲ來セシヲ以テ課稅上大ナ
 ル煩累ヲ生シタリキ此調和策トシテ案出セラレタルモノヲ田地割トナス即一村
 ニ對スル租米ヲ總村高ヲ以テ除シタルヲ平均免相トナシ場所ニヨリテ免相ヲ異
 ニスルノ煩累ヲ避ケシメンガ爲メ農民ヲシテ其使用權ヲ特定ノ土地ニ定ムルヲ

得スシテ村高ノ内若干部分ヲ所有スル所謂年期割替ニヨル耕地共有制即チ田地割ヲ見ルニ至リシ也

田地割ノ誘因上述ノ如シ即チ一村平均免主義カ寛永十八年ノ上リ知ニヨリテ實行セラレタルナリ而シテ實ニ一村平均免主義ハ改作法ノ主旨ノ一ナリキ之レ余カ改作法ヲ以テ本制度ノ素因トナス所以ナリ 改作法未タ成ラズ而カモ其ノ趣旨ハ既ニ爲政者ノ胸中ニ存シキ慶安四年(一六五一年)初メテ其業ニ就キシト雖微妙公カ之レヲ企圖セルハ寛永三年(一六二六年)ニ始リ寛永十年(一六三三年)ニ至リテハ各地ノ免相ヲ録上セシムルニ至レリ而シテ改作法ノ主旨ハ平均免ト定免主義トニアルカ故ニ其形態ヲ備ヘシハ其組成リタル明暦二年(一六五六年)ニアリト雖微妙公ノ劃策ハ田地割制度(一六四二年ニ初マル)ヲシテ先ツ改作法ニ先チテ發生セシメ以テ平均免ナル其主旨ノ一ヲ實現セシメタリ即チ田地割制度ハ改作法ノ主旨ノ結果ニ過キササルナリ

蓋シ改作法ノ主旨ハ歳ノ豊凶ニヨル檢見法ヲ廢シテ定免法トナスト一村内區々ノ免相ヲ統一シテ平均免トナス即チ村免ヲ定ムルニアリ而シテ又實ニ前者定

免法ノ圓滑ナル運行ハ後者(平均免法)ニヨルヲ最良トス故ニ偶マ寛永十八年ノ上リ知ハ田地割制度ヲ發生シ平均免法ヲ行ハシメ一ツハ以テ改作法ノ主旨ノ一ヲ實現シ他ハ以テ定免法ニ至ル階梯ヲ作レリ蓋シ改作法ノ形體ヲ完備セシハ田地割制度發生ノ後ニアリト雖其發動ハ先ツ田地割制ヲ以テセリトナスヘシ即チ微妙公以下當時ノ爲政者ノ理想トセシ所ハ平均免法ト定免法トニアリタレハナリ斯クテ改作法ノ完成ハ本制度ノ確立ヲ意味シ村御印ノ制定ハ原則トシテ田地割制度ニ依ラサル可カラサルヲ示セリ而シテ定免法ト平均免法トヲ理想トスル改作法カ明治廢藩ニ至ルマテ本藩農政ノ中心タリシヲ思ハ、田地割制度ノ歸趣察スルニ餘リアラン

若シ夫レ本藩カ何故ニ農民ノ土地ニ對スル權利ト義務トノ表示ヲ屢々述フルカ如ク單ニ石高ヲ以テシ一村ヲ徵稅ノ單位トシテ村御印ニ示スカ如キ表示ノ方法ニ出テシヤトノ疑問ニ對シテハ自ラ釋然タルモノアラシ蓋シ之レ田地割制度ヲ生シタル原因ノ當然ノ結果ナレハナリ

爰ヲ以テ余ハ私有地制度カ共有地制度ニ變スルコトノ必スシモ不可能ナル事

ニアラサルヲ證シ以テ中田薰氏カ越後ノ割地制ニ關スル研究ノ全部ニ首肯スルコト能ハステニ古志郡下條村ニ於ケル石高ニヨル割地制ノ起源ヲ他ニ求ムルノ必要ヲ感シ少ナクトモ同氏カ越後ノ該制度ヲ一括シテ論シタルノ不可ナルヲ信スルモノナリ

第二節 持續ト廢滅

斯クノ如クシテ田地割制度發生シタリ然ラハ其持續ト廢滅如何

寛永十九年始メテ本制度布カレ正保年中封内一般ニ普及セラレヌ爾後割替行ハレタリ嚮ニ本制度ノ名稱ヲ述ブル條ニ耕稼春秋ノ著者カナセル田地割ト碁盤割トノ區別ハ第一回ノ割替即全藩ニ普及セシメタル際ノモノト爾後ノ割替トノ間ニ求メタルモノナリ斯ク區別スルノ當否ハ暫ク擱キ其實質ニ於テハ特別ノ差異ヲ見サルナリ一般普及後ハ特ニ藩政ノ干涉ヲ見ズ殆ント農民ノ自治ニ任セタリ蓋シ本制ハ所謂百姓相互之義納得次第ニテ施行セラレタルモノナレハ特殊ノ法規ヲ設ケタル跡ナシ唯僅ニ寛文中引地(後出)ノ額ヲ定メタルト元祿十六年

令ヲ出シテ田地割ヲ屢々施行スル時ハ耕作ニ忠實ナル農民ニ不利ヲ與ヘ地味ノ變動アル時ニ於テ施行セシム可キヲ論セシコトアリシト文政十二年引地ニ關スル不正ノ矯正ヲ布令セシモノアリシノミ然ルニ後代天保年度ニ至リ藩政漸ク煩雜トナリ法令制度ノ制定善美ヲ盡セルニ當テハ田地割制度ニ關シテモ幾多ノ法令ヲ出スニ至レリ此等ノ改革ノ詳細ナル記述ハ更ニ次目ヲ分チテ後段ニ試ミン斯クノ如ク初メ専ラ農民ノ自治ニ任セ百姓相互之義納得次第ヲ以テ施行セシメタルヲ以テ御改作始末開書追加ノ著者カ其以來大抵二十年ニ一度充行ハレタルヲ誌スト雖天保年中嚴正ナル法規ノ制定アリシマデハ必スシモ全藩各所ニ行ハレシニ非ズ本制ノ必要ヲ見タル場合ニ限り行ハレタルノミ而カモ本制ハ原則トシテハ全藩ニ行ハレタルモノト云フ可ク村邑ニヨリテハ大略二十年ノ間隔ヲ置キテ行ハレタル實例少ナカラス以テ明治地租改正時ニ至ル余ハ更ニ進ンテ本制度持續ノ所緣ヲ述ヘン

夫レ物ノ發スル必スヤ因果ノ關係無カルベカラス一度發シテ其生命ヲ持續スルモノアラハ又何物カ其原因タラサル可カラス田地割制度ハ改作法カ定免法ト

平均免法トヲ要求スルニヨリテ發生セリ而シテ改作法ノ主義ハ持續シテ明治廢藩ニ及ベリ田地割制度ノ持續又怪ムニ足ラサルモノアルガ如シ然ルト雖更ニ一步ヲ進メテ考察スレハ一度定免主義ニ基ク平均免法ノ行ハレ農民間甲乙無キニ至ラハ又更ニ年期割替ノ要無キモノノ如シ何ゾ好シテ田地割替ノ煩ヲナサンヤ而カモ本制度ハ必要ナル制度トシテ明治維新ニ及ヘリ之レ他ナシ次ニ掲グル四個人ノ重要ナル狀態之レニ伴フモノアリケレバナリ曰ク

一、土地ノ經濟的狀態ノ變動

二、村高ノ増減

三、水田耕作

四、農民ノ心理的狀態ト當時ノ社會的狀態

余ヲシテ曰ハシメハ前二者ハ促進的條件ニシテ積極的ナルモノ後二者ハ持久的條件ニシテ寧ろ消極的ナルモノナリ乞フ之レヲ説カン

一、土地ノ經濟的狀態ノ變動

余ハ農藝物理學土壤學等ノ應用自然科學ノ圈内ニ入リテ土地ノ自然要素ノ變

動ガ如何ニ行ハレ如何ナル現象ヲ呈スルカヲ論スルノ煩ヲ敢テスルモノニアラズ或ハ又純正經濟學ノ方面ヨリ土地ノ自然要素カ其經濟的狀態ニ及ボス影響ノ理論ニ筆ヲ染メントスルモノニアラズ或ハ又土地ノ自然要素ノ變動以外其經濟的狀態ヲ變ズル要素アルヲ云々セントスルモノニアラス唯土地ノ自然要素ハ種々ノ原因ニヨリテ間斷ナク變動シ其間斷ナキ變動ガ土地ノ經濟的狀態ニ變動ヲ與フル強力ナル原因ナルヲ言ハントスルノミ

平均免法ヲ出發點トセル田地割制度ニシテフオン、チューネンガ想像セル孤立國ノ如ク自然的狀態均一ニシテ而カモ終始何等ノ變動ナキ土地ニ施行セラレタリトセバ焉ソ屢々割替ヲ行フノ要アラシヤ蓋シ本制度、持續ノ一要件トシテ舉グ可キモノ、土地ノ經濟的狀態就中生産力ノ變動之レナリ

爰ニ經濟的狀態ノ變動トハ専ラ水害ニヨル地味ノ變動ト水利ノ關係ニヨル生産力ノ變動ト二者ヲ指スモノナリ蓋シ本藩三州ハ水害ヲ以テ著名ナル河川ヲ有シ且水田耕作ガ農業ノ大部分ヲ占メシナリ 嚮ニ述ベタルガ如ク嚴正ナル法令ヲ出シタル天保度以前ニ於テハ強制的ニ本制ヲ施行セザリシヲ以テ土地ノ經濟

的變動起ラザル限リハ本制度行ハレズ遂ニ全ク廢滅ニ歸シタル村邑アリシト云
フ蓋シ自然ノ勢ノミ

土地ノ經濟的變動ガ本制度持續ノ一要件ナリシコト本制度施行ニ際シテ改作
奉行ニ提出スル願書カ常ニ土地ノ經濟的變動ヲ理由トスルヲ見ルモ明ナリ
元祿七年越中國射水郡西條組北島村百姓中ヨリノ願書ハ本制度創始後五十年ヲ經
テ未ダ書式ノ規定ナキ時代ノモノニシテ實ニ左ニ示スガ如シ

乍恐北島村百姓申書付を以御斷申上候

一私共在所先高五百九拾三石之所ニ寛文拾二年田地割仕高下平均人々割取申所延寶七年ニ
知直御高貳拾四石四外四合村之内ニ而出來仕然所ニ小矢部川祖父川兩川通リ川崩損地余
内並石入砂入ニ相成御田地大分ニ高下ニ御座候ニ付百姓中ひし迷惑仕候間右高知直高
共納得仕田地割御慈悲を以被爲仰付被下候は、雖有忝奉存候以上

元祿七年正月二十九日

北島村小左衛門

外十五名

御改作御奉行様

尙ホ他ニ同一ノ例證少ナカラズ天保十年ノ規定ニヨル願書ノ書式ハ又明ニ之

レヲ示ス規定年限ニ行フ場合ノ願書式ニ曰ク

書付を以御願申上候

草高

一何百何十石

何郡何村

右私共在所何ノ何年御田地割仕所近年地面劣リ申ニ付御田地持分善惡高下出來仕餘荷米
過分ニ相成迷惑仕且年限も相濟申候付云々

規定年限以前ニ行フ場合ノ願書式ニ曰ク

書付を以御願申上候

草高

一何百何十石

何郡何村

右私共在所甚盤割何ノ何年被仰付候處近年用水廻リ等惡敷相成御田地間々善惡高下出來
迷惑仕候ニ付、、甚盤割仕度云々

右ノ例證トシテ慶應元年七月越中國射水郡西條組北島村肝煎平左衛門等ヨリノ
願書ヲ示サン

西條組北島村惣高六百二拾石同村領組高帳入享保八年知直高拾石貳斗七升壹合并延寶七年
新開高貳拾四石貳斗九升六合組高帳入草高共都合六百五拾四石五斗六升七合に御座候處嘉

田地割制度ノ起源持續及廢滅

持續下廢滅

永六年御田地割被仰付當年ニ而拾三ヶ年なりて相立不申候得共小矢部川縁ノ井祖父川縁ノ
ニ而御田地格別甲乙出來仕百姓中一統迷惑仕候ニ付同苗一統示談納得之上當秋稻蒔跡方御
田地割仕度奉存候云々

慶應元年七月

北島村肝煎

平左衛門

外五十四名

二 村高ノ増減

本藩ニ於テハ初代高德公以來新墾ノ獎勵行ハレ改作法施行以後モ亦然リキ或
ハ新田才許ナル官制ヲ作り或ハ檢地法ヲ定メ檢地奉行ヲ置キタルカ如キ之レナ
リ故ニ各村草高ハ新墾地目改正ニヨリテ屢々増加セラレ又一方ニ於テハ地味ノ
上進ニ伴ヒ手上免(税率ノ上進)ニ依ル外手上高即チ村高ノ増加行ハレタリ村高ノ
増加シ而カモ其以前ニ行ハレタル分割分配ヲ持續スル時ハ多クノ不便ヲ伴ハザ
ル可カラズ殊ニ村高ノ増加ガ少數農民ノ功績ニヨル場合ニハ其増加額ハ該農民
ノ所有ニ歸シ其土地ハ私有ノ形式ヲ備ヘ二十ヶ年ヲ經テ全村總高中ニ合スルノ

例ナルヲ以テ斯ク村高ノ増加アル場合ニハ必要的ニ割替ヲ要セシナリ前條ニ掲
ケタル元祿七年北島村百姓中ノ願書ニ寛文拾二年田地割仕高下平均人々割取申
所延寶七年畑直御高二拾四石四升四合村之内ニ而求出仕、右高畑直高共納
得仕田地割云々トアルハ此ノ例證ノ一ナリ而シテ又村高ノ増加アルカ如ク缺潰
浸水等ニヨル持高ノ減少(引高)ニ際シテモ同一ノ結果ニ出テタリシヤ必セリ

三 水田耕作

水田耕作ハ田地割制度持續ノ一要件ナリ然レトモ余ハ嚮ニ述ベタル土地ノ經
濟的變動ハ専ラ水害ト水利ノ便否トノ二者ニヨリテ起リ此ノ二者ハ水田耕作ト
密接ノ關係アルガ故ニ水田耕作ガ持續ノ要件ナリト云フニアラズ

田地割制度ハ定免制度ト平均免制度ノ要求ニ出デシモノナリト雖若シ有力ナ
ル條件ノ存シテ其發生持續ヲ阻害スルモノアラバ或ハ一度ハ施行セラル、コト
アラシモ遂ニ其存在ヲ失ヒ廢滅スルニ至ラン此點ニ於テ水田耕作ハ假令本制度
ヲ促進スルコトナシトスルモ持久セシムルノ條件タル可シ余ガ土地ノ經濟的變
動及村高ノ増減ヲ以テ促進的或ハ積極的條件ト云フヘシトナシ水田耕作及次ニ

田地割制度ノ起源持續及廢滅

持續ト廢滅

述ブル農民ノ心理的狀態及當時ノ社會的狀態ヲ持久の條件寧消極的條件ト呼フヘシトナスハ之ナリ水田耕作カ持久の條件ナリシトハ田地割制度ヲ阻止スル狀態ヲ生セザリシト云フニアリ余ハ作物論ニ亘リテ水田耕作ノ説明ヲナシ進ンテ他ノ作物トノ土地利用ノ差異ヲ論セントスルモノニアラズ唯水田耕作ニアリテハ土地利用ガ一ケ年ヲ期シテ行ハレ且耕作法比隣相似タル所アルモ陸圃耕作ニテハ數ケ年若クハ數十ケ年ニ亘ル作物ニヨリテ土地利用ガ行ハル、場合アルヲ言ハントスルノミ 即チ水田耕作ハ本制度ノ施行ニ反抗スベキ所以ヲ有セザリシナリ而シテ實ニ水田耕作ガ主要ナル部分ヲ占メタル地方ニアリテハ其畠地ハ一ツハ其面積比較的小ナガ故ニ専ラ蔬菜ノ如キ又ハ工藝作物ニアリテモ大麻ノ如キ一年生作物ニ利用セラレ他方ニ於テハ大部分水田耕作ナルカ故ニ其割替ニ伴フニヨリ自然ニ多年間ニ亘ル作物—工藝作物—ニ利用セラルルコトナカリシモノノ如シ而シテ又年アリテ割替ノ行ハルルニ於テハ比較的多年間ニ亘ル作物ノ耕作ハ極メテ不利ノ位置ニ立タザル可カラズ故ニ専ラ水田耕作ニ依ラサル地方ニ於テハ田地割制度ノ持續ヲ許容スルモノニアラズ(蓋シ水田耕作ニ依ラザル

地方ニ於テハ土地ノ經濟的變動屢々起ラザル事情モ併セ存セシナリ)此等ノ事實ハ天保度ニ於ケル田地割勵行ノ令布カレシ後モ次ニ示スガ如ク例外トシテ許容セラレタルニ徴スルモ明カナリ況ヤ之ヲ勵行スルコト能ハザリシ時代ニ於テヤ

彌波郡五ヶ山兩組村々之内御田地割相願定書指出候節ハ天保九年御取極被仰渡候御趣意ヲ以村方々申渡置候然所五ヶ山之儀ハ多分畑而已之村々ニ付先年御田地割年限モ取極不申引地之儀も村に寄多少ハ御座候得とも前段畑所之事故桑精植付候而も數十ヶ年ヲ經ず候而ハ桑葉并木椿取目も漸く御座候所數度御田地割仕且引地モ御定通之限り候而ハ數十ヶ年勢子仕候地元御田地割毎ニ代リ候様ニ相成候而ハ其末勢子方之指障にも相成可申儀に御座候間何分五ヶ山之儀は里方村々とも品違一樣にも相成り不申候間格別之御詮議を以村方は迄仕來之通りニ被仰付被下候様仕度左すれは其村其ノ所に付候而百姓中ニ迷惑無之様定爲仕度御座候ニ付此ノ段私共詮議之趣小紙を以奉伺候間猶御詮議之趣被仰渡可被下候以上

寅四月(天保十三年)

得能覺兵衛

外四名

和泉村彦九郎

御改作御奉行所

田地割制度ノ起源持續及廢滅 持續ト廢滅

(裏書)

表書其許中詮議ノ通承届候事

改作奉行印

覽

- 彌波郡 山田組白井村
- 太美組刀利村
- 山見組井波村
- 外九ヶ村
- 拾二ヶ村

右之村々之内御田地對相願候ニ付天保九年御取極被仰渡置候御趣意ヲ以申渡候所右村々之儀ハ皆畑所ニ而先年ノ御田地割年限も取極不申引地步數之義も村に寄多少は御座候得共前段畑所之事故桑楮植付候而も數十年を經不申而は桑業井木楮取目も薄く御座候處數御田地割仕且引地も御定之通より限候而は數十年勢子仕候地元御田地割毎ニ代リ候様ニ相成此末勢子方之指障にも相成可申義に御座候間何分是迄之仕來通りに仕度旨相願申候右村々之儀ハ五ヶ山同様之塲所等に而里方村々よりは品も違候義に御座候間格別之御詮議を以是迄之仕來りに被仰付被下候様仕度左すれば其村其所に付候而百姓中に迷惑無之様に組才許におゐても詮議仕定爲仕度奉存候則五ヶ山之義は當四月右之通奉願御聞届被下候義も御座候

に付此段奉伺申候間猶更御詮議之趣被仰渡可被下候以上

寅六月(天保十三年)

得能覺兵衛外四人

大西村加左衛門外二人

御改作御奉行所

(裏書)

表書之趣承届候事

改作奉行印

四 農民ノ心理的狀態ト當時ノ社會的狀態

余ハ水田耕作ガ持久的條件トモ云フ可キモノナルヲ述ベタリ更ニ進ンテ之レト相似タル他ノ状態ヲ述ベシ本制度持續ヲ阻害セザリシ他ノ状態ヲ當時農民ノ心理的狀態ト社會的狀態トニ求メントス

數ヶ年若クハ數十ヶ年ニ亘ル耕作一桑楮ノ如キ一カ田地割制度ニヨリテ多大ノ不利ヲ來タスガ故ニカ、ル耕作ノ行ハル、地方ニハ此制度ノ廢止ヲ要求シタル當時ノ農民ハ其營利心ノ發動ニ於テ未ダ足ラザルモノアリ、最近ニ於ケル本邦

田地割制度ノ起源持續及廢滅 持續ト廢滅

米作收穫高増加ノ現象ハ一ツハ以テ農業技術ノ進歩ト他ハ以テ經營法ノ改良ニ歸セサル可カラザルモ其根元ノ發動力ニ至リテハ之レヲ今日ノ營利心ノ發動ニ依ルモノトナサ、ル可カラズ明治維新以前ニ於テハ保守的農民ハ益々保守的ニ傾キ社會ハ農民ニ多キヲ求メズ既存ノ制度習慣ノ内ニ埋没シテ單ニ祖先ノ業ヲ續ギ比隣ニ倣ヒ同一事ヲ反覆スルヲ以テ足レリトセリ徂徠カ政談ニ「百姓は愚なるものにて所にて前より仕きたらざることをはさりとはせぬものなり」ト曰ヘル之也焉クンゾ進ンデ營利ノ策ニ出デ資本ト勢力トヲ投入シ之レヲ自然ニ配合シテ大ナル生産ヲ見ルノ企業經營ヲ試ムル者アラシヤ 田地割制度ノ如キ一度起ルヤ不便ト不利トヲ伴フニ拘ハラズ特ニ反抗ノ意志ヲ示スナク寧其制度ニ應化シテ却テ益々營利心ヲ沒却シ私有制度ノ利ヲ悟ラズ悟ルト雖既存ノ制度ニ反抗スルノ意志ニ乏シク比隣相率キテ同一範疇ニ坐セントセリ蓋シ時勢ノ然ラシムル所以カ

以上説ク所以テ本制度持續ノ所縁トナス更ニ進ンデ之ガ廢滅ノ狀ヲ叙セン 夫レ制度組織ノ變遷スルヤ其由テ來ル所以ヲ觀察スレバ自發的ノモノト外來

的ノモノトノ二種アルヲ覺エシム 爰ニ自發的トハ外界ヨリ特ニ何等ノ制裁ヲ受ケズシテ制度其者ノ自然ノ發展ニ伴ヒ或ハ又其時代ノ要求ニ自然ニ應化セン爲メニ起因セルヲ云ヒ外來的トハ何者カ外界ヨリ特ニ制裁ノ加ハルモノアリテ由來セルヲ云フ元ヨリ斯ク分カット雖自發的ト云ヒ其處ニ至ル所以ハ外界ノ組織狀態ノ變遷之レニ係リテ力アル可ク外來的ト云フモ其外力ノ依テ以テ結果スル所以ハ又制度其者ノ自然ノ趨勢ニ俟タザルベカラサルモノアリ之レヲ例示スレハ大化改新ノ土地制度ノ如キ當時ノ趨勢機運ニ應化シ時代ノ要求ニ許容セラレルモノアリシニヨリテ斷行セラレタリト云フト雖其改新ハ少ナクトモ形式ニ於テハ全ク外來的ニシテ決シテ民族自然ノ制度ト曰フ可カラス政府ノ制裁規矩之レヲ致セルヲ思ハシム又後世口分田ノ制度カ敗類シ殆ント自由ナル私有地ノ實狀ヲ呈シタルカ如キハ余ガ以テ自發的ナリトナス例示ナリ 若シ夫レ之レヲ耕地共有制ノ廢滅ノ狀ニ見バ本邦沖繩縣ノ地割制度ノ廢滅ハ外來的ニシテ明治政府ノ制裁ニヨリ今日世界各地ニ嘗テ存在セル跡アリトセラ

斯クノ如キ見地ヨリ加越能三州ノ田地割制度ノ廢滅ヲ觀察シテ余ハ之レヲ外來的ノモノナリトナスナリ

明治四年七月藩制廢セラレ郡縣制トナリ藩主藩臣農民相互間ノ關係ハ打破セラレ農民ノ土地ニ關スル所有權ハ承認セラレ翌五年土地賣買ノ禁解除セラレ六年七月地租改正企圖セラレ十四年結了スルニ及ビ本制度ハ爰ニ廢滅ヲ見爾來割替行ハレズ共有ノ組織ヨリ純然タル私有財産ノ制度ニ遷レリ

然レトモ先ニ一言セルガ如ク外來的ト云フ元ヨリ其結果スル自發的ノ趨勢之レヲ許容スルモノニシテ本制度ニ於テモ亦然リ蓋シ明治維新ハ之レヲ形式ヨリ斷スレハ特殊ナル大變革ナリト雖其由テ來ル所以極メテ遠ク當時既ニ竊ニ國制ノ變革ヲ望ミタレドモ習慣ノ惰力ハ牢乎トシテ容易ニ振ク可カラズ單ニ内部ノ勢力ノミヲ以テ之レヲ翻覆スルニ足ラサルカ故ニ地下ノ暗流ハ甚ダ急ナルニ外觀ハ依然トシテ舊觀ヲ保持シタルノミ然ルニ嘉永六年米使ノ來航ニ由リテ俄然内外ノ關係ヲ一變シ遂ニ維新ノ變革ヲ見タルナリ蓋シ本制度ノ如キモ維新ノ改革ニ伴ヒテ廢棄セラレシモノ而カモ其爰ニ至レルハ時代思潮ト社會狀態ノ進

化ニ基キ余カ以テ本制度持續ノ條件トナスモノヲ超越シテ之レヲ許容斷行セシメタルナリ

第三節 本制度ノ起源ニ關スル批判

余ハ本章ヲ結ブニ當リ更ニ一言セザルベカラザルモノアリ本制度ノ起源ニ關スル批判是ナリ

元來耕地共有制ノ起源ニ關シテハ學術界ニ二個ノ學說行ハル第一說ハ土地財產ガ共同所有ヨリ進ンデ現今ノ如キ私有制度ニ移ル間ニハ必ズ定期割替ニヨル共有制ノ時代ヲ通過セザル可カラズト云フニアリ即チ耕地共有制ヲ以テ特殊民族ノ格段的制度トナサズシテ時期ノ長短コソアレ向上シ行ク民族ノ必ズ通過スベキ一ノ制度トナセリロツシエルハンゼン氏等ノ主張セシ所ナリ然ルニ其後本問題ニ關スル研究進ムニ從ヒ遂ニ耕地共有制度ハロ氏杯ノ唱道スルガ如ク土地財產制度ノ史的變遷上必ズ起ルベキ一ノ現象ニアラズシテ土地ガ既ニ私有制度ニ移リタル後更ニ割替制度ノ行ハレタルモノアリ耕地共有制度ハ領主又ハ國家

ノ如キ眞ノ土地所有者ガ爲セシ一租税ノ共同負擔ノ如キ一司配ニヨレルモノアリト論ズルモノアルニ至レリマイツェンノ如キ然リトス余ハ今茲ニ此等兩學說ノ是非ヲ論ゼントスルモノニアラズ只余ガ上來研究セシ舊加賀藩ニ於ケル田地割制度ハ果シテ此等學說ノ内何レニ相應スルモノナルヤフ一言セントスルニアリ

マイツェンハ獨逸トリイア地方ノ耕地共有制ニツキテ研究シ之レヲ以テ新來農民ノ共同開墾ニ伴フテ生シ其團體ガアル領主的關係ヲ有スルモノニヨリテ統一セラレタルニヨレリトナシ一般ノ耕地共有制狹義ニ言及シテハ(一)之レ古代ノ遺制ニアラスジテ新ラシキ事件ニ伴ヒテ生シ(二)專ラ領主又ハ國家ノ如キ眞ノ土地所有者ガ爲セシ一租税ノ共同負擔ノ如キ一司配ニヨレリトナセルナリ今之レヲ加越能三州ノ田地割制度ニ見ルニ正ニ之レト符節ヲ合スルモノアリ(一)先づ本制度ガ古代ノ遺制ニアラサル點ヲ曰ハンニ余ノ既ニ述ベタルカ如ク本制度創始以前ニアリテハ所有地ノ定期移動ヲ見サリシナリ上ニ引ケル改作始末聞書ニ「田地割ト申事ハ寛永之頃までハ無御座由にて百好毎々田坪大抵極リ居體ニ相見

候トアル之レナリ故ニ當時ノ農民ノ土地ニ對スル權利ハ當時ニアリテハ今日ノ土地私有制度ト何等ノ差違ヲ見ス田地割制度起ルニ及ヒ初メテ所有地ノ定期移動即チ割替ヲ見ルニ至リシナリ(二)次ニ本制度ノ起因カ領主又ハ國家ノ如キ眞ノ所有者カナセシ司配ニヨレリトノ點ヲ曰ハンニ之レ余カ本章第一節ニ詳論セル處ニシテ本制度ハ實ニ全然加賀藩ガナセル租税徵收ノ便宜ニ出テタリ蓋シ誘フテ爰ニ至ラシメシモノ存シ爰ニ至リテ而カモ之レヲ阻止セサリシ他ノ條件ノ在リシハ事實ナルモ而カモ起因トシテ擧クベキモノ租税徵收ノ事アルノミ斯ク論シ來レバ本制度ハ古代ノ遺制ナラスシテ其起因ハ租税徵收ノ便宜ニ出ツ之レ實ニマイツェンノ所說ト相應シ氏ノ所說ヲ裏書スルモノニアラスヤ

第五章 本制度ノ梗概

余ハ本章ニ於テ本制度ノ形式内容ノ詳細ヲ叙述スルニ先チ其全般的性質ヲ説カントス而シテ之レカ爲メニハ相伴ウテ其歴史の沿革ヲ詳ニセザル可カラズ前章ニ其起源持續及廢滅ヲ記述スル處アリシト雖之レ專ラ其起源持續廢滅ノ依テ生シタル遠近素誘ノ因ヲ炳ニシタルノミ今其梗概内容ヲ叙スルニ先チ其變遷沿革ノ大要ヲ述ベザル可カラズ蓋シ本制度ハ遠ク寛永度ノ古ニ起源セルヲ以テ爾來時勢ノ變遷經濟上ノ發達ハ必ス之レニ伴ウテ諸般ノ新要求ヲ生シ其結果在來ノ制度ニ對シ多少之レニ適應スヘキ變更ヲ加フルコトアリシナル可シトハ普通ニ想像セラル、所テレハナリ

定免主義ノ改作法ガ平均免法ヲ要求スルニ依リ發生シ土地ノ經濟的狀態ノ變動村高ノ増減水田耕作及農民ノ心理的狀態當時ノ社會的狀態ノ四者ニヨリ專ラ持續セラレタル本制度ハ發生ノ原因ニシテ直チニ持續ノ因ヲナス所ノ改作法ノ主旨ノ變更セザル限リ上述セシ持續ノ四因ノ存續スル限リ其内容ト形式ハ依然

トシテ舊態ヲ保チタリ寧其原則ハ何等變動ナク歲月ノ影響殆ント存セズト爲スヲ可トセン

蓋シ本制度ノ内容ト形式ニ關シ古キ時代ノ詳細ハ知ルニ難キモ發生ト持續ノ原因ノ變ゼザル事實ハ該制度カ專ラ農民ノ自治ニ任セリトノ事實ト相伴ヒテ右ノ事實ヲ斷セシムルヲ得ン乎 專ラ農民ノ自治ニ任セリトノ事實ハ該制ノ一大特質ニシテ余カ本制度ノ叙述ニ先チ説カント言ヒシ全般的性質ナルモノ之ナリ

田地割制度ハ專ラ農民ノ自治ニ任セラレ藩政ノ容喙スルコト極メテ少ク弊ノ生ゼザル限リ農民相互間ニ大ナル不平等ノ起ラサル限リ藩ハ寧之レヲ放任シタリキ御改作始未聞書追加ニ曰ク

御田地割は百姓相互に仕候事に而歩數多候共又は少く候共夫に而出高引高に相成る事も無之故檢地を恐れ候世に而も御田地割には百姓心服惡敷事も無之候夫に又二拾年に一度と申時は田地方大混雜に相成候事は無之事之其打立方等惣而十村御扶持人に而縮仕候事に成御奉行以上には御聞無之事なれば百姓疑惑仕候事も無之義に候大要を申候へは檢地之事輕

而百姓人々之村高甲乙を平均仕候事を時々被仰付候と見へ候能く相當り候

檢地ガ動モスレバ士農階級ノ利害ヲ相反セシメ且其行ハル、ヤ性質上全然官僚的ナルモノアルモ本制度ニ至リテハ農民間ノ不平ナキヲ程度トシ相互納得ヲ主眼トナセルモノナリ同書ニ

百姓打寄一村之田地惣持高平均方仕候義に候別に御法相立候と申程之事も無之只一村田地無甲乙持候事にて惣百姓相互之義納得次第にいたし候事なれども云々

トアル之ナリ

斯クノ如ク本制度ハ専ラ農民ノ自治ニ任セシト雖本制元ヨリ民族自治精神ノ發動ニアラズ藩政ノ制定ニ基キシモノナルガ故ニ全然藩政ノ無交渉ヲ意味スルモノニアラズ況ンヤ農民ノ休戚ハ一藩存立ノ基礎ニ係ルモノ多キヲヤ既ニ述タルガ如ク本藩農政ノ制度機關ハ改作法施行ノ當時ニ於テ稍備ハル處アリシモ其完成ハ後代ニ屬シ且管ニ爾後其制度機關ニ多少ノ變動アリシノミナラス其主義

ニ於テモ或ハ放任主義ニ傾キ或ハ干涉主義ニ偏セルヲ以テ本制度ニ對シテモ施設ノ消長ナシトセズ特ニ其内容ニツキテハ史的變遷ノ徴スヘキモノナク寧原則トシテ變更ナキモノト推論スルノミナルモ其形式ニ於テハ多少變更ノ跡アリ特ニ農政機關ノ變動ハ之レニ係ルコト多カリシハ當然ノ數ナリ 内容ト形式ノ個々ニ關シ其變遷ノ跡ハ後段項目ヲ分チテ其條下ニ述ベ爰ニハ唯其一般ヲ叙セン 本制度ハ寛永十九年ニ初メテ布カレ正保年中封内一般ニ普及セラレ爾後改作法ガ慶安四年ヨリ明暦二年ニ及ヒ粗成ルニ及ンテ其確立ヲ見爾來二十年ニ一回割換ヲナストノ大體ノ規定アルノミニテ特ニ規定條令ノ制定ヲ見ズ専ラ農民ノ自治相互ノ納得ニ任シ天保年中煩雜ナル規定ヲ見ルニ至ルマデハ寛文中ニ引地ノ數量ヲ定メタルト元祿十六年割替年限ニ關スル論告ヲ發シ又文政二年大高持者ノ引地ニ關スル不正ヲ矯正セント試ミタル布令トノ外特ニ徴ス可キモノナシ

天保度本藩諸制度ノ改革行ハレシコト既述ノ如シ積年ノ弊發シテ爰ニ至ラシメ本制度ニ於テモ農民間奸用スルモノアリ之レヲ改革セント欲シ天保九年戌十一

月田地判定書申渡ヲ全藩ニ布令シ十六條ヲ規定シ併セテ書式ノ制定ヲ見タリ其布令ニ次ノ付札アリ曰ク

右是迄諸郡共田地割色々不正之割方等も在之中には打立之節竿目不正歩數ぬき打等いたし候向も在之體奸曲之致方不届至極ニ付今般本文之通申渡候條以後嚴重ニ相心得定書并万歩帳組主附手前に取立仕様可致置品に寄可致披見候も在之候間其心得可有之候斯申渡後万歩不正之間へ村在之は村役人等へ不申及組主附迄も急度申付候條得其意夫々可申渡候以上

戊十一月

安田新兵衛
松田左兵衛

諸郡

惣年寄中

年寄並中

新田才許中等

以テ當時ノ状態ト藩政ノ方針トヲ察スルコトヲ得ベシ而シテ其規定セル十六條並ニ書式ハ詳細ヲ極メタリ然レトモ其内容ト形式ノ原則ハ何等變更スル所ナク唯從來ノ習慣法ヲ成文法トナシ又地方ニヨリ一ナラザリシヲ一形式ノ下ニ統一セルニ過ギズ翌天保十亥年六月引地ニ關シ御扶持人ヨリノ質疑ニ答へ同七月再ヒ規定二十條ヲ定メ且御田地割願猶豫願定期外田地割願等ノ書式ヲ定メタリ之

レ前年ノ布令ヲ補ヒ完成セシメタルモノナリ

斯クノ如ク本制度ハ天保度ニ於テ其形式ヲ完備シ以テ明治地租改正ノ業成ルニ及ンデ廢滅セリ然レトモ其内容實質ニ於テハ特ニ變遷アルヲ見ズ依然トシテ定免主義ニ基ク平均免制度ノ下ニ先ニ掲ケタル持續ノ因四者ヲ加味シテ農民自治主義ニヨリ行ハレタルモノナリ而シテ天保度ノ改革規定ハ美ハ則チ美ナリシト雖積年ノ弊風救フニ由ナク又如何トモスベカラズ其實質ハ規定以前ト大差ナカリシト云フ

余ハ次ニ項目ヲ分カチテ形式内容ノ個々ニ就キ其變遷ノ跡ヲ尋ネン

第一節 割替期

本制度割替ノ時期ハ發生ノ初期ニ於テハ特定ナキモノ、如シ御改作始未聞書追加ニ

被仰付候而御田地割始リ申候其以來大低貳拾年ニ一度充云々トアルモ當時ニ於テハ更新期ノ特定ハナキモノ、如ク耕稼春秋ニ

本制度ノ梗概 割替期

加越能三州ハ御改作の刻村々惣百姓田地割ありて其以後無斷田地割致さぬ御格也然れ共故有て御檢地入又は入百姓に有所は何時によらす斷の上地割する格也云々

トアルカ如ク寧必要ニ應シテ行ハレシモノナル可シ蓋シ本制度カ農業經營上不利ナルハ當時既ニ認メラレタル所ニシテ割替ヲ必要トスル状態ノ發生セザル限リ行ハシメザルノ主旨ニ出デタリ故ニ元祿十六年(本制度創始後六十年)ニ左ノ布令ヲ出セリ

田地割の儀常々田地地方情に入候百姓者年々田地拵宜仕成候不精成者ハ自分田地義無沙汰に仕置候處毎度田地割申付候而は精出候百姓其専茂無之様罷成候ニ付先ハ不申付候去共川崩之村等ハ田地有所ニより高取持不仕百姓茂出來仕候又ハ何ごそ無據品茂御座候得ハ百姓中納得之上ニ而田地割申付候事

元祿十六年未六月二日

改作奉行毛利又太夫

外八名

以テ割替期ノ特定ナカリシヲ知ル可シ余カ越中國射水郡西條村大字北島村(當時西條組北島村)ニテ得タル元祿七年(本制度創始後五十年)ノ田地割願書ニ徵スルニ又割替期ノ特定ナク必要ノ生スルニ從テ行ヒタルヲ知ラシム第四章第二節(一)ニ掲ケタルガ如シ

斯クノ如ク割替期ハ不定ニシテ例ヘハ上記西條組北島村ニ見ルニ其施行セラレタル年次左ノ如シ(但シ文書ノ缺クルモノアリテ不明ナル點アリ)

寛文十二年(一六七二年) (本制度創始後三十年此間施行セラレシヤ否ヤ不明)

二十二年ヲ經テ

元祿七年(一六九四年)

此間三十六年ヲ隔ツルモ不明

享保十五年(一七三〇年)

三十二年ヲ經テ

寶曆十二年(一七六二年)

此間四十三年ヲ距ツモ不明

文化二年(一八〇五年)

本制度ノ梗概 割替期

二十一年ヲ經テ
 文政九年(一八二六年)
 十五年ヲ經テ
 天保十二年(一八四一年)〔天保九年ニ二十年割替ノ勸行令出之〕
 十二年ヲ經テ
 嘉永六年(一八五三年)
 十二年ヲ經テ
 慶應元年(一八六五年)

又西條組長慶寺村ニ於テハ

(此以前ノ記録ヲ欠ク)
 天明五年(一七八五年)
 十六年ヲ經テ
 享和元年(一八〇一年)
 十七年ヲ經テ
 文政元年(一八一八年)
 二十年ヲ經テ
 天保九年(一八三八年)〔此年二十年勸行ノ令出ス〕
 十八年ヲ經テ

安政三年(一八五六年)

十五年ヲ經テ
 明治四年(一八七一年)

斯クノ如ク更新期不定ニシテ必要ニ應シテ初メテ舉行セラレタルカ故ニ必要ノ發生セザル限リ又發生スルモ尙ホ之レヲ阻害ス可キ他ノ理由ノ存スル限リハ永久ニ更新セラル、ナク余ガ嚮ニ述ベタル持續ノ條件ノ存セザル地方ニ於テハ遂ニ本制度ノ廢滅ヲ見タルナリ

然ルニ天保度ニ至リ本藩制度完備(寧ロ煩擾)セルト本制度ノ弊漸ク甚シキモノアルニ及ヒ本制度ニ對シテモ頗ル干涉主義ニ傾キ天保九年六月二十ヶ年割替ヲ勵行スルノ令出タリ(其以前ニ規定ハアリタルモ其年次不明ナリ勵行セラレシハ此年ニ始マル)曰ク

田地割長ク不致而ハ地味善惡出來且切高多ク村々ハ地元割合不同ニ相成候ニ付二十ヶ年相立候て田割可願出之旨先年申渡置候所未田地割不願出村々有之不埒之至ニ候或十年余田地割不致村ニハ早速願出當秋稻蒔跡方

本制度ノ梗概 割替題

可致割替若彼是指構等有之不願出族有之におひて村役人越度ニ可申付候
條此段可申聞候云々

天保九年戌六月

改作奉行

安田新兵衛

外一名

諸郡

惣年寄

年寄並

新田才許

山廻中

斯ク二十ヶ年割替ヲ勵行セント雖元來本制度ハ其主旨トシテ農民間ノ不公平
ヲ避ケンカ爲メニ行ハレタルモノナルヲ以テ必要ノ生スルニ從テ自由ニ行ハシ
メタリ即チ二十ヶ年ト定ムルモ之レ最長期限ヲ劃セルニ止マル故ニ天保九年十

一月ノ規行ニ曰ク

一田地割替之義二拾ヶ年滿不申村中納得之上願出候ハ、承届可申事

一先達而申渡置候通年久敷田地割不致村々此節急速取懸リ可申事

但村方之得手申立不願出候ハ、組主附カ其段可及斷候事

然リト雖以前ニ於ケルカ如ク天保度ノ勵行令出ツルト雖本制度施行ヲ阻害ス
ル有力ナル事情ノ存スルニ於テハ即チ余ガ嚮ニ持續ノ所縁ヲ論シテ促進的條件
ニ對スル持久的條件トナセルモノ存セサルニ於テハ又本制度行ハレサリシコト
既ニ述ベタル所ナリ

若又止ムヲ得ザル事情ニヨリ施行スベカリシ年度ニ取掛ル能ハザル時ハ猶豫
願ニヨリ延引スルヲ許容セラレタリ凶作等ノ事情之ナリ

之ヲ要スルニ本制度更新期ハ原則トシテ二十ヶ年ヲ劃スルト雖更新ヲ促ス可
キ或ハ阻止ス可キ事情ノ有無ニヨリテ殆ト自由ニコレヲ伸縮スルヲ得タリ然ラ
バ其事情トハ如何之ヲ左ニ示サム

甲 割替ヲ促ス可キ事情

本制度ノ梗概 割替期

- 一 土地ノ經濟的變遷
 - 二 村高ノ増減
 - 三 田地割替其者ノ特性
- 乙 割替ヲ阻止ス可キ事情

一 凶作其他割替ヲナシ能ハサル事件ノ發生

右掲クル内甲(一)(二)ハ既ニ本制度持續ノ因ヲ論スル節ニ於テ詳論シ乙(一)ハ説明ヲ要セザルヲ以テ叙セズ爰ニハ聊カ甲(三)田地割替其者ノ特性ガ割替ヲ促進セルヲ述ベシ

余ハ嚮ニ本制度持續ノ條件ヲ述ブルニ當リ農民ノ心理的狀態カ未タ營利心ノ發動低位ニシテ進ンテ經營ニ注意ト勞力ト資本トヲ投入スルニ至ラズ從テ本制度ニ對シ特別ナル反抗心ト認ム可キモノナク他ノ稍大ナル必要―土地經濟的變動其他二三ノ―ニヨリテ唯々トシテ該制ヲ持續シタルヲ述ベタリ然レトモ余ハ當時ノ農民ヲ以テ全ク營利自利心ナキモノトナスモノニアラズ唯其極メテ低位ナルヲ言ヘルノミ當時ノ農民ノ抱ケル淺薄ニシテ僅少ナル自利心ハ割替期ノ近

ヅクニ及ンテ發動ヲ始ムルヲ常トシタリ爰ニ於テカ田地割替制度ハ自己ノ力ヲ以テ自己ヲ促進スルノ奇觀ヲ呈セリ殊ニ天保度ノ法令ガ二十ヶ年割替ヲ勵行スルニ及ヒ割替期近ヅクニ至レバ近々割替セラルヘシトノ豫想ノ下ニ農民ハ稍掠奪的耕作ヲ行フニ至ル素ヨリ各自ハ私ニ之レヲ行フト雖衆人相率キテコノ弊ニ陷ルヲ見テ喜ブベキ現象トハ認メズ而カモ相率キテ然ル限リハ自己ノミ獨リ掠奪的耕作ヲ營マザラント欲スルモ得ヘカラサルハ人ノ常情ナリ爰ニ於テカ之レヲ救済スルノ策出デザル可カラズ之レ定期ノ割替期ニ先チテ甚シキ掠奪農行ハレサル以前ニ割替ヲ行フニ至ル所以ナリ而シテ之レ實ニ割替制度カ自己ノ缺點ニ由來シテ益々其割替期ヲ促進セシモノニアラスヤ

第二節 分割ノ標準

分割ノ標準ハ一村ヲ單位トシテ之レニ擔ハシタル義務ニ對スル權利ノ多寡大小ヲ以テス即チ一村ヲ納稅單位トナシ課稅標準ハ石ヲ以テ示サレ―村高之ナリ―農民ノ權利ノ表示ハ其幾部分即チ幾何石ヲ以テセラル―持高之ナリ―即チ各

農民ノ持高ハ直チニ分割ノ標準ヲ表示ス
 而シテ嚮ニ述タルカ如ク一村ニ對スル負擔ノ殆ド全額ガ村高ニ課セラレ夫銀
 ノ如キ所謂庸ニ屬シ稍トモスレハ人別若クハ戸別ニ課セラレル性質ノモノノ如
 キニ至ルマテ藤田幽谷勸農或問之レニ加算セラレ持高ニ比例シテ負擔セシ
 メラル、ヲ以テ全村ニ屬スル凡テノ權利カ村高ニ課セラレタル租税ノ負擔者即
 チ高持者ニ屬セシコト蓋シ當然ノ數ニシテ無高者タル所謂頭振_ミカ高持者タル百
 姓_ミト截然タル區別ヲ有シタル又自然ノ勢ナリ從テ發言署名ノ權ハ全然百姓ニ限
 ラレ頭振_ミハ田地割ニ際シ無交渉ニシテ僅ニ小作ニヨリ土地ノ使用ヲ得タルノ

他村民ノ持高ハ本藩農政方針トシテ希望セス切高_ミニ際シテハ成ル可ク本村民
 間ニ行ハルルヲ獎勵セシモ既ニ他村民ニシテ持高アル時ハ田地割ニ對シテハ全
 然本村民ト同一ノ權利ヲ保有セシメタリ蓋シ分割ノ標準ハ全然人格ヲ離レテ其
 石高數ニ依リシヲ以テナリ

分割ノ標準ガ其持高ニヨルコト上述ノ如シ故ニ高持者ハ全村ニ屬スル凡テノ
 地目ニ對シ持高ノ村高ニ對スル割合丈ケヲ享有スルノ權利ヲ有セシナリ即チ割
 替ニ際シテハ原則トシテ凡テノ地目ヲ持高ノ村高ニ對スル比ニ分割セルナリ故
 ニ各自ノ持高ノ登記ハ極メテ重要ナルモノニシテ之既ニ述タル品々帳ノアル所
 以ニシテ田地割ノ基本ヲナセリ而シテ此標準ニ基キ圓滑ナル分割分配ヲナスニ
 ハ特種ノ方法無カル可カラズ之レ闔組ノアル所以ニシテ定書(後出)ニ明記シテ錯
 誤ナカラシム既ニ述タルカ如ク初メ既ニ各農民持高ノ間ニ統一ナク且殆ント無
 制限ナル分割讓與行ハレタルヲ以テ各高持者ノ持高ハ全村石高ノ簡單ナル分數
 ヲナスモノニアラス故ニ何等カ適當ナル方法ヲ案出セサル可カラズ之レ闔組ノ
 制定アル所以ナリ全村石高ヲ適當ナル闔組數ニ分ツ而シテ闔組數ハ各村ニ固有
 ニシテ決シテ増減セラルルコトナシ先ツ全村總石高中ヨリ名高ト稱スルモノヲ
 除ク名高トハ持高ノ極メテ僅小ナルヲ云ヒ(少ナキハ石數五合ナルアリ)之レヲ交
 フル時ハ分配計算ノ困難甚タシキカ故ニ先ツ之レヲ總石高中ヨリ除去スルナリ
 其殘高ヲ闔組數ヲ以テ除シ其得タル石高ハ一闔組ノ石高ニシテ之レニ等シキ高
 持者ハ一闔組ヲ受ケ之レニ超過スルモノハ一闔組ノ石高(又ハ其倍數)ヲ除ケル端

數ヲ他ノ之レニ滿タザルモノト配合シテ一團組ヲ組織ス團組ノ代表者ヲ團親又ハ團頭ト云フ一團組ガ多數持高者ニ屬スル場合ニハ最多額者ヲ以テ之レニ充ツ團組ヲ組織スル高持者ノ組ミ合セハ割替ニ先チテ行ヒ所謂團組帳ナルモノヲ作ル之レ分配上極メテ必要ナルモノナリ蓋シ分配上ノ權利ノ表示ハ之レニ依ルヲ以テナリ而シテ此ノ作製ガ品々帳ヲ基本トスルハ既ニ屢々述ベタル所ナリ又後ニ述ブルガ如ク小面積ニシテ團組數ニ分割スルニ堪ヘザル土地ニ對シテハ二本團又ハ二本入ト稱シテ其半數ヲ以テ分割シ二團組ヲ合シテ一ツトナスヲ要シキ之レ團組帳作製ニ伴ヒテ二本組帳ヲ作ル所以ナリ而シテ二本組帳ニ於テハ單ニ團親ヲ以テ表示スルノミナリ此等ノ實例ヲ示セハ文化十五年寅二月作製前記長慶寺村高組仕立(即團組帳)並ニ二本組帳ノ内容ニ曰ク

總高

- 一千四拾四石壹斗 長慶寺村
- 内八斗五升八合 名代百姓拾七人(名高)
- 千四拾參石壹斗五升二合 懸持高居屋敷ニ而相渡

團二十六本ニシテ
四拾石壹斗貳升宛

- 一四拾石壹斗貳升 三郎兵衛
- 一四拾石壹斗貳升 同 人
- 一四拾石壹斗貳升 同 人
- 一四拾石壹斗貳升 藤右衛門
- 一四拾石壹斗貳升 同 人

(中略)

- 一四拾石壹斗貳升 次郎兵衛
- 一四拾石壹斗貳升 市郎左衛門

(中略)

- 一三拾八石七斗 磯右衛門
- 一壹石五斗八升 庄助殿
- 一四拾石貳斗八升
- 内四拾石壹斗貳升
- 壹斗六升 副高太兵衛

(中略)

本制度ノ梗概 分割ノ標準

一拾九石六斗九升四合、市耶右衛門
 一貳斗貳升 與三兵衛カ
 一貳石五斗四升 四つ村名ノ略ナラン七
 一壹石 太耶兵衛
 一八斗三升 四耶兵衛
 一五斗 三耶右衛門
 一八石三斗四升 佐兵次
 一六石五斗 長三耶
 一三斗三升九合 懸懸作ヲ意味ス
 一壹斗 與三兵衛
 一四升 新右衛門
 一貳升 宗助
 四拾石壹斗貳升

(中略)

一拾九石四斗 與六耶
 一七石 孫右衛門
 一六石四斗三升四合 久助
 一四石八斗 口左衛門

一貳石 清左衛門
 一五斗 小左衛門
 一八合 助十耶
 四拾石壹斗貳升貳合 内

(下略)

二本入

(中略)

三耶兵衛 三耶兵衛ハ三組ニ相當スル
 同 人 高持者ナルコト以上ノ高組仕
 立ニテ知ラル
 三耶兵衛 助
 次耶兵衛 人
 同 人
 武右衛門
 懸 與三兵衛

(後略)

本制度ノ梗概 分割ノ標準

第三節 役割

田地割制度カ農民ノ自治ニ任セラレ檢地ノ如キモノト全ク其面目ヲ異ニシ藩政ノ干渉容喙スル性質ノモノニアラザリシ事既述ノ如シ殊ニ天保度ノ令ノ出デタル以前ニ於テ然リ天保以後ニ於テモ藩吏ノ之レニ拘ルモノ改作奉行アルノミ而カモ之レ僅ニ監督ヲナスト云フニ止リテ實際ニ於テハ何等交渉ヲ有セザリシナリ割替ニ參與スルモノハ凡テ士分ナラズ左ノ如シ

御扶持人 又惣年寄廻口ト云フ有祿也

十村 又年寄並組主付組才許ト云フ無祿也

新田才許

山廻

蔭聞役

村肝煎 又單ニ肝煎ト云フ

組合頭

分地人 算者トモ云フ

竿取人

竿先麻木指

野帳附

相帳附

相算

役鍛打

縄引

余ガ比較的詳細ナル記載ヲ第二章第三節ニ郡方役人トシテ試ミタルハ本藩農政ノ一般ヲ明ニセントスルニ出デシモ主要ナル目的ハ本制度役割ニ關スル明亮ナル了解ヲ期セシノミ故ニ爰ニ再ヒ説叙セズ就テ見ル可シ

今特ニ本制度ニ關スルモノヲ説明セバ左ノ如シ
改作奉行ノ命ヲ奉シテ直接農民ニ接觸スル御扶持人以下蔭聞役ハ半官半民ノ性質ヲ有シ割替ニ際シテ專ラ監督ノ地位ニ立ツ就中御扶持人及十村直接ニ監督

シ田地割ニ關スル届書報告書等ニ與書シテ改作奉行ニ致スノ責任アルモ割替ニ際シテハ竿初メ及竿上ケノ兩日臨檢スルノミ而カモ交通不便ナル地方ニ於テハ「手代指出」スヲ許サレタリ

新田才許山廻蔭開役ハ割替ニ關スル不正行為隱田ノ有無品々帳ノ錯誤等ヲ監視シ又地力ノ優劣ヲ檢シテ手上高手上免ノ餘地存スルヤ否ヤヲ調査ス

村肝煎組合頭ハ一村ヲ代表シテ責任ヲ帶ヒ村民ノ指揮監督ニカム

割替ノ作業ニ從事スルモノハ分地人以下繩引ニ至ル就中分地人ハ既ニ述ベタルガ如ク一定ノ技術的才能ヲ有シ誓詞シテ之レヲ職トスルモノニシテ割替事務ヲ總攬ス竿取人ハ定書ニ規定セル竿規定ハ二間六寸也時ニ伸縮ヲ許容セリヲ以テ丈量シ其間數ヲ高聲ニ呼ヒ上ゲ分地人ハ之レニ從テ坪數ヲ計算シ之ヲ呼ヒ上グ野帳附ハ關係農民(重ニ闍親)之レニ當リ竿取人分地人ノ呼聲ニ應シテ野帳ヲ作製ス相帳附ハ野帳ノ副ヲ作製スルモノニテ相算ハ分地人ノ計算ニ伴フ共ニ闍親ヨリスルヲ普通トス竿先麻木指ハ農民中ヨリ選拔ス
天保九年ノ令ニ曰ク

一竿先麻木指之儀ハ同苗一統示談之上正直之者相撰指出可申不正直者ハ時々取替可申尤闍親順番相立毎日壹人宛見廻リ可申事

ト以テ察ス可ク竿取人作業ノ補助者ニシテ大麻ノ枯幹ヲ竿毎ニ地上ニ指シ以テ目標トナシ錯誤ナカラシム

役鍛打及繩引トハ村民中下級ノモノ之レニ當リ前者ハ土地ヲ分割スルヤ其番號ノ數ニ應シテ土地ニ鍛ヲ打チ番號ヲ堀リツクルヲ云ヒ繩引トハ竿ニ代フルニ二十間ノ繩ヲ以テスルコトアリ之レニ當ルモノヲ云フ

以上ノ内技術者ニシテ村民ナラザル分地人及竿取人ハ有給ナリ雇傭ニ先チ之レヲ定メ定書ニ記入シテ届出ヅルヲ例トス 天保十年改定書ノ規定ニヨレバ大凡左ノ如シ

一分地人雇料大駄一日式匁 竿取人壹匁五分位

一賄ハ三飯百五拾文宛 外一日ニ百五十文宛座賃高

一宿ハ村方長立者順當ニ可仕事

村民中ヨリ選バレテ直接作業ニ從事スルモノハ内野帳附役鍛打繩引及麻木指

木制度ノ梗概 役割

ノ有給ニシテ人足料トシテ一日百文ヲ給セラル

第四節 割替ノ順序

一、出願

天保度二十年割替ノ令出ヅル以前ハ必要ニ應シテノミ割替ヲ行ヒタルヲ以テ其時至ルヤ一村高持者一同ノ合議ヲ經テ一同ノ署名ニテ出願ヲナス余ガ得タル最古ノ願書ハ元祿七年越中國射水郡西條組北島村ノモノニシテ既ニ第四章第二節(一)ニ載セタル所ノ如シ 爾後ノ願書ニ就テ見ルモ大差ナク年代ヲ逐ウテ郡方役人及村役人ノ制度ノ變遷ニ應シテ置名者宛所ノ移動アルノミ 天保九年割替勵行後同十年七月願書ノ書式ヲ制定セリ村役人ノ外全村高持者一同連署シ之ニ掛作者加入シテ十村御扶持人ニ届出テ十村御扶持人ハ與書印判シテ改作奉行ニ提出ス改作奉行ハ之レヲ檢閲シ裏書シ許可命令ス 今其書式ヲ示セハ左ノ如シ

書付を以御願申上候
草高

一何百何拾石

何郡何村

右私共在所何ノ何年御田地割仕所近年地面劣リ申ニ付御田地持分善惡高下出來仕余荷米過分に相成迷惑仕且年限も相滿申候付當秋稻蒔跡方善整割被仰付被下候様被仰上可被下候然上ハ來年開作手廻に罷成不申様早速割仕可申候爲其百姓中納得之上書付印形仕上之申候以上

何ノ何年何月

何村役人

百姓

掛作

才許宛所
廻リ口宛所

右何組何村御田地割願書付指出申ニ付御達申上候尤御開届之上ハ先達而被仰渡之趣を以取極候定書才許手前え取立候上爲取掛追而右定書指上可申候以上

才許印判

廻リ口印判

御改作御奉行所

(裏書)

表書之通承届候條可致田地割其刻御扶持人等罷出遂見分引地之分居屋敷之外小百姓中納

本制度ノ梗概 割替ノ順序

得之上申上無之様爲割取可申者也

改作奉行
御印
御印

規定以前割替ヲ要ス可キ時ハ次ノ書式ニ依レリ同一ノ手續ヲ經テ許可セラレ

書付を以御願申上候

草高

一何百何拾石

何郡何村

右私共在所基盤割何ノ何年被仰付候所近年用水廻リ等悪敷相成御田地間々善悪高下出来
迷惑仕候ニ付當秋稻蒔跡ヲ基盤割仕度百姓一統納得之上御願申上候尤來春開作手聞不申
様當年中割仕前可申候間願之通御聞届被下候様被仰付可被下候以上

何ノ何年何月

何村役人

百姓

掛作

才許宛所

右何組何村基盤割仕度旨書付指出申ニ付詮議仕候所書付之通相違無御座候ニ付奥書仕御達
申上候間願之通被仰付可被下候以上

才許

廻リ口

御奉行所

(裏書)

表書之通承届ケ候條當秋稻蒔跡ヲ取掛リ可致田地割之刻御扶持人等罷成送見分引地之分
居屋敷之外小百姓中納得之上甲乙無之様綿密ニ爲割取可申候且又取懸リ不申前迄而申
渡置候趣ヲ以取極候定書才許手前え取立候上爲取掛追而右定書役え可指出候事

御奉行所御連名御印

規定ノ割替期ニ達スルモ事情アリテ猶豫ヲ乞フ場合ノ書式ヲ併セ示セハ左ノ
如シ

書付ヲ以申上候

私共在所當年基盤割被仰付被下候様當何月御願申上候所御聞届ニ御座候得共當年立毛悉ク
出付ニ相成損毛蒔入方等相後れ申ニ付來何ノ何年稻蒔跡ヲ基盤割仕度同苗一統納得の上御
願申上候間此段聞届被下候様被仰上可被下候以上

何ノ何年何月

何村役人連名

才許宛所

本制度ノ梗概 割替ノ順序

右何組何村基盤割之儀ニ付書付指出申ニ付詮議仕前手付之通り相違無御座候ニ付奥書仕御
達申上候間願之通り被仰付可被下候以上

才許

廻り口

御改作御奉行所

(裏書)

表書之通承届候事

何ノ何月

改作奉行所印

出願ハ概テ夏季未タ米穀ノ收穫了ラサル以前ニ終リ改作奉行ノ允許ヲ待ツ其
許可命令ハ御扶持人十村ヲ經テ村肝煎ニ達ス爰ニ於テ村役人ハ隣村役人ト連署
ヲ以テ脱税其他隱地等ヨリ來ル不正手段ニ對スル保證ヲナス蓋シ隣村ト相謀リ
村境ニ近キ田畠ノ隱地トナリ脱税スルコトアレハナリ次ニ其書式ヲ示ス

當年何村基盤割被仰付候ニ付領廻リ被成地境曲折杭爲打領境筋御見分ニ付私共御呼出境筋
相違之儀等無之哉等御尋ニ御座候得共境杭之通境筋毛頭相違之儀無御座候万一申合地元隠
置候様之儀御座候ハ、如何様共越度ニ可被仰付候依而私共連名手付ヲ以申上候以止
何ノ何年何月

本村何村役人
隣村何村役人

組才許中

天保九年田地割定書申渡ニ左ノ二條アリ以テ當時ノ狀ヲ窺フ可シ

一、且割取懸以前組主附地割人召連致願廻領境村役人呼出境筋紛無之様地境曲折杭爲
打夫々地割被懸可申事
一右組主附願廻之筋隣村等申合地元隠し置後誰々によらず見出候ニおいては其地元見出候
者之高に可申付候若外詮議義筋ニ而相願候ニおいては取揚手上高に申付双方村役人等殿
重申付候事

二、定書作製

改作奉行ノ許可アルニ及ヒ定書ナルモノヲ作製ス之レ割替ノ基礎ヲナスモノ
ニシテ着手ノ順序各地目分割分配ノ標準方法役割測量ノ方法等一切ヲ舉ケテ漏
ス所ナシ就中最モ重要ナルヲ闡組ノ制定トス之レ所謂品々帳ヨリ配合按排セル
闡組帳ニヨルモノニテ既ニ述ヘタル所ナリ 定書ノ書式ハ天保十年其概畧ヲ定
メタルモ元定書ハ各個ノ村ニツキ其割替期ニ於ケル種々ノ事情ニ適應セル(藩令

本制度ノ梗概 割替ノ順序

ノ範圍内ニ於テ割替ヲナサンカ爲メニ作製スルモノナルカ故ニ個々ノ場合ニヨリ元ヨリ一定セスサレド大體ニ於テハ其揆ヲ一ニスト云フヘシ 天保以前ノモノニアリテハ書式内容雜然トシテ一定セス其例示トシテ射水郡西條組長慶寺村ノ天保度以前ト以後ノモノトヲ掲ケンニ長文ニ失スルヲ以テ別ニ附録トシテ卷末ニ附ス以テ彼我對照ス可シ蓋シ定書ハ本制度ノ内容ヲ最モ明ニ示スモノト云フ可シ

定書ハ十村御扶持人ノ嚴密ナル監査ヲ經テ改作奉行ニ提出セラレ更ニ檢閲セラレテ村肝煎ニ返付セラル

三、竿初メ

定書返付セラレ收穫了リ農民ノ漸ク閑暇ヲ得ルニ及ヒテ割替ヲ開始ス願書ニ「當秋稻蒔跡ヨリ」ト誌セルハ之レナリ概テ十月(舊曆)ヲ以テ着手スルヲ例トス

作業ニ就ク第一日ヲ竿初メト云フ竿初メニハ御扶持人十村及新田才許等臨檢シ定書ニ記載セル分地人及竿取人村役人及他ノ役割者高持者一同參集ノ上十村定書ヲ朗讀シ之レニ對シ異議ナキト割替ニ際シ一同誠實ナル可キトヲ誓ハシム

而シテ當日ハ測量ノ模倣ヲナスノミニテ散會シ實際ノ作業ニ就ク事ナク御扶持人十村及新田才許等ノ監督官ハ竿上ケニ至ルマテ臨檢スルコト稀ニシテ測量分割ノ技術ハ分地人ニ任シ専ラ高持者相互ノ納得ニ依ラシム竿初メノ翌日ヨリ作業ニ從事ス

四、測量及分割

測量及分割ハ竿初メノ翌日ヨリ開始セラル明治四年九月射水郡西條組長慶寺村御田地割定書ニ左ノ一項アリ以テ其狀況ヲ察知ス可シ

一 御田地割中毎日朝六ツ時不違算者宿江相揃同六ツ半時場所江罷出可申 若指支有之難罷出者ハ同苗中江相斷儘成名代指出可申事且又夕七ツ時 過其日切圖引仕翌日割坪等ノ手配いたし置手間取不申様可相心得事 附り役附は不及申圖親之義も毎日不參仕間敷候若罷出不申者有之候 ハ、□□人足貳人爲指出可申事

蓋シ役割ハ既ニ述ヘタルカ如シ

全村ノ土地ヲ分ツテ左ノ七類トス

本制度ノ梗概 割替ノ順序

- 一、屋敷地
- 二、田地
- 三、畠地
- 四、總地
- 五、用水路及道路
- 六、雜地
- 七、不生產地

〔總地〕トハ田地及畠地ヲ測量分割スル際生スル端地若クハ分割ニ堪ヘサル小面積ノ生産地ナリ雜地トハ野毛地川畔等ヲ指ス不生產地トハ池沼濕地宮社寺地三味墓地等ヲ指ス

右ノ地類ハ凡テ割替ニ際シ測量區劃セラル、モ實際分割セラル、ハ田地及畠地時トシテ雜地ニシテ屋敷地ハ分割セラル、コトナシ總地ハ分割ニ堪ヘス雜地ハ時トシテ分割使用セラレ時トシテ共同ニ或ハ特定者ニ使用セララル不生產地ハ全ク放棄セラル用水路及道路ハ其幅員ヲ定メテ分割ヨリ全ク除外セラル村大道

八歩作通道五歩躡歩三步(爰ニ歩トハ一間ノ十分ノ一ヲ指ス)ト定ムルカ如シ

測量分割ハ田地畠地屋敷地其他ノ地類ノ順序ニ行ハル

(一)田地畠地ノ測量分割

田地畠地共ニ其地味位置ニ從テ細別シ字何々割ト稱ス一字割中ニテモ又更ニ分別シテ一番割二番割等トナス各字割番割ハ圍組數ニ分割セラル、ヲ原則トス分地人ハ定書ニ規定スル順序ヲ以テ各割ヲ追ウテ其面積ヲ測量シ一圍組ノ受ク可キ坪數ト地味ノ平均及ヒ分割ノ便宜等ヲ參酌シテ適宜圍組數ニ分割ヲ行ヒ杭ヲ以テ境界トシ之レニ土ヲ盛テ畦トシ役鍬打ヲシテ各部分ニ番號數丈ケ鍬ヲ打タシム斯クノ如クニシテ野帳本帳相帳ノ二部作製セラル享和元年越中國射水郡西條組長慶寺村御田地割野帳ノ内容ノ一斑ヲ示セハ左ノ如シ

十月一日竿初

(字割名)

古高三百六拾歩割東長江境壁にして

西口ヨリ

(宮藏セル圖表)

本制度ノ梗概

割替ノ順序

壹番	貳番	參番	四番	五番	六番	七番	八番
七間貳間四步	百九拾四步貳厘 百六拾四步 八貳拾六步八厘 七貳拾九步八厘	六間八步四七厘 五間九步	六間	六間七間五厘 五間貳步五厘	五間六間八厘 六間三間四厘	五間六間九厘 六間三間八厘	五間八步 六間八步
次郎兵衛	四郎兵衛 太郎兵衛	三郎兵衛	孫右衛門 孫右衛門	久兵衛	三郎兵衛		

九番	十番	十一番	十二番	十三番	十四番	十五番	十六番	十七番	十八番
六間六步六厘 五間四步八厘	五間四步八厘 六間四步六厘	五間七間三厘 六間貳步八厘	五間四步貳厘 六間四步貳厘	同間	五間九步六厘 六間九步六厘	五間九步八厘 六間九步八厘	五間九步六厘 六間九步六厘	五間七間四厘 六間七間四厘	五間六間 六間六間
三郎兵衛	藤三郎 藤右衛門	長八郎 藤右衛門	忠右衛門 長八郎	四郎三郎 忠右衛門	文兵衛 文兵衛	久右衛門 久右衛門	庄助 庄助	太兵衛 太兵衛	

本制度ノ梗概 割替ノ順序

三百三十六步	切打
二十間	
是ハ古川ヘリ方道下切田百步南へ小田敷有	
十九番	宗三郎
五拾六間三部	
六間四步	
二十番	市郎右衛門
五拾四間四步	
六間六步貳厘	
廿一番	仁右衛門
四拾八間八步	
七間三歩八厘	
廿二番	藤右衛門
貳拾八間六步	
拾貳間五歩九厘	
是方古高用水添方南へ割	
廿三番	與三兵衛
四拾五間六步	
七間九歩	
廿四番	市助
五拾壹間三歩	
七間貳厘	
廿五番	二郎兵衛
五拾五間三歩	
六間五歩四厘	

廿六番 五拾七間六厘
六間貳歩五厘

磯右衛門

各割ニ一園組ノ受ク可キ面積ハ田地ニアリテハ普通二百步乃至三百六十步ナルモ時トシテハ四五十步以下ニ下ルコトアリ島地ニアリテハ更ニ小面積ニシテ普通四五十步乃至六十坪ニシテ百步ヲ超ユルコト多カラス二十步ニ過キサルコト少ナカラス且各割ハ園組數ニ分割スルヲ原則トスルモ字割ニシテ小面積ナル時ハ二組ヲ合シテ一トナシ即チ總園組數ノ半ヲ以テ分割スルコトアリ二本園又ハ二本入之レナリ此時ニ際シテハ一園組ノ受クル面積ハ益々縮小セラル上記西條組長慶寺村ニ見ルニ天保十年ノ割替ニ於テハ二十二萬二千九百四十九坪餘ノ田地ヲ六十五ノ字割及番割ニ分テ一萬六千二百一歩餘ノ島地ヲ二十九ノ字割及番割ニ分テリ而シテ園組數ハ二十六ナルヲ以テ田地ニ於テハ一割平均三千四百三十步各割ニ對シ一園組ノ受クル所僅ニ百三十二坪島地ニアリテハ夫レ夫レ五百五十八坪二十一坪餘ニ過キス(以上ハ附錄三ヨリ計算セルモノナリ参照スヘシ)

本制度ノ梗概 割替ノ順序

而カモ一團組ハ必スシモ一農民ニヨリテ組織セラル、コトナク多數ニヨリ成ルヲ常トシ且ツ互ニ割合ヲ異ニシタリキ以テ如何ニ田畠カ細分セラレ且ツ本制度カ如何ニ復雜セルカヲ窺フニ足ル可シ

水田及畠地中ヨリ當然除去ス可キモノ嚮ニ述ヘタル道路用水路ノ外ニ「蔭引」ナルモノアリ之レ屋敷地ニ接近シ日光通風等耕作上不利ナル土地ヲ指スモノニシテ居屋敷ノ東南ハ一間西北ハ二間又ハ二間半トスルヲ例トス植樹ヲ禁止セラル、ハ蓋シ當然ナリ然レトモ山間ノ田地ニシテ日光ノ透通不可ナル地ハ蔭引タルコト能ハサルヲ例トス

測量分割ノ技術ハ之レヲ嚴密ニ言フ時ハ極メテ難ク水田ニアリテハ用水路畦畔ノ關係ヨリ分割後各部ニヨリ水利交通等ノ便否ヲ生ス可ク且ツ面積ニ於テモ均等ナルヲ要シ加之地形必スシテモ常ニ方形ナラス或ハ三角形ヲ呈シ或ハ不正形ヲ呈スルモノアラシク而カモ檢地ニ於ケルカ如ク單ニ其地積ヲ測定算出スルハ易々タル業ナランモ之レヲ一定數ニ等分スルニ至リテハ實ニ容易ノ業ニアラサルナリ 然レトモ本制度ハ其根本ヲ農民相互間ノ納得ニ置キ且ツ分割スルモ其孰

レノ部分カ自己ノ使用而カモ多クハ小作セシム!!!ニ歸スルヤ不明ナルノミナラス之レ永久ノ分割ニアラスシテ二十年後ハ再ヒ割替ヘラルトノ觀念ノ上ニ大體ノ平均ヲ得レハ其測量分割ヲ是認セリト云フ 畠地ニ於テハ田地ニ比シ水利ヲ考察スルヲ要セサルカ故ニ分割稍容易ナリシト云フ

(ロ) 屋敷地ノ測量

屋敷地ハ測量セラル、モ分割セラレザルヲ例トス田畠ノ測量分割了ルニ及ンテ之レニ着手ス 屋敷地ノ測量ハ單ニ其面積ヲ計出スルニ止マリ作業ガ田畠ノ測量ト異ルハ所謂「屋敷打」ニハ竿先鎌切引地圍地ハ竿先麻木指ト稱シ分割セラル、圍地及引地(後出)ハ大麻ノ枯幹ヲ地ニ挿シテ打竿毎ニ目標トスルモ屋敷地ニ於テハ鎌ヲ以テ表土ヲ搔キ目標トナスノミナリ

屋敷地内ノ池沼用水路ハ其總面積中ヨリ除去ス可キモ道路飲料水路用水路畦畔及屋敷地周圍ノ専ラ自家用ニ供スル水路ハ之レヲ總面積中ニ加算スルモノトス而シテ西北二方ハ三步(十分一ハ一間)宛植樹ヲ禁ゼラル

田地割ニ對シ何等ノ權利ナキ無高者即チ頭振以下ノ屋敷地モ亦同様ニ測量セ

ラ此等ノ分配ノ狀況ハ後段ニ述ヘン 寺庵ノ屋敷地ハ初メ全ク除外セラレシ
キ天保度ニ至リ百姓ノ屋敷地ト同様ノ取扱ヲ受クルノ規定トナレリ然レトモ實
際ハ除去セラレタルガ如シ

屋敷地測量ノ野帳ヲ例示スレバ左ノ如シ

文政元年寅八月十日竿初長慶寺村居屋敷外畑割帳

八月十日竿初葦八ツ頃ガ

一七間九歩

南北

一六間九歩

東西

五拾四歩五分壹厘

大耶右衛門屋敷

此分仁右衛門え

(中畧)

二九間貳歩

西東

一五間六歩

南北

五拾壹歩五分貳厘

三右衛門屋敷

内廿三歩五厘 高當リ

廿八歩貳厘 懸孫右衛門え

(中畧)

一六間

北南

一五間三歩

東西

三拾壹歩八厘

平助屋敷

内三拾三歩六分 高當リ

八分 取不足

(後畧)

右ノ例示ハ一ツニ屋敷地測量ノ狀ヲ示スモノナルモ又他方ニ於テハ屋敷地分配
ノ狀ヲ示スモノナリ其説明ハ後段ニ試ミン

五分配

測量分割セラル、ニ從テ直チニ分配セラル一日測量ノ工程ヲ了レバ其夕刻直
チニ分配ヲ行フ時トシテ二日又ハ三日間ニシテ行フ事アリ之レ各自使用ニ供ス
可キ個所ヲ成ル可ク速ニ定ムルハ農業經營上有利ノ事ニ屬スレバナリ

分配ノ標準ガ持高ニアリテ其多寡ヲ適當ニ安排セル閣組ノ代表者ヲ閣親ト呼
ブコト既述ノ如シ閣親ハ抽籤ニヨリテ各割ニツキ番號ヲ定メラル即チ各割ハ閣
組數ニ分割セラレアリテ其各部分ハ畝ヲ以ツテ番號數ヲ掘リツケラレアルヲ以

本制度ノ梗概 割替ノ順序

テ(役)鍛打之也其相符合スル部分ヲ其闇組ノ使用地ト定ムルナリ
 分配ハ全然抽籤ニヨル可ク所謂「引闇望不相成事」ノ規定アリ然レドモ分配後相
 互間任意ノ交換ハ許容セラレタリキ
 抽籤ニ用フル器具ヲ闇金及闇箱トス闇金ハ金屬製ニシテ其數各村ニ固有ナル
 闇組數ニ當ル長サ概テ五寸内外之レニ番號數ヲ刻ス闇箱ハ形狀一ナラズ時トシ
 テ竹筒製ナルモアレド木製箱ヲ普通トスト云フ各村ニヨリ一ナラズ専ラ實用ニ
 適スルモノヲ選ブコノ中ニ闇金ヲ納ム闇箱ニハ小孔アリテコレヨリ闇金ヲ一本
 ツツ振り出スニ便ズ此等ハ常ニ肝煎ノ保管スル所ナリ
 抽籤ハ測量分割一日ノ工程了ルニ從ツテ其地所ニ於テ行ハル雨天ニ際シテハ
 或ハ二三日分ヲ合シテ肝煎宅ニテ行フ當該露地ニテ行フヲ原則トス 分地人闇
 親之レニ立會ヒ闇親中ヨリ一人ヲ選出シテ闇箱ヨリ闇金ヲ振出サシメ闇親ヲシ
 テ順番之レヲ抽カシム自己闇引番ニ當レバ他ノ闇親ヲシテ代リ振ラシム而シテ
 此闇箱ヲ振ル闇親ハ特定ナク時々交代スルモノトス又抽籤スル順序ハ豫メ其持
 高ノ多寡ニ應ジテ之レヲ定メ置キ抽籤ニヨリテ時トシテ其ノ順ニ時トシテ其逆

ニスルヲ定ム

斯クノ如クニシテ御田地割番附帳作製セラル之レ嚮ニ掲ケタル田畠測量分割
 ニ際シ作製スル野帳ニ當籤セル闇親名ヲ記入スルト雖更ニ各割ニ就テ各闇組ノ
 當籤番號ヲ列舉セルモノナリ 安政三年前記西條組長慶寺村御田地割番附帳ニ
 ツキ例示スレハ次ノ如シ

(字割名)

下川原百五十步割

壹	市助
貳	太兵衛
三	磯右衛門
四	太兵衛
五	三郎兵衛
六	太三郎
七	十右衛門
八	次右衛門
九	次郎兵衛
拾	與三兵衛

本制度ノ梗概 割替ノ順序

十一	彦	八
十二	大	三
十三	久	右
十四	太	兵
十五	大	耶
十六	卯	兵
十七	藤	右
十八	同	人
十九	文	右
廿	彌	兵
廿一	久	右
廿二	三	耶
廿三	同	人
廿四	市	耶
廿五	與	六
廿六	長	九

(字割名)
古高三百六拾歩割
貳本入壘番割
〔之レ二本圖分配ノ例也〕

壹	太	兵	衛
貳	與	孫	右
參	三	耶	右
肆	大	耶	右
伍	文	右	兵
陸	長	右	衛
柒	太	右	衛
捌	與	十	右
玖	市	右	衛
十	久	右	衛
十一	次	耶	右
十二	磯	右	衛
十三	三	耶	右

(下略)

〔太兵衛ハ右ノ如ク三圖組分丈ケテ有ス故ニラ
ズ本入壘番割ト合人ニテ更ニ中本分ヲ抽ク
大耶右衛門ハ二圖組丈ケテ有スル
〔久右衛門ニ本入ニテハ一本ヲ抽ク〕
〔久右衛門ノ如シ〕
〔久右衛門次耶兵衛ノ如シ〕

測量分割及分配ノ事業全部終了スルニ及ンデ各圖組ニ御田地割田畑當リ番
附帳ヲ作製ス之レ次回ノ割替期ニ至ルマデノ使用收益ヲナス可キ土地ヲ各持高
者ニ提供スル番附帳即チ臺帳ナルヲ以テ私經濟ニトリテハ極メテ必要ナリ之レ

本制度ノ梗概 割替ノ順序

各字割ニ於ケル自己ノ使用地ノ記帳ナレバナリ而シテ之レヲ臺帳トシテ小作セシムル時ハ之レニ直チニ記入又ハ附札シテ索引ニ便ニス次ニ例示セン

安政三年辰十一月

御田地割田畑三郎兵衛

圖當リ番附帳(朱書)但圖三本分

長慶寺村

六斗七升五合

下川原百五拾步割

(付札)

兵衛

一貳拾貳番

同割

(付札)

長五郎

一廿三番

同割

(付札)

兵次郎

組圖

一四番 壹石三斗八升

古高三百六拾步割貳本入

一拾貳番

同割

(下略)

右ニ掲ゲタルハ三郎兵衛ナル百姓ノ圖當リ番號帳ニシテ同人ハ三本分ヲ有セシガ故ニ下川原百五拾步割ニ於テハ五、二十二、二十三ノ三本ヲ得古高三百六十步割ニテハ二本入ナルヲ以テ拾貳番全部ト四番ヲ他ノ圖組ト入組圖トシテ得タルナリ之レヲ前ニ掲ゲタル御田地割番附帳ニ對比セバ明亮トナル可シ六斗七升五合又ハ一石三斗八升トアルハ其字割ニ對スル小作料ニシテ合盛ト云フ之レナリ後ニ説ク。

付札ニ長五郎兵次郎トアルハ其地ヲ是等ニ小作セシメタルヲ記セシニテ以テ圖當リ番附帳ガ私經濟ニ用ヒラレタルヲ見ル可シ

斯クノ如ク田畠ハ圖組ニ平等ニ分配セラル、ヤ更ニ圖組ヲ組織スル農民ニ其持高ニ從テ分配セラル之レ田分地帳ノアル所以ニシテ村役人之レヲ保管シ他日切高等アル際之レニ準據セリ
屋敷地ハ其性質上分割移轉セラル可キモノニアラズ故ニ農民間ノ權利義務ノ均衡ヲ得シムルニハ特別ノ方法ヲ案出セサル可カラズ而シテ又一圖組ヲ組織スルモノハ必ズシモ一農民ニアラズシテ却テ寧ロ多數ノ農民ニヨルヲ常トシ而カモ相互ノ權利ハ單純ナル比ヲナサズ故ニ一圖組ノ受ケタル土地ヲ更ニ分割スル

本制度ノ梗概 割替ノ順序

方法ノ困難ニ對シ或ハ又田地畠地ニシテ分割ニ堪ヘサル小面積ノ端地即チ總地ノ使用ニ對シ或ハ又所謂名高ト稱スルカ如キ極メテ小許ノ持高ニ對シ特別ノ方法ヲ案出セサル可カラス之レ合盛ナルモノノアル所以ナリ

合盛トハ小作料ノ意ニシテ土地ノ生産ヨリ勞力及資本ヘ對スル報酬並ニ企業利得ヲ除去セル殘額即チ過去ニ投入セル資本及土地ノ自然的報酬ヲ指スモノニシテ地主トシテ要求ス可キ部分ヲ云ヒ本藩ニ於テハ小作者ハ之レヨリ以上ヲ要求セラル、コトナク又之レ以下ニ免除セラル、コトナシ故ニ自作ニヨラスシテ小作セシムルニ於テハ高持トハ單ニ合盛ヲ受クルト云フニ止マルノミ 合盛ハ測量ニ伴ヒ各地所ニ就キ一々從前ノ合盛ヲ參酌シ其生産力ニ從ヒ高持者一同ノ協議ノ下ニ決定ス何合何勾ト稱シ一坪ニ對スル量ヲ以テ示ス前掲圖當リ番號帳ニ六斗七升五合或ハ壹石三斗八升トアルハ夫レ夫レ下川原百五十步割及古高三百六拾步割ノ二字割ノ合盛ナリ即チ前者ニアリテハ一坪ノ合盛四合五勺後者ニアリテハ三合八勺三三餘ニ當ル圖當リ番號帳ニ各字割ニ一步當リ合盛ヲ併記シテ計算ニ便ニスル場合アリ 其ノ算定ノ嚴密ニシテ且ツ合議的ナルハ一ツハ各

字割ノ分割ノ標準トナリ持高者間權利ノ均衡ヲ得シムルニアルカ故ト他方ニアリテハ小作者ノ負擔ノ決定ナレハナリ合盛ヲ引上ントスルハ小作セシムル高持者ニシテ之レニ反抗スルハ小作者ナリ而カモ高持者カ常ニ優秀ノ地歩ヲ占ムルハ自然ノ勢ナリ故ニ合盛ノ算定ニ對シテハ藩政時々訓令ヲ出セリ

合盛ハ持高者ノ權利ヲ數量的ニ表示スルモノナリ故ニ之レヲ以テ分配上ノ凡テノ困難ニ供フ屋敷地ノ分割交換行ハレ難ク且ツ獨リ高持者間其持高ニ比例スル坪數ヲ享有セサルノミナラス無高者ト雖又居住ノ地ナカル可カラズ故ニ屋敷地ノ合盛ヲ定メ豫メ各村定ムル所ノ持高ニ對スル屋敷地ノ面積(附錄ニ示ス前記數割拾石高ニ百二十步宛トアルカ如シ)ニ實際使用スル坪數ノ超過スル時ハコレニ相當スル合盛ヲ出シ足ラサル時ハ之レニ相當スル合盛ヲ受ク即チ無高持ナル頭振ニ至リテハ其ノ屋敷地全部ノ合盛ヲ出サ、ル可カラサルナリ嚮ニ掲ケタル「屋敷地野帳」ニ

五拾四步五分壹厘

次郎右衛門屋敷

此分仁右衛門

本制度ノ梗概 割替ノ順序

トアルハ頭振ナル次郎右衛門ハ其屋敷地五拾四步餘全部ノ合盛ヲ仁右衛門ニ支拂フ可キヲ示ス又

内廿三歩五分 高當リ 三右衛門屋敷

内廿三歩五分 高當リ

廿八歩貳厘 懸孫右衛門

トアルハ三右衛門ノ持高ハ屋敷地下シテ二十三歩五分ヲ要求スルヲ得故ニ餘分ノ屋敷地二十八歩貳厘ニ對シテハ懸作者ナル孫右衛門ハ其合盛ヲ以テ仕拂フ可キヲ示ス又

内三拾一步八厘 平助屋敷

内三拾三歩六分 高當リ

八分 取不足

トアルハ平助ハ其持高ニ相當スル面積ニ滿タサル屋敷地ヲ使用スルカ故ニ不足分ナル八分丈ケハ他ヨリ合盛ノ形ヲ以テ補給セラル可キヲ示セルナリ

又所謂名高屋敷地ニテ相與ヘ下稱シ闔組ヲ作ルニハ餘リニ少量ナル持高

即チ名高——ニ對シテハ田島等ノ生産地ヲ以テ與ヘス屋敷地ヲ與ヘテ損失ナカラシム此等ノ計算ハ合盛ヲ以テ換算ス 合盛ノ制度ハ又總地使用ニ供セラル地ニ對シテハ全高持者ハ尙各自ノ持高ニ應シテ使用權ヲ有スルナリ而カモ實際分割ニ堪ヘサルモノナルカ故ニ特定者ニ耕作セシメ之レヨリ合盛ヲ徴シテ高持者間ニ分配ス

一字割カ闔組數ニ分割セラレ各部分ハ其闔組ヲ組織スルモノニ屬ス之レヲ更ニ其權利ニ應シテ分配セザル可カラズ之レ頗ル煩雜ナリ殊ニ一字割カ小面積ニ過ツル時ハ二闔ト唱ヘ闔組數ノ半ヲ以テ分割シ各部分ヲ二闔組ガ使用スルコトナルヲ以テ實際分割上頗ル困難ナリ故ニ此ノ煩ニ堪ヘスシテ實際ハ分割ヲ行ハス他ノ字割ニ於ケルモノト交換シテ耕作セシモノ少ナカラサリシト云フ即チ此等ノ計算ハ凡テ合盛ヲ以テ相互ノ損益ナキヲ期シタリ 斯クノ如キ複雑ナル計算ニハ村算盤ト稱シ巨大ナル算盤ヲ用キタリ 卷首ニ附セル寫真ハ其一例ナリ

斯クノ如キ分割分配法ニヨリタルヲ以テ農地交又ト農地細分トノ現象甚シク

一人ニテ其分配セラレタル地一村内數百箇所ニ渡ルコト稀ナラズ自己ノ分配地カ何處ナルヤ知ラサルモノアリ又數坪ニ過ギザル田畑相隣シテ存スルハ決シテ稀有ナラス殊ニ畠地ニ於テハ然リトセリ

土地分配上特種ノ制度アリ之レヲ「引地」ト言フ抽籤法ニヨル田地割制度ハ農民ノ便否ヲ顧慮スルコトナク屋敷地以外特定地ノ使用ヲ許サズ抽籤ニヨル偶然ノ結果ガ無上ノ權威ヲ有セシナリ故ニ農業經營上不便少ナカラス殊ニ苗代田ノ如ク朝夕管理ヲ要スルモノニアリテハ住家ト離隔スルハ極メテ不便ナリ之レ引地發生ノ一因ナリ使用地移動ニ伴フ經營上ノ不利——殊ニ苗代ノ如ク特別ノ注意ト資本勢力ノ投入ヲ要シ而カモ此等ノ効果數年ニ渡ルモノニ於テ——ニ反抗セル私有主義使用地固定主義ノ發動ヲ見タリ之レ引地發生ノ他ノ一因ナリ然ラハ引地トハ如何ニト云フニ高持者相互ノ任意納得ヲ以テ持高ニ比例シテ抽籤分配ニ先チ各自ノ好ム處ニ從テ先取セシメタル地ヲ言フ各自經營上ノ便宜ト地味ノ優秀ハ其選擇ノ標的ニシテ遂ニ全ク割替ニ遭遇セサル私有地ノ觀ヲ呈セリ

斯クノ如キ引地ハ天保度ノ改革ニ際シ特ニ「苗代引地」ナル名目ヲ附セラレ其制限勵行セラルルニ至リシ以前ハ地方ニヨリ一定セス大高持者ノ專横ニヨリ一般農民ノ困難甚ダシキモノアリ文政二年ノ布令之レヲ證ス曰ク

田地割之儀者夫夫作法も有之一村之高甲乙を平均し候ために而於改作方ニ者大切之儀に候處中に者高嵩致所持候者ハ貳番割杯名目を附引地多いたし候様之族も有之體隨而算用方紛敷族も有之様粗相聞江別而加州筋者右之爲體多有之様及聞沙汰之限に候畢竟御扶持人並才許出役いたしなから右様之儀致出來候儀者心得方等閑之族も有之故存候作法之通少も不分明の儀無之嚴重相心得可申候如斯申渡候上等閑之族有之に者急度答可申付候事

(文政二年)卯二月

改作奉行

諸郡御扶持人

十村中

本制度ノ梗概 割替ノ順序

天保九年諸制度勵行ニ伴ヒ引地モ亦規定ノ持高百石ニツキ六反ノ割合ヲ以テ
ス可キヲ勵行セラル天保九年申渡ニ曰ク

一引田之儀是迄色々煩敷引田致候村々も有之體以來屋敷ノ外苗代田御定之
通百石に付六反之割を以て持高に應し引地可致其餘引田堅く不相成不殘闕
田之儀は勝手次第之事

引地ハ一度決定スル時ハ他ニ移動スルヲ許サス且ツ相互間ノ交換モ許サレザ
ルヲ例トセリ引地發生ノ起因カ專ラ水田ニ係リ天保九年ノ布令ニモ苗代田ナル
名目ヲ附セラルルカ如ク其初メ田地ニ限ラレタルカ如キモ使用地固定ハ多クノ
利便ヲ齎スカ故ニ畠地多キ地方ニ於テハ田引地以外畑引地許容セラレタリ其面
積制限ノ標準ハ合盛計算法ヲ應用シ引田ノ合盛ニ準スル畠地ヲ以テセリ天保九
年ノ勵行ニ際シ同年五月御扶持人連名ヲ以テ改作奉行ニ願出テ許可セラレタ
ル文書左ノ如シ

御田地割之節百姓中引地ノ儀以來屋敷之外苗代田御定之通百石ニ付六反之割を以持高に
應し引地可致其餘引田堅く不相成旨去年十一月一統江被仰渡置奉得其意候就夫山方等如多之

村方ニ而ハ前々方右割合通御田地而己ニ而ハ引地仕不申ニ付知ニ而も致引地來申候依而ケ
様之村方ニ而ハ是已後も畑引地爲致度奉存候併畑引地之大數極無御座而ハ不相成候間引地
合盛を以百石ニ六反之割合ニ相當リ候程之合盛米之内ニ而田地引地去殘合盛米程を畑引
地ニ爲仕度奉存候畑引地儀も多分ハ前々方人々勝手之ケ所引尻ニ而引來申儀ニ付前段之通
被仰付置候得ハ引地之儀ハ別而手全入念ニ相心得自然而地味取直之爲も可相成儀より奉存
候ニ付私共詮儀之趣御達申上候間猶更御指圖被仰渡被下度候以上

亥五月(天保十年)

御扶持人連名

御改作御奉行所

(付札)

本文之通承届候事

此趨勢ハ遂ニ規定以外ノ引地ヲ招來シ嚮ニ本制度持續ノ所縁ト割替期トヲ論
シテ遂ニ純然タル私有地ノ觀ヲ呈セルモノアリシヲ述ベタルカ如ク畠地多キ地
方ニ於テハ本制度ノ廢滅ヲ見タリ蓋シ一面ヨリ觀察スル時ハ本制度ノ廢滅ハ引
地カ極限ニ達セルヲ意味スレハナリ而シテ左ノ文書ハ此趨勢ヲ明示スルモノナ
リ曰ク

、、就夫先達而御郡ニ而五ヶ山並銀納皆畑所村々は引地之儀在來通仕候儀御開届請置申

本制度ノ梗概 割替ノ順序